

丹波徳
氷上郡
上巻
卷十四

京都府立総合資料館所蔵



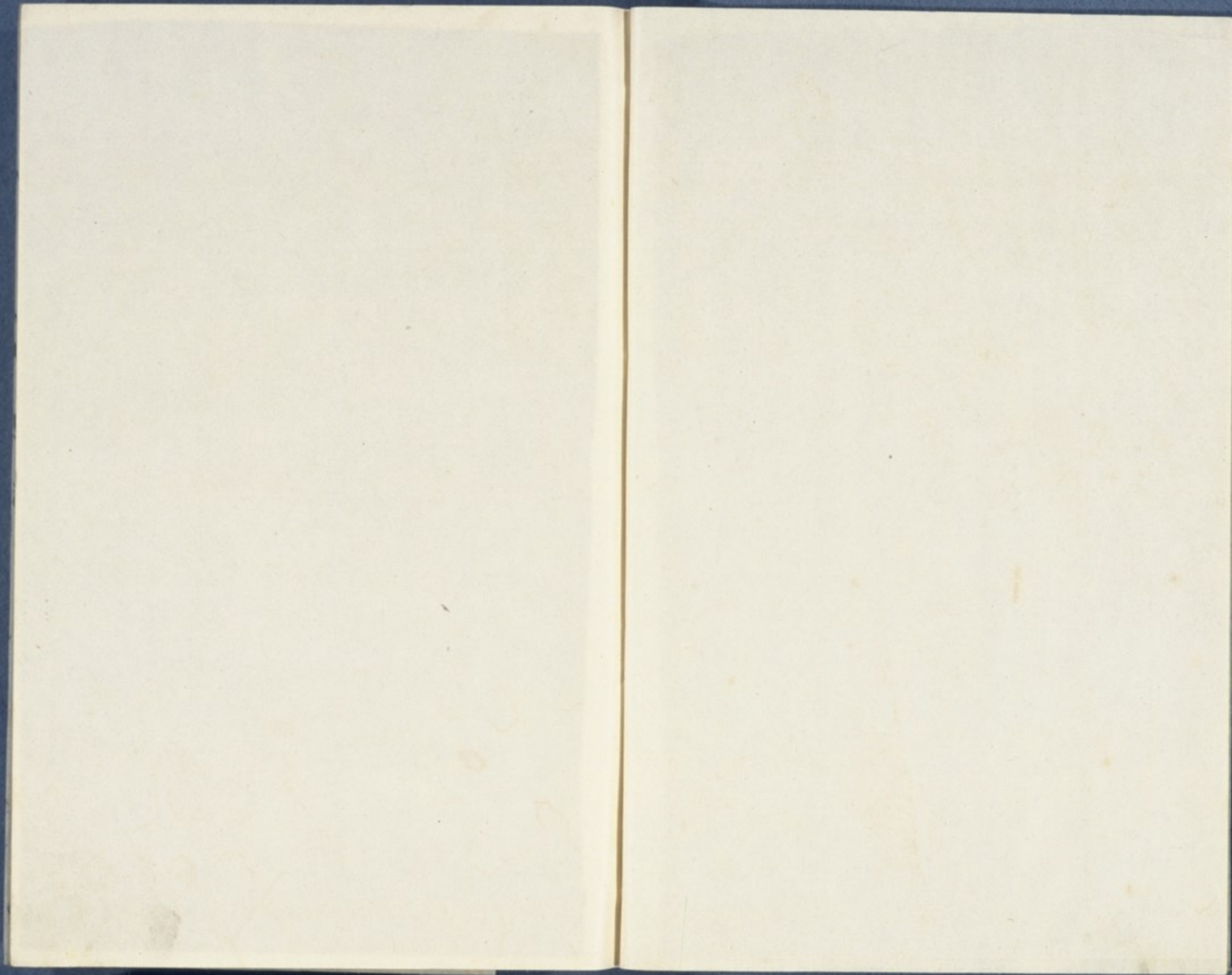
持
992
31
14

○北村先生編 丹波誌 一部拾五卷
先生に請ひて二部を淨寫し
京都帝國大學圖書館と京都
府立圖書館に各一部を寄託
す

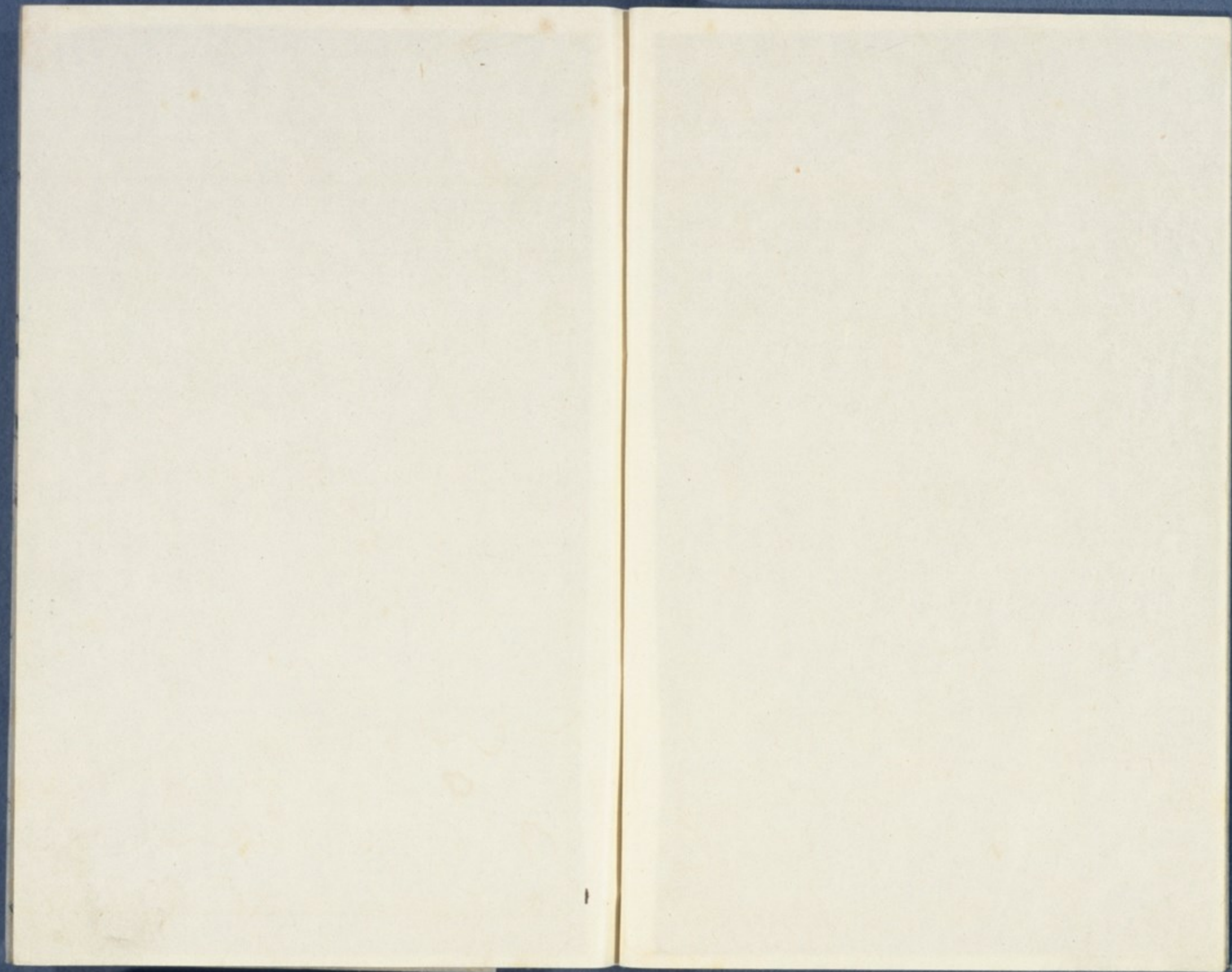
大正拾四年七月一日

北村龍象先生喜壽會

(北村先生喜壽會結末報告書を添附す)



京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵

丹波誌

氷上郡

本郡ハ名稱ヲ幸世村ノ字ヨリ取ル地位ハ國ノ西
 端ニアリテ東南多紀郡ニ接シ西方僅ニ但馬ノ朝
 來郡ニ交ハリ西南播磨ノ多可郡ニ連ナリ北ヨリ
 東ニ廻リテ天田郡ニ界ス國疆ニ郡界ニ千峰相聯
 ナリ到ル處地勢峻峻ナリ栢原遠坂ノ間佐治川一
 帯沿岸幅頓十町乃至羊里長サ五里ノ細長形沃野
 アリテ米麥ニ適シ黒井ニ南北十町東西ニ里ノ野
 アリテ亦穀菜ノ産優ナリ外ニモ多少ノ平野アレ
 ドモ狹長ナリ北方五臺山及ビ愛宕山ノ脈竊地勢
 ヲ隔斷シテ南走シ石生ニ至ル是ヲ以テ山東山西

ノ福起コリ交通不便ニシテ古來他國ノ親ヲ爲シ
 相往來スルコト少カリキ山東ハ南高ク山西ハ北
 高ク山東ノ水ハ衆流相集マリテ丹後ニ出テ北海
 ニ注ギ山西ノ水ハ衆流相集マリテ播磨ニ下リ南
 海ニ注グ山東山西ノニ線路ヲ一括スルノ市街ハ
 本郡ニ在ラズシテ却テ之ヲ隣郡ニ見ル一ヲ篠山
 トシ一ヲ福知山トス故ニ二市街ノ盛況ハ本郡ノ
 與カル所ナリ和名抄ニ比加三ト書キ十一郷ニ分
 テリ其ノ郡名トナレルハ天武天皇ノ朝ト云フ

木	前山	佐木	佐末	竹田	美和	春部	加茂	加徳	船城	布
餘	佐治	伊中	加茂	氷上	比加美	石生	伊善布			

夫木集
 幅員 東西九七里南北九九里周圍屈曲延長九三
 十里ナラシトス面積三十一方里



丹波志

京都府立総合資料館所蔵



東西二縣之分ラレ古文書アリ

東縣

栗作 舉田 石原 船城 春部 美和 竹田
 前山

西縣

佐治 伊中 加茂 氷上 石前 葛野 沼貫
 井原

郷莊村名 氷上郡四莊五十三村

。葛野莊十九村 大岡村 黒田村 上ヶ成松村 柳芝

村 長野 大谷 三原 三方 中村 下村
 中野 上新庄 下新庄 常樂 横田 氷間下
 市部

京都府立総合資料館所蔵

〇活貫庄	十一村	新御	谷村	本御	箱継	見田
箱畑	佐野	小野	油利	朝坂	邊田	
〇和田庄	十七村	和田	北和田	應地	福田	草
部	梶村	前川	小新屋	小野尻	富田	若
林	奥野尻	西谷	小畑	福本	五ヶ野	坂
〇井原庄	六村	井原	林森	岩屋	奥村	野坂
中村						
佐治郷	二十村	(庄無し)	山西ト稱ス			
佐治	小倉	市原	檜倉	箱土	文室	惣持
小稗	大稗	大名草	中佐治	山垣	遠坂	
小和田	口塩久	奥塩久	田井繩	東蘆田		

粟住野 西蘆田

春日御 一二春日御ニ作ル 古七村近時十七村ニ分ル又別ニ
 妙光山神祀寺ヲ加フ

和田具村	廣瀬村	栢森村	上三井庄村	中
山村	中村	長谷村	棚原村	野村
村	柳津村	鹿場村	木知村	多田村
市村				七日
本郡ハ大嘗祭ノ主基ノ御地ナリ故ニ主基風土記 名所アリテ御歌題トナル				
上田村	金山	岡倉山	稻疇村	玉遷山
心				
樂里	千田村	稻津村	常楽村	竹田村
式内神社	十七座	高坐	狭宮	新田
				岫部

京都府立総合資料館所蔵

知乃 伊尾 佐治 阿陀岡 楠縫 芥田 兵

主 新居 奴々伎 蘆井 加和良 伊都伎

神野 神社數二百六十九 末社ハ與カラス 寛政年間

調査 寺院數二百二十四 小菴過堂ハ與カラス 同

東經百三十四度五十五分ニ起コリ百三十五度十

三分ニ終ル 北緯三十五度六分ヨリ起コリ三十

五度七分ニ終ル 氣候 極暑華氏九十度内外ヲ平均トシ極寒ハ四

十度内外ヲ平均トス 霧雪 他郡ニ同ジク秋末ヨリ春季ニ至ルノ間ハ

旭光ヲ看ル稀ナリ 雪ハ平地四五寸山地ニ至リ

テハ尺餘ニ及ブ西北郡境ハヨリ多シ 元治元年

雪ニ尺五寸越中富山藁屋凍死ス古代ニ於テハ全

郡一大猪水ナリシ 原野ハ葛野村ノ長野吉見村ノ柏原新井村ノ新山

野トス 宿驛トシテハ柏原成松佐治黒井上田トス有名ノ

地トシテハ和田谷川國領竹田下瀧市嶋石生ヲ加

道路 第一線 但馬因幡等ヨリ大阪ニ通スルモ

ノ延長八里 第二線 姫路地方ヨリ福知山ニ通スルモ

京都府立総合資料館所蔵

、延長九里餘

第三線 播磨、高砂ヨリ福知山ニ通ル

モノ延長六里餘

第四線 大阪ヨリ福知山ニ通ルモノ延

長三里餘

第五線 久下村ニ始マリ柏原町ニ終ルモ

ノ延長二里餘

山 弘浪山 葛野白山 活貫大箕山 神樂高見山 活貫

妙高山 鴨庄 萬松山 上久下 五台山 幸世 清水山 柏

原 金山 柏原 愛宕山 幸世 讓葉山 柏原 竹林山 久

下 栗ヶ峰 神樂三國山 神樂城山 馬井 篠ヶ峰 葛

野 天神山 春日部

川 竹田川 延長九里 山東ノ大川トス 源ヲ多

紀郡北河内村ノ山谷トス 黒井川三輪川鴨

庄川余田川ヲ入レ北方ノ下竹田村ヨリ天田

郡ニ入り福知川ノ上流トナル

佐治川 延長十一里餘 山西ノ大川トス

久下川 延長二里餘 多紀郡ヨリ来リ佐治

川ニ合フ

柏原川 延長二里半 上小倉村ヨリ登シ柏

原ノ南ヲ過キ佐治川ニ入ル

遠坂川 延長二里十四町 遠坂山ヨリ登シ

佐治川ニ入ル

鴨庄川 延長一里二十一町 鴨庄村山中ヨ

リ 榮レ 竹田川ニ入ル	牧山川 延長一里十二町	并 狭ノ 利便 蘆田村ヨリ 狭スバク 本郷村ヨリ 并	スバレ 播磨ニ下ルノ 便アリ	村 數 正保年間 百五十二村 元祿年間 百七	十一村 明治一町二十五村	高 正保年間 六萬三千九百五十六石一斗八升	九合	元祿年間 六萬四千百六十九石四斗五升七	合	寛政年間 六萬四千八百十三石一斗六合一	文久年間
-------------	-------------	----------------------------	----------------	------------------------	--------------	-----------------------	----	---------------------	---	---------------------	------

戸 數 明治二十五年 壹萬五千八百三十 同四十年 壹萬	五 千 七 百 〇 六	人 口 明治二十五年 七萬五千二百十二 同二十七年 七萬	二 千 三 百 五 十 一 同四十年 七萬八千五百四十	五 内 男 三 萬 九 千 九 百 四 十 七 女 三 萬 八 千 五 百 九 十 八	業 務 四十年 農 七 千 二 百 〇 二 人 兼業者 三千六百七	十 五 人	高 一 千 四 百 二 十 六 人 兼業者 一千四百五十	九 人	工 五 百 五 十 一 人 兼業者 六百五十五人	漁 二 十 九 兼業者 五十人
-----------------------------	-------------	------------------------------	-----------------------------	---	-----------------------------------	-------	------------------------------	-----	--------------------------	-----------------

京都府立総合資料館所蔵

錮 百六十六人 兼業者 二百六十二人
無職 二百二十九人

寒天製造人の丹波男ヲ無クレバ身抱カ出来マセ
テ殊ニ氷上人カ善クヤリマス夫故撰肆カラモ探
レニ来マス

霜ニ一枚氷ニ一枚冬ヲ産ネテ着ル布子ナンド歌
ヒツ、働キマス云々瓊脂製造家主人ノ話

地目 田六千二百七十一町一畝 此ノ地價二百
四十八萬八千四百三十三圓
畑二千一百七十三町六畝 此ノ地價三十
一萬四千四百三十九圓
宅地五百五十六町七畝 此ノ地價二十四

萬一千四百十五圓

山林壹萬七千七百四十七町五畝 此ノ地

價七萬〇四百九十圓

原野壹百四十九町七畝 此ノ地價七百三

十七圓

其他三町八畝 此ノ地價五十五圓

計二萬六千八百九十九町三畝 此ノ地價三百

拾壹萬五千五百六十九圓

民有免租地 二百五十八町四畝

國有保安林 六十一町六畝

國有普通林 四百四十二町一畝

收穫米 拾壹萬六千八百九十三石 四十一年

京都府立総合資料館所蔵

米作田 六十一町步 麥 四千二百九十四町九

段 粟 一千四百二十八町二段 茶 二千三百町

六段

地價所有 金拾萬七千五百八十圓六十三錢七厘

壹萬圓以上所有者二人 十圓以上所有者二

十六人

產物中久下石生ノ米ヲ上等トス粟ハ到ル處ニア

崇神天皇六十年 癸未遣吉備津彥往誅出雲振根詔

曰武日照命出雲國從天持來神寶藏于出雲太神宮是

欲見焉則遣矢田部造遠祖武諸隅而使敵當是時出

雲臣之遠祖出雲振根主千神寶是往筑紫國而不遇

焉而其弟飯入根則被皇命以神寶附弟甘美韓日狹

與子鴉濡濟而貢上既而此雲振根從筑紫還來之間

神寶藏于朝廷責其弟飯入根曰數日當待何恐之乎

輒許神寶是以既經年月猶懷忿恨有殺弟之志歎弟

曰頃日於止屋洲多生荖願共行欲見則隨兄而行之

先見兄竊作木刀形似真刀當時自佩之弟佩真刀共

到洲頭兄謂弟曰洲水有冷頭於泳弟從兄言各解佩

刀置洲邊沐於水中乃兄先上陸取弟真刀自佩後弟

驚而取兄木刀共相擊笑弟不得拔木刀兄擊弟飯入

根而殺之故時人歌之

椰句毛多菟八雲立伊頭毛出雲多難流桑野餓波

鷄流岬多知太刀多頭邏葛佐波新麻枳經佐微船

丹 皮 志

那辭 阿波禮可吟

於是甘美韓曰狹鷗濡濟參向朝廷曲奏其狀則遣吉備津彥與武瀆河別以誅出雲振根故出雲臣等畏是事不祭本神而有間時丹波氷上人名香戶邊啓于皇太子活目尊曰已子有小兒而自然言之

玉葦鎮 欲言出雲之祭也 出雲人祭 真種之甘美鏡

押羽振 甘美御神 底寶 御寶主 山河之

水泳 御魂 蘇柱 甘美御神 底寶 御寶

主也

是以小兒之言若有託言乎於是皇太子奏于天皇則敕之使祭

氷上真人ノ姓尸ハ天武天皇ノ皇子新田部王ヨリ

出ヅ氷上真人氷上娘ノ文字爾後史上ニ見エ

丹波國氷上郡産十二角犢 天武天皇白鳳十三年

國ハ丹州氷上郡親ハ代々殺生師親ノ殺ガ子ニ殺

ヲ見ルモ後生見ラル、モ後生ト木戸ニテ唱ハ不

具者ヲ見セ物ニシタルハ明治維新マデ京都ノ誓

願寺今ノ新京極ソノ物ニハ慶ハリアリトモ見セ

モノ、口上ハ千遍一律ナル故ニ人ヲシテ氷上郡

ハ鬼國ト波、ニテノ恐口敷キ所ナル意味ヲ心頭ニ

印象セシメ奉公人トシテ京都ニ出ルモノモ其ノ

抱、人ノ少キヲ卿タニメタリキ何故斯カル汚名

ヲ此ノ地方ニ冠ラニメタル耶ト問フニ古來揃ハ

又モノヲ片輪ト云フ上村アレバ下村アル如ク上

京都府立総合資料館所蔵

下相對スバキニ本郡ニハ氷上村アリテ氷下村ハ
 無シ從テ氷上郡アレド氷下郡ハ無シ是レ不具
 者タル所以ナリト答テ交通不便ナルヨリ京都カ
 ラハ不具國程セラレタルハ是非モ無キ 維新以
 來交通頻繁トナリ右ノ不名譽ハ一洗セラレタル
 モ淳風ノ打破セラレタルハ惜ムベキ極ニコレ
 アリ
 開化風吹キ渡ルノ産キ地方ヲ此ノ國ニ求メバ
 第一ヲ此桑田郡トシ第二ヲ本郡トスベシ貯蓄心
 ノ強靱ナルハ本郡ニ及ブモノ少カラシ 彈力性ノ
 寡キハ其ノ弊乎
 上巳端午ノ節供ニ雞大將人形ヲ飾ル家ハ極メテ

少敷ニシテ他郡ニ比例スバクモアラズ	仁明天皇ノ時ニ本郡空間ノ地二十町ヲ内親王ニ	賜ハリ 南北朝ノ時ニ仁木江田分領ス 戦國ノ	時ニハ波多野久下赤井等アリ遂ニ波多野ニ歸シ	織田豊臣ヲ經テ徳川氏ニ至リ大名 噴名ハ一大名遙	領五朝臣遙領一旗下士領二十三幕府直轄一トナ	ル維新後郡制立テ今ノ治政トナル	町村名 部落名	柏原町 大字 柏原 領家 多田 奥 見長	小倉 ^{上中} _{下中} 室屋 小南 譽田 鴨野 北山 田路	田坪	黒井村 大字 黒井村 平松村 古河村 箱塚
-------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------	-----------------	---------	----------------------	--	----	-----------------------

吉見村	大字	野村	上田村	振尾村	上垣村	北岡
小川村	大字	本村	南中村	岩屋村	奥村	野坂村
新井村	大字	井原村	村森村	北山村	田路村	鴨野
船城村	大字	村	母坪村	大新屋村	天王村	新才
鴨莊村	大字	村	朝日村	野山村	坂村	歌道谷
			牛河内村			
			岩戶村	喜多村	戶平村	北奥
			上牧村	南村	多利村	

葛野村	大字	長野村	大谷村	三原村	中野
大路村	大字	松森村	廣瀬村	上三井左村	
春日部村	大字	中山村	鹿場村		
國領村	大字	尾村	野上野村	七日市村	
美和村	大字	村	國領村	東中村	柚津村
神樂村	大字	戸村	敷使村	東敷使村	酒梨村
			戸坂村	乙河内村	白彦寺村
			大名草村	箱土村	檜倉村
					大

丹波誌

上久下村	大字	阿草村	上澁村	下澁村	篠場
青田村	村	相内村	太田村	北太	
田村	田村				
久下村	大字	谷川村	大河村	南島村	池谷
村	村	玉卷村	真野村	岡本村	北嶋
蘆田村	大字	口塩久村	田井堤村	東蘆田村	
西蘆田村	西蘆田村	栗住野村			
幸世村	大字	永上村	賀茂村	井中村	御油
村	村	伊佐口村	香良村	絹山村	南
油良村	北油良村	棧敷村	日比守		

遠坂村	大字	遠坂村	中佐治村	山垣村	
和田村	大字	和田村	小新屋村	梶村	前川
村	村	北和田村	小野尻村	草部村	
應地村	應地村	坂尻村	五ヶ野村	小畑村	
西谷村	西谷村	福田村	山本村		
成松村	大字	上成松村	折柴所	常樂村	黒
田村	田村	大岡村	西中村		
竹田村	大字	中竹田村	下竹田村		
生郷村	大字	石負村	本郷村	大崎村	横田
村	村	市邊村	稻継村		
前山村	大字	上鴨坂村	下鴨坂村	徳尾村	

京都府立総合資料館所蔵

上竹田村 上竹田島村

佐治村 大字 佐治村 小倉村 澤野村 市原

村 奥塩久村

沼貫村 大字 箱畑村 佐野村 谷村 新郷村

油利村 朝坂村 小野村 福田村

文久年度永上郡高六萬四千八百十三石一斗六合
一夕六才

内

一 壹千四百三十石六斗一升七合一夕 御代官所

右ハ京都千本ニ條上ル小堀數馬支配ニテニ條
城内米倉納トナリ京都所司代町奉行禁裏附以
下幕臣、俸禄トナリ朝臣社寺、ノ給料トモ爲

リ賣却シタル餘金ハ大坂城内ノ金藏ニ入ル

一 六十七石ニ斗九升九合四勺 山役高右同断

山役ハ山林稅ナリ往古ハ山林ニ稅無カリシ

カ林稅始マリ山稅始マリ幕吏藩吏ノ見込ヲ
以テ石高ヲ賦課セシモノ是亦小堀支配ニテ
取扱方松前條ニ同ジ

一 壹千石 萩原殿家領

右ハ京都在住ノ朝臣ニテ公卿ナリ洛東吉田
村ニ即アリ領地ヨリ租米ヲ送り又ハ賣掛代
金ヲ納ム其ノ命令ニ應ジ庄屋コレヲ取扱フ
一 壹萬二千五百二十六石九斗七升三合

松平豊前守領(龜山藩主)

一 壹萬三千四百六十八石一斗九升四合

織田出雲守領 (相原藩主)

一 六千〇二十二石四斗二升二合

九鬼和泉守領 (綾部藩主)

一 六千五百三十四石二斗五升七合七勺六分

水野壹岐守知行 (以下同)

一 千八百四十三石一斗四升二合

内藤播磨守知行

一 千三百八十六石六斗七升一合

杉浦若狹守知行

一 二千石

本多淡路守

一 千石四合五勺

藤堂肥後守

一 二千八百十七石六斗七升二合

安藤出雲守

一 二千石

柴田河内守

一 八百八十八石三斗五升三合八勺

佐野肥前守

一 三十石

織田衛守

一 二千九百二十七石四斗四升七勺

川勝新藏

一 千石

柘野八郎兵衛

一 四百石

須田與十郎

一 五百石

井上志摩守

一 七百石

川勝千吉

京都府立総合資料館所蔵

一	五百石	川勝主税
一	五百石	牧助右衛門
一	五百石	能勢市十郎
一	五百石	平岩七之助
一	四百石	水野長左衛門
一	三百石	市岡佐太夫
一	三百石	安藤軍次郎
一	三百石	諏訪龜太郎

旗下士圍米ノ事 寛政元年九月萬石以下圍米ノ制ヲ五ツ

諸大名城内陣屋ニ於テ圍米スル下龜山藩以下ノ部ニ於テ示セルガ如シ延享四年ヨリ江戸賭

頭ノ管掌ナリシヲ改メテ勘定奉行ノ支配トシ
 寛政元年ヨリ壹萬石未満ノ知行アル面々ヘモ
 其ノ準備ヲ命ズ大名ニ命令セシ如ク嚴重ナラ
 ズ有志ノモノ申シ合ハセ行否隨意タルベキ旨
 達セラル大抵ノ者ハ實行ニ着手セリ

岡倉山千田村ハ本郡ノ名所ト聞クモ其ノ所在ヲ
 知ラズ

文政元年十一月十一日主基方丹波國御屏風
 六帖和歌十八首ノ内

岡倉村紅葉色々 右少辨正五位下藤原朝臣隆光
 秋ふみてるよおまのりうらよみ 藤原行房
 千田村運調物不絶

今水郡ニ生
村地名残ラズ
武天田郡下
野村ニ生スル
不具名ノ
疑也

さきよたにありし水代乃河部よりなつらるる名田乃村人

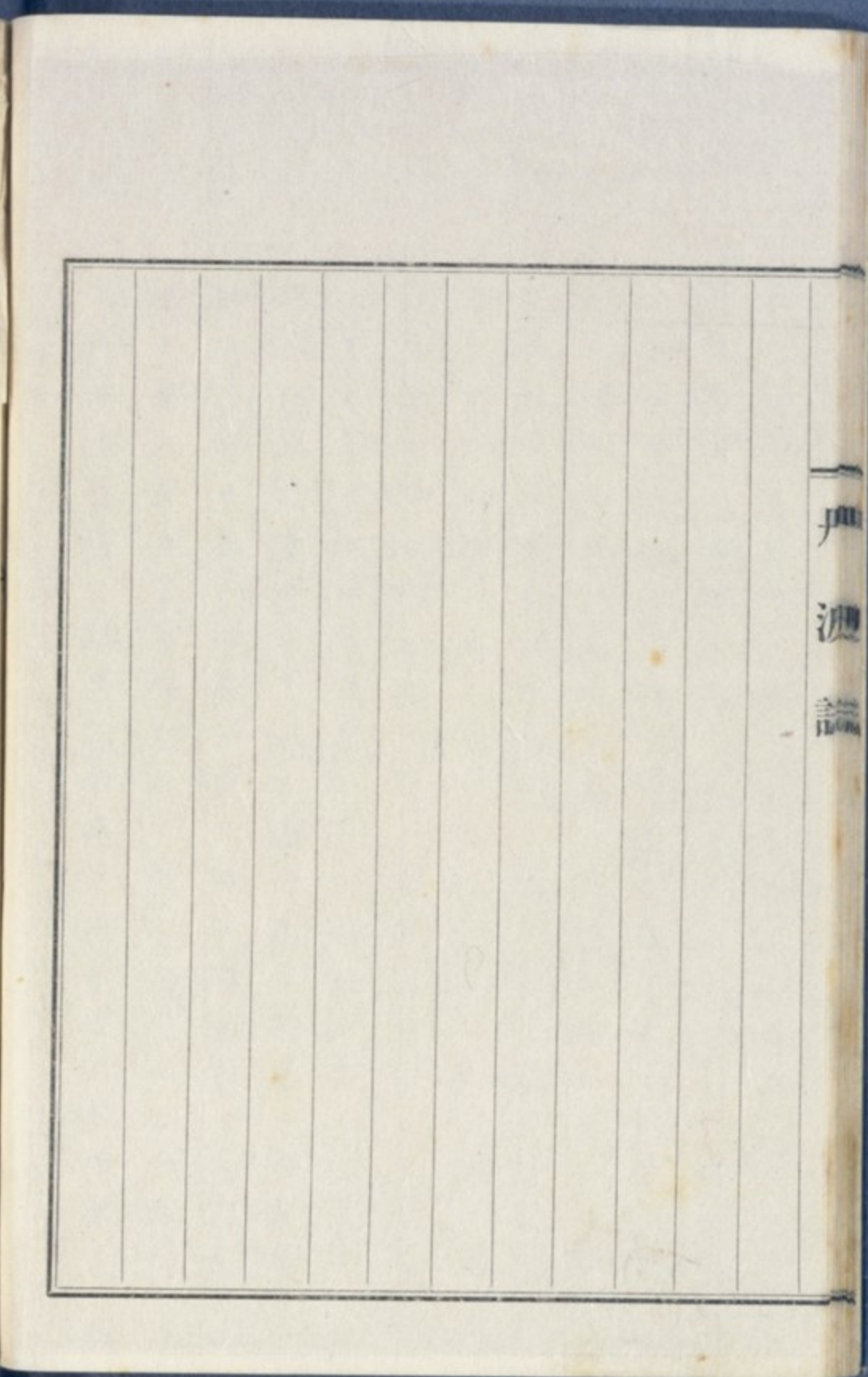
千原六郎太夫 氷上郡千原村ニ生マル千原村調氏
 後藤トスセ々農家ナリ六郎太夫天性勇剛剣法
 ヲ嗜ミ又醫術ヲ好ム一時三好家ニ臣事シ戦功ヲ
 立フル丁数次母誠ノテ曰ハク我が家ハ農ナリ武
 事モテ人ヲ殺スタトニ富貴ニ至ルトモ母コレヲ
 喜バズト今ハ一妹アルノミ若シ汝死セバ誰レニ
 カ頼ラン貧賤ハ我レ之ヲ苦トセズ汝ノ側ニアル
 ラ以テ我が悦トス汝武士タラント欲セバ我レ死
 シテ後ニ仕官セヨト六郎大夫其ノ言ニ従ヒ直ニ
 三好家ヲ辞シテ郷ニ返リ醫ヲ以テ業トシ傍ヲ農
 事ニ勉メ以テ母ヲ養フ然レ氏生計頗艱ニ甘旨ヲ

供スル能ハザル是レ病ム時ニ八上城主波多野ノ
 族福井主水前年明智軍ト戦ヒ落馬シテ腕骨ヲ折
 リ戦地ヲ脱シテ千原村ニ潛居ス六郎大夫ヲシテ
 創傷ヲ治セシム其ノ後光秀が波多野一族ヲ誘ヒ
 之ヲ安土ニ送り之ヲ斬殺スト聞キ其ノ奸謀不義
 ヲ怒リ爲ニ仇ヲ報ヒント欲スレトモ身ノ不具ナ
 ルヲ以テ志ヲ遂グル能ハズ是ニ於テ六郎大夫ト
 交親シ其ノ貧ヲ濟ヒ兄妹ヲシテ孝養意ノ如クナ
 ラシム六郎大夫其ノ恩ニ感ズルヤ深シ主水時ヲ
 計リ語ケルニ心事ヲ以テス曰ハク願ハクハ我ニ
 代ハリ主君ノ爲ニ光秀ニ報セヨト六郎大夫曰ハ
 ク我ニ老母アリ身ヲ捨ツル可ラズ今暫ク之ヲ待

テト主水其ノ母ニ托シテ事ヲ逃ルナラント察シ
且ツ事漏レ大禍ノ及バンコヲ怖ル、ヤ一朝自殺
シ其ノ迹ヲ絶ツ六郎大夫其ノ已か意ヲ洞察セズ
シテ猥ニ死セルヲ嘆キ篤ク葬祭ス幾年ナラズシ
テ母死ス乃チ其ノ志ヲ以テ妹ニ告グ妹大ニ其ノ
志ヲ可シ勸メテ其ノ事ヲ決行セシム是ニ於テ短
刀ヲ懷ニシテ郷ヲ出デ直ニ安土城ニ赴キ忍ビ入
リテ光秀ヲ求ム事成ラズシテ明智ノ兵ニ捕ヘラ
ル六郎大夫憤怨自ラ古ヲ喘ミ死ス光秀之ヲ梟首
ニ三百貫ノ邑ヲ以テ同類ノ者ヲ得ル賞トシ索ム
妹コレヲ聞キ安土應ニ訴ヘ出デ彼レハ吾ガ兄ナ
リ今其ノ事實ヲ叙フ請フ其ノ梟首ノ恥ヲ免レシ

メヨト光秀之ヲ引見ス妹死セント乞フ光秀其ノ
志ニ感ジ兄ノ首ヲ梟架ヨリ卸シ之ヲレテ信長ノ
婢タラシム後ニ上臈トナリ名ヲ阿能局ト呼ブ本
能寺ノ役ニ奮戦シテ死ス諸將コレガ爲ニ感動ス

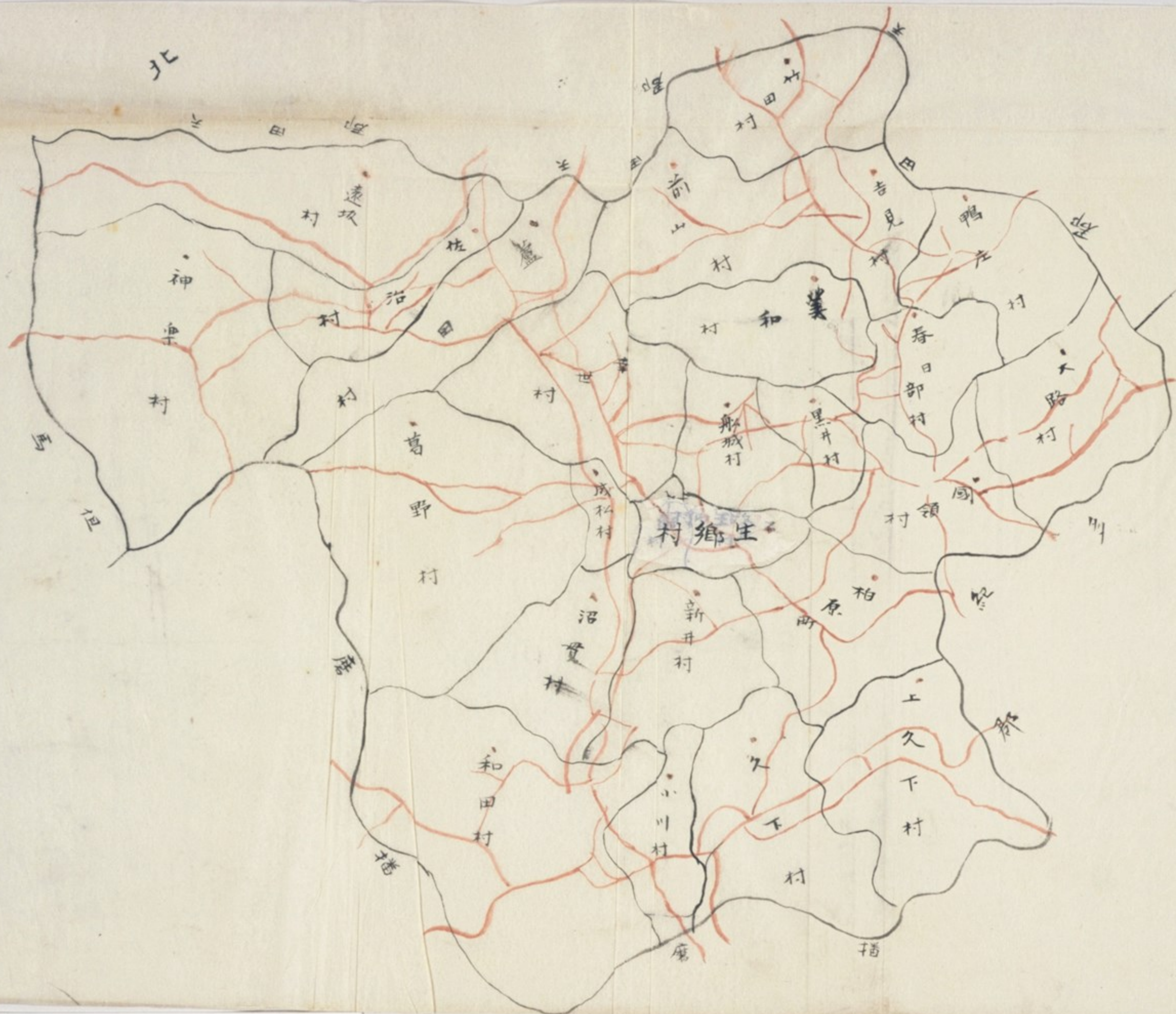
京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵



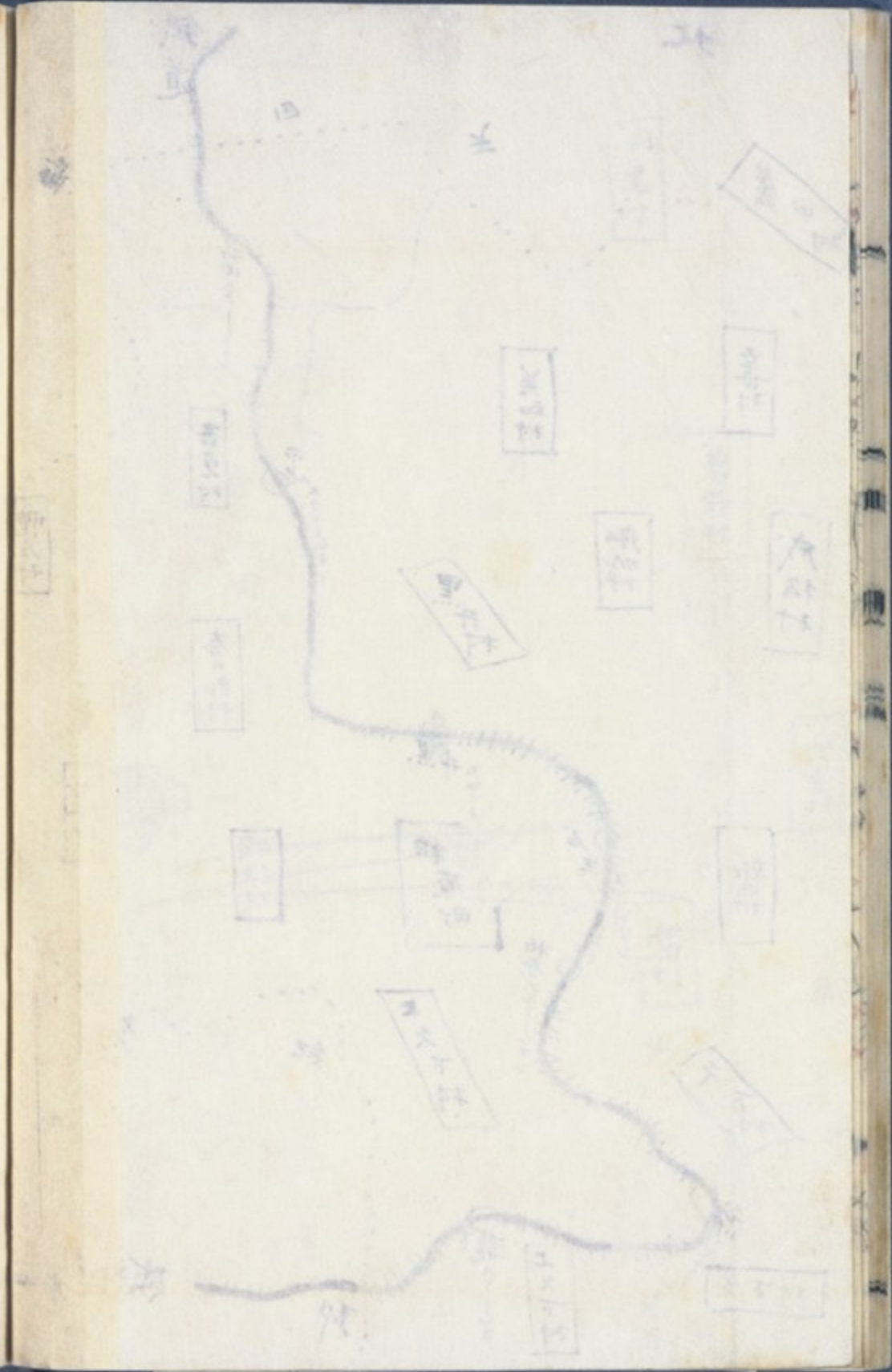
京都府立総合資料館所蔵

柏原町

柏原町記事

古稱柏原莊又石負莊トモ云フ石負一ニ石生ニ作
 リイソフト讀ミイソトモ呼ブ今ハ生郷村ノ大字
 トナリテ石生ノ名ハ此ノ地ヲ去リタルモ古ハ大
 區域ナリシナルベシ郡中ノ大邑ハ此ノ柏原ニシ
 テ廣袤一里弱ノ面積ヲ有シ十七舊村ヲ併合ス柏
 原領家多田與見長小倉^{石下}室屋小南畧田鴨野北
 山田路田坪等トス栢原トモ書キ區々ナリシラ維
 新後今ノ字ニ確定セラレタリ古ノ粟作ト云ヘル
 地ナルベシ榎原ヲ至當トスト云フ人モアリ
 位置ハ郡ノ南東平地ヲ占メテ一市街ヲ形造リ六
 町ト五町ノ不規則方形ヲ爲シ内ニ十三街衢ヲ容

叫城志



レ商店相并ニ近傍諸村ノ需要ヲ充タス家ヲ數フ
 レバ千戸アリ商勢ハ比較上敏活ナリ然レドモ権
 現山室谷山相對峙シテ三方ヲ繞リ稲盆底ノ地ナ
 ルガ上ニ北半里餘ニシテ石生アリ南ニ里餘ニシ
 テ谷川アリ共ニ高賈ノ集合地タルヲ以テ一郡ノ
 高權ヲ茲ニ注入スル能ハガレハナリ山ニハ城
 山諸山觀音山茶臼山天神山高八山八幡山等アリ
 川ニハ市場川アリテ屈曲シ一水小倉ヨリ来ルモ
 ノ町ノ西南ヲ掠メテ流ル之ヲ橋シ柏原川ト云フ
 ニ流合シテ土地ヲ潤シ耕耨ニ便ス加フルニ土壤
 淺黒色ノ境質ナルヲ以テ植ウレバ長シ蒔ケバ實
 ノルノ天祐アリ山側ノ地ハ微赭色ヲ呈ス亦以テ

微

菜蔬ニ適ス皆川流ノ餘澤ナリ氣候ハ極暑ニテ華
 氏ノ九十三度トシ極寒ニテ三十五度トス十年平
 均ニテ雨リ
 雨量 一年平均ニ尺 雨量 最深一尺
 産物 農物ハ岳苗木茶醬油鯉魚罐詰經木
 經木トハ剥ノテニテ土俗ハギト云ハルヲ經木
 ト書キタルヨリ經木ト音訓ニテ讀ムトナレ
 リ
 敷物ニ織リ又箱ノ原料トモ爲ル婦人小供ノ手
 仕事トシ利潤トナル
 湖リテ天保度ノ調査ニ及バハ新町古市場石田本
 町中町下町ノ外家中町アリ家中トハ臣下ヲ云フ

叫 城 志

丹波 志
 モノニテ八百六十一戸内家中一百九十八戸民家
 六百六十三戸 明治二十一年減シテ五百八十五
 戸二千八百二十三人内士族即チ家中百三十九戸
 八百二十二人同二十九年町數十三村數八ヲ併セ
 タル柏原町九百六十八戸人口四千五百七十一
 今明治四十年一千一戸四千六百六十三人 寛政度幕府(書上)百
戸ハ大數ラ 二十九年ノ調査高六分弱農四分弱工一分
 維新前ニハ藩主郎即陣屋ト稱スルモノト郭内郭
 外トノ藩士邸ト社寺ヲ除キ見ルベキ所無シ
 維新以來ノ設立ニハ 郡役所 警察署 郵便電
 信局 裁判所 稅務署 中學校 女學校 尋常
 小學 高等小學等アリ 公園ハ谷ノ山ト云フ地

ニアリ
 高元錄一千五百五十一石 寛政改一千五百五十
 七石三斗八升二合 再改一千五百五十七石三斗
 九升九合役銀綿茶藪上納高百五十三匁文久改千
 五百五十九石一斗九升五合 役高局 明治三十
 九年改 民有地一千二百四十五町五段 此ノ地
 價十五萬五千六百六十二圓
 私立經濟機關ニハ 株式會社 柏原銀行 柏原
 合資魚會社 百三十七銀行支店アリ
 里程 郡役所ヲ起點トシテ 神戸 六十六哩四十
 鎖 姫路 百哩四十八鎖 神崎 五十哩六十七
 鎖 福知山 十五哩十二鎖 舞鶴 四十哩四十三鎖

京都府立総合資料館所蔵

篠山十三哩四十四鎖 大阪 五十五哩四十鎖 京都 九

十七哩七十二鎖 東京 四百十哩二十二鎖 (鐵道)

篠山四哩 黒井二哩 福知山六哩 遠坂但馬界線六

哩 (歩道)

縣道 見長ヨリスルモノニシテ京都大阪播磨ニ

赴クモノ 北西ニ向ヒ但馬丹後ニ赴クモノ

里道 西向スルモノ是亦播磨ニ赴クベシ

風俗 儉ニシテ勤ム

八幡神社 譽田別尊 長足姫命 多岐理姫

狹依姫命 多岐理姫命 入船山鎮坐

本殿 拜殿 鳥居アリ西部ノ時ニハ塔鐘等アリ

末社トシテ 厄神住吉 春日 高良 八坂 若

官 猿田彦 巖島 稻荷 聖神社等アリ 社額

三十五石 祭禮陰曆八月十五日 地域ニ町八段

六畝二十五歩 現今四百六十六坪官有地第一種

三塔山頂ニ在リ八幡文庫ト名ツケ保存ス書籍ハ

無シ 遙拜所アリ 古輦ヲ存ス 厄神祭舊曆一

月十八日賽者群至ス 神佛混淆禁止令カ明治初

年ニ出ヅルヤ梵鐘ト塔ハ隣寺衆寶寺ニ管司セラ

ル 社傳舒明帝ノ時ニ出雲連社殿ヲ創ス一説ニ

白鳩來リテ去ラズ土人ノヲ八幡大神ノ使ハシメ

ト認メ一祠ヲ建ツト一條帝ノ萬壽元年十一月辛

卯靈泉涌出スルヲ以テ朝ニ奏ス帝之ヲ嘉瑞トシ

敕使奉幣アリセシレ社殿堂塔清水寺大安寺五十

京都府立総合資料館所蔵



四坊社家末寺ノ建設アリ一季五十七度ノ神拜式
 放生會伶樂祭式具ハリ大神ノ神靈ヲ山城旭ヶ峰
 ヲリ移レ具ノ分社トシ八幡大神ヲ以テ土産神ト
 宗ノ八坂神ヲ以テ地主神トシ遂ニ舊稱入船山ヲ
 ハ八幡山ト呼ブトナレリ或人ノ云ハク式内磯
 部神社或ハ是ナランカト



京都府立総合資料館所蔵

南北朝ノ時ニ萩野安藝守ナルモノ足利氏ニ抗シ
テ此ノ地ニ戰ヒ社殿コレガ處ニ燒失シ再建僅ニ
舊規ヲ存シタルニ天正七年織田軍綾部ヲ拔キ八
上城ヲ攻メシトスルヤ波多野宗貞八幡山ニ陣シ
迎ハ撃テ東軍敗衄ス東將木下秀長奮戰シテ波多
野勢ヲ敗リ之ヲ走ラセ進マテ萩野久下ノ諸城ヲ
下セリ此ノ時社壇又回祿ノ災ニ遭フテ舊規全ク
亡ビタルニ同十年秀吉白鳩ノ靈瑞アリタルニ感
ジ俄ニ再建ノ舉アリ其ノ臣堀尾茂助ヲシテ奉行
タラシメ功竣リ祭式ヲ執行セシムルニ萬壽ノ
式ニ據リ且又矢嶋又兵衛中嶋甚五加藤清左衛門
ヲシテ社田ヲ寄附セシメ秀次以下寄進スル所ア

リ合セテ五十二石九斗五升ヲ得テ以テ社田ト爲
レ文祿年度檢地ノ下アリタル際ニモ除地トナリ
明徳ニ至リ又同シ 社格 御社 是ハ明治六年
ニ定マル 氏子九十軒アリ 柏原町ト五村ナリ
梵鐘ノ來歴 何處ニテ何人ノ手ニ成リシカハ銘
文ニ之アラシモ讀ミ難キヲ如何ニセン文中康應
元年丹波氷上高山寺等ノ文字見エ聞ク所ニ倚レ
ハ天正中秀吉郡中ノ梵鐘ヲ狩リ蒐メ之ヲ鑄潰サシ
トス升ハ以テ銃砲ニ造ラシメントテナリ當社ノ
僧澄運ナルモノ偶々藤ノ目ト云ヘル所ヲ過ケ
ルニ鑄潰ス料ナル衆多梵鐘ノ内ニ古色掬スベク
銅質純良ナルモノアルヨリ寶器ノ看ス 燬滅

ニ歸スルヲ惜ミ直ニ大阪ニ赴キ黄緣ニテ秀吉ニ
請ヒ其ノ情ヲ叙ブルヲ得タリ秀吉輒ツノ請ヲ容
レ命シテ本社ニ送ラシム ヲ、ジノ胴ノ 大鼓アリ又奇
物ナリ是ハ近江ノ三井寺ヨリ移スモノト云フ是
亦國攻ノ時ニ持來リシナラン 鳥居ノ横額ハ田
季成ノ筆トモ云ヒ又後水尾天皇ノ勅額トモ云フ
紺紙金泥ノ法華經アリ是ハ秀吉ノ宮附品ナリ之
ニ添ハタル書状一通アリ中將姫ノ曼陀羅アリ
大字室谷小字坊ノ眞山林ヨリ齋院鑿ノ類ヲ出ス
塔 應仁年中信秀慶ナルモノ之ヲ竝造シテ燒失
シ再造セラレタルモ亦萬治ノ回祿ニ遭ヒ今ノモ
ノハ文化十年ノ築建ナリ 仁木彈正コノ處ニ居

京都府立総合資料館所蔵



老松成揚海中人

松

松

松

一冊
伊勢
記

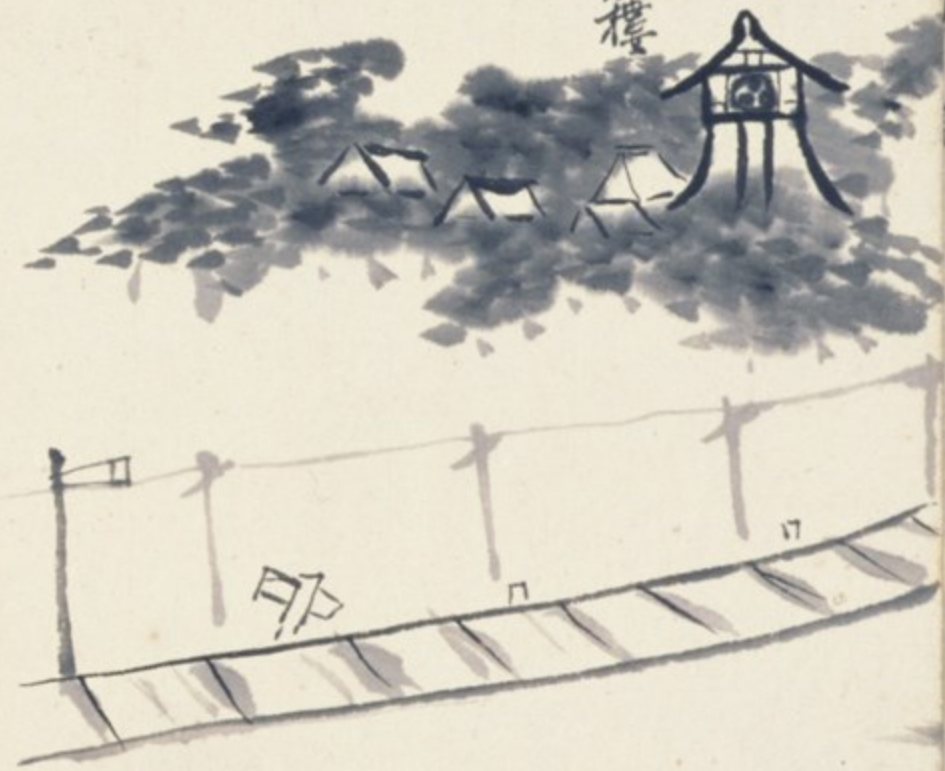
テ戦卒ニ從軍ニタリトアレハ焚毀ノ厄ニ係リシ
 ミ宜ナリ
 仁木谷 仁木彈正少弼頼勝ノ居リシ所 頼勝ハ
 源義家十世ノ孫義勝ノ第四子ナリ仁木頼章ノ父
 ニシテ足利氏ニ臣タリ
 四方田但馬守政孝ノ邸 政孝六個ノ大擔桶ニ糞
 計ヲ盈タセ之ヲ荷ヒ田ニ行ク程ノ怪力ナリ士ト
 ナリ兵政實ト共ニ足秀ニ臣事ス 奥村ニアリ

京都府立総合資料館所蔵

妙法蓮華經住持解
今町野元何面善提摩也

抄王清帝經卷第八
八幡宮
青野人
至好法蓮華經也

鼓樓



木ノ根橋一名ヲ生橋トモ云フ右市場町ノ溪流ニ
架ス其ノ下ヲ流ル、水ノ奥村ヨリ出ワルヲ以テ
奥川橋トモ云フ長ニ間餘アリ根ノ木ノ根長ク延
ビ前岸ニ達ス細長ニシテ橋ノ一方ノ横折トナル
他ノ一方ト上面ノ木材ヲ以テ造ル行人知ラズレ
テ過ケ其ノ目立タザルヲ以テナリ

相生松ハ沖田ニアリ

村雲ノ里ハ高八山ノ東麓ニアリ丹波名所ノ一ニ
居リ公園トナル多紀郡ノ村雲ト混同シ易シ

関ノ神ト呼ブ神森アリ一名オサンノ森ト云フ於
ニ茂兵衛ガ山田ト云フ所カラ落延ビタルガ此所
ニテ追手ニ追ヒ附カレトシタルヲ此ノ森ニテ

忍ビ追年ノモノヲ遣リ過ゴサセシトシタルニ於
 三カコホシニニトニフ三ツ喚ヲ出シタル故
 見顯ハサレタル所トカヤ関ノ神ハ咳ノ神ナリ諸
 願成乾ストテ參詣人アリ灰ヲ紙ニ包ミ供スルヲ
 例トス
 八幡山兼寶寺 一ニ西ノ坊トモ中音院トモ云ハ
 リ高野山寶藏院末ニシテ兩部トシテ八幡宮ノ別
 當一名住職ス維新後神佛混淆ヲ止メラレタルヲ
 以テ今ノ所ニ移シ八幡宮ノ境内ト分離ス爾來八
 幡宮ニアリタル重塔鐘樓ノミヲ管スルトナレ
 リ本尊藥師ノ像ハ岡寺觀音堂ノ故材ヲ以テ之ヲ
 造ル寶物トシテ大師ノ羅漢曼陀羅等アリ北殿司

ノ佛像辨慶ノ經文秀頼ノ書蹟後陽成天皇ノ宸翰
 等アリ 地域百十二坪領地七段七畝民有地第一
 種檀家二十戸 塔傍ニ彌騷塚アリテ天正年中ニ
 埋藏セシモノトノ口碑アリ維新後コレヲ掘リ試
 ミタルニ骨ヲ見ル皆之ヲ朱誌ニシタルモノト見
 正朱斑點々々リ再コレヲ收葬ス
 歸明山又慈雲山明顯寺 上中町 地域二百四十
 坪官有地第四種 東本願寺末
 玉寶山瑞光寺 舊稱極樂寺 本町 地域二百七
 十七坪同種 本尊釋迦匝慶作ト云フ 北殿司ノ
 繪アリ 鐘樓アリテ鐘無シ 舊藩ノ時武備ノ爲
 ニ改鑄シテ砲銃トセシナリ 四王天但馬守ノ

京都府立総合資料館所蔵

門トカ呼ブモノアリ
 寶柳山慈傳寺 本尊阿彌陀如來 行基作ト云フ
 惠日寺末 地域百七十四坪 同種舊除地一畝十
 二歩 祇地一畝歩 什物ニ一休ノ書アリ
 日滿山本覺寺 京都本能寺ト尼ケ峠本興寺ノ而
 本山ニ属ス 寺領ニ石五斗一升三合七勺アリ夕
 リ境内五十一坪民有地第一種
 天個山西樂寺 境内五百五十九坪 官有地第四
 種 舊除地一畝八畝九歩 知恩院末開山貫譽上
 人淳土宗 中興ヲ法道仙人ト云フ本尊阿彌陀春
 日ノ作ト云フ觀音ハ聖德太子ノ作ト傳フ鐘樓ア
 レド鐘無シ 前示瑞光寺ニ同ジ

郡役所 明治十二年始マル 警察署 明治七年 郵便局 明
 治五年

小學校 崇廣ト名ツク舊藩主ノ正殿ヲ以テ之ニ
 當リ氷上小學校ト名ツケタルハ氷上郡ノ共有タル
 ヲ以テアリ明治十九年

柏原銀行 明治七年 資本金五萬圓 支店ヲ佐治ニ
 置ク

里程 和田ニ里餘 篠山四里餘 福知山七里 佐治四
 里 神戸十九里 京都同 大阪二十三里 東京百四十九里

讓葉山 五百四十一米突 清水山 金山
 橋梁 大川ナキヲ以テ橋梁ノ見ルベキモノ亦無
 シ市場橋相生橋共ニ長ク四間ナルノ三今橋ハヨ

京都府立総合資料館所蔵

リ少シ長キモノ、如シ北町上ノ町下町大手町ニ
 アレドモ短橋狭橋ナリ
 官有地 第一種三段六畝歩 第三種二町五段六
 畝二歩 第四種三段一畝十四歩
 民有地 第一種田地一千五百五十六段六畝二十
 六歩 畑地九十三段一畝五歩 市街宅地百十四
 段七畝二十二歩 郡村宅地三十四段七畝二十二
 歩 入會山百七十七町五段三畝二十二歩 民有
 林五十町二畝八歩
 第二種 溜池三町五段四畝九歩 雜地四段七畝
 十四歩 墓地一町二段十六歩
 合計四百十二町六段九畝二十四歩 明治二十年

稅費 國稅 六千二十六圓九十四錢八厘 地方稅
 一千三十七圓四十四錢 全部賦課費 壹百四
 十一圓二十二錢六厘 町費 六百二圓四十三
 錢七厘 稅業料 四百五十七圓五十錢 合計
 八千二百六十五圓五十五錢一厘
 明治八年地租改正ノ時ニ於テ田ヲ分ツテ一等ヨ
 リ八等ニ至リ別ニ等外田ヲ置ク 畑ヲ分ツテ三
 等トシ上中下ノ名ヲ立テ別ニ下々等畑ヲ置ク
 宅地ヲ分ツテ四等トシ又郡村宅地ヲ置ク
 藪地藏敷アリ 上田一段價八十一圓六十五錢此
 ノ收穫米二石一斗定 下田一段價五十六圓五十
 三錢餘此ノ收穫米一石五斗定 畑地一段價四十

八圓此ノ收穫米ニ石三斗定 下々一段十三圓餘
此ノ收穫米六斗餘 市街宅地一段價七十五圓餘
郡村宅地一段價五十三圓餘

産物 米 麥 菜 茶 斑竹一名朝鮮竹

斑竹 乱理斑點アリテ雅味ニ富テ朝鮮征伐ノ際

大岡村ノ鑑内某ノ持歸リタルモノニシテ昔時

一森林ヲナセシガ今ヤ伐采ヒテ餘ス所幾許モ

無し

南北海通ノ事 近江ノ琵琶湖ヲ開鑿洞通シテ北

ハ越前ニ至リ南ハ大阪ニ達シ以テ南北ノ航路ト

セバ軍事上高車上共ニ便ナリトノ説アレド其ノ

地ノ高度ニアルヲ如何ニセン 近江若狹ノ方更ニ

ニ湖アリテ工事ニ便ナルガ如クニシテ便ナラズ

若カズ播磨ノ加古川ヨリ柏原ヲ經テ丹後ノ由良

川ニ出ヅルノ航路ヲ開カンニハ勞少クシテ功多

シ 柏原ノ地低カラザルニ非ルモ之ヲ琵琶湖ニ比

スレバ其ノ水面ヨリ更ニ低シト是レ工學士田邊

翔郎ノ測量シタル實話ニ係カル 軍事當局者某

コレヲ聞キテ曰ハク田邊ハ京都府知事北垣 國道ガ

江州ヨリ京都東部、疏水工事ヲ起コス時ノ測量

技手中手麻家トシテ知ラル、人ニテ此ノ舉ニ先

カテ京都府附近ノ地ヲ屢々測定シテ此ノ議題ヲ

出セシナリ日露戰役ニ際シ露艦カ品川海沖ニ顯

ハレタルト聞キ人心動搖シタルモ左マデノハ

無カリシカ北面日本海ニ遊ギストノ流言アルヤ
人々安キ心ハアラザリシ是レ其ノ東京附近ハ防
備最重ナルモ北海ニ至リテ用意未周到ナラズ之
ニ加フルニ軍艦ヲ送ルニ東方海上ヲ迂回セザレ
ハ西面洋上ヲ遠航セザル可ラズ其ノ機ニ後レ會
ヲ失シ國家ヲシテ看スク危殆ニ陥ラシムルノ
慮ナシトセズ此ノ指京都ヲ近方ニ於テ北海ニ通ス
ルノ航路アラシニハ今日ニ十年海軍ノ儘ニテ防禦
上左マデノ不足無シ然ラザラシニハ今日ノ倍數
ナル軍艦アルモ猶寒心セザルヲ得ズ云々
往古ハ知ラズ南北朝ノ時ニ仁木賴勝未任シテ封
建ノ姿ヲ成シ爰ニ始メテ都邑ノ形ヲ示ス仁木氏

去リテ後ハ織田上野今信包封セラレテ仁木ノ封
邑ヲ襲グ其ノ間幾年ナルカヲ詳ニセズト雖モ頗
ル荒敗シタルヲ恢復シタルヲ以テ人民コレヲ慕
ヒ其ノ歿スルヤ祠ヲ建テ祭祀ス上野神社コレナ
リ信包ハ信長ノ弟ニシテ淀君ノ外叔父初ノ名ハ
三十郎永祿十一年出テ、長野氏ヲ継ギ上野今ヲ
稱トシ從三位左中將ニ至ル其ノ佯勢ニ在ルヨリ
身有樂齋長益ト墨臣氏ニ臣事シ秀吉薨後淀君母
子ノ信任スル所トナル母子が徳川氏ニ呼バレニ
條城ニ入ルヤ蜚語紛々大坂洵々たり信包ソノ留
守トナリ鑊撫ニ從事シ一城ヲシテ肅然タラシム
ルニ興リカアリ慶長十九年七月十七日大坂ノ後

母
皮
志

和談起コルヤ非戰説ヲ唱ヘテ他將侯ノ讎視ス
ル所トナル誠中茶葉ヲ賜ハル饅頭ノ毒ニ中タリ
テ咯血シ歸リ邸ニ薨ス四子信重靈負信則信當信
則嗣ギ寛永七年卒シ子信勝嗣ギ慶安三年五月十
七日卒ス年二十八子無クシテ家絶ニ織田氏ノ此
ノ地ニ在ル凡ノ四十五年ナルベシ
信包ハ武將ニアラズ文人ナリ其ノ京都ニ在ルヤ
常ニ風流社會ニ入り髪ヲ削リテ老大齋ト稱シ文
筆茶事ヲ以テ娛トス
近江國大津ニアル幕府ノ代官小野惣左衛門同半
之丞織田氏ノ封邑百八ヶ村ヲ管治シ元祿七年ニ
至ル

元祿七年織田信休大和守院ヨリ来リニ萬石ノ封
邑ヲ領ス父伊豆守信武カ繼ニ家老ノ田中生駒等
ヲ殺シタル罪ニヨリ八千石ヲ削ラレテ左遷セラ
レタルナリ
其ノ大和ヨリ移封シ来ルヤ途ヲ大阪京都ニ取リ
荷物ハ大阪ヨリ播磨國高沙ニ出ダシ船載シテ丹
波ニ泊リ永上郡ニ入レ本郷ニ荷揚セラシ此ノ地ハ
運搬シタルナリ君臣共住居スベキ邸宅ナキヲ以
テ神社佛閣ニ農家糠屋ニ收容シ長屋ノ假普請成
ルヤ成ラズニ漸次移住シ陣屋成リテ君侯ノ住定
レリトゾ所替ノ如キハ甲侯ノ邸ハ乙侯ノ来住ス
ルモノカラ臣下ノモノモ家アリ馬ニ厩アリテ

丹波志

雙方直ニ安居シ得バキ當ノ如キ辛苦經營想フベ
 キナリ時ニ藩主信休江戸ニ在ルヲ以テ善請奉行
 中村ノ地ヲ相シ繩張ヲナセシニ穢郷ニ近キヲ以
 テ之ヲ避ケ地圖ヲ以テ伺ヒ出テタル所真村ニ定
 ヲヨトノ命アリ由リテ其ノ地ニ於テ正徳三年起
 エシ年ヲ越エテ孰リ信休歸住ス之ヲ元禄七年ト
 ス

信長 信雄

高長 信雄 德川旗下エトナリニ無シ家絶ニ
 信長 信雄 出田園村山郡天童藩祖
 高長 信長 山城守 信武 四品 改任豆守
 長頼 長政 對馬守 信休 出雲守 也江守
 長雄 長政 對馬守 信休 出雲守 也江守
 信武 四品 同姓兵部輔信昌養子
 信朝 出雲守 織部 信憲 出雲守 四品
 信休 出雲守 也江守
 信憲 出雲守 四品
 長郷 丹官 信憲 出雲守 四品
 女子 柳原大納言光綱妻
 高長 信雄 出雲守 也江守
 信武 元禄七年老臣田中生駒等ヲ斬リ
 自裁ニ年四十

信應 信古 也江守
 女子 吉川和三郎経彦室
 女子 富田主膳室

藩主位
 信休 信朝 信蕃 信憲 信守 信古 信貞 信敬 信民

高長ハ信雄ノ第四子本名信友小字乱丸
 父ト右ハ不明石ノ小笠原忠敬ニ偏ル寛永三年

女子 三嶋平之丞室

信守

山城守

信貞

出雲守

信敬

出雲守

信氏

山城守

女子 淡田平左衛門室

信長守之信昌印ナリ信雄石之縣ニ高長ヲ
シテ家ヲ撰セシム老臣佐々木梅心鶴ニ徳川
ニシニ信雄ノ封邑松山五萬石ヲ高長ニ附シ高
長万治二年

領地 氷上郡四十五村 何鹿郡八村 天田郡五
村 合六十三村

臣祿制 高千七百石 實八千石 一人 五百石 六十四石 一

人 四百石 四十八石 二人 三百石 二十一石 一人

二百三十石 二十一石 一人 二百二十石 二十一石 二人

二百石 二十一石 四人 百五十石 二十一石 十一人 百

三十石 二十一石 三人 百石 二十一石 十五人 八十

石 十八石 四人 七十石 十八石 六人 六十石 十八石 十

一人 以上知行

九石十四人扶持 八石 一人 八石十四人扶持 七石 十

二人 七石十四人扶持 六石 五人 六石十四人

扶持 六石 一人 七石十三人扶持 五石 三人 五

町 成 志

石十四人扶持 六石四人 七石三人扶持 六石五人
六石三人扶持 五石十三人 五石六人扶持
五石十三人 五石二人扶持 五石一人 以上中祿
士分 以下足輕同心小者等小祿ノ者畧ス

前示ノ如ク三萬六千石ノ領地ガ二萬石ニ減縮シ
クルハ如何計リ辛カリシ然ルニ臣士ノ數ヲ具ノ
儘ニ据エ置キ祿米ノ減少ヲ爲セシカ如キ聞クガ
ニ慙然々ラザルヲ得ズ高ト實トノ相違右ノ如ク
甚シキハ恐ク他藩ニ有リトハ思ハズ既ニ高ト云
フ公然タル僞稱ナルカラシハ何人モ其ノ呼ビ聲
ニハ信ヲ措カザルモ四ツ物成リ即百石ニシテ二
十五石一萬石ニシテ二千五百ナルトハ當時知ル

人ゾ知ル此ノ藩ノ如キハ一家老生駒主水ノ千七
百石高ニシテ實收八十石即チ二ツ物成トハ未聞
カサル所ノ祿制ナリ扶持米ニ至リテハ一人前一
日玄米五合ヲ給スルヲナルガ恐テクハ是モ實收
ニ於テ減額ナリシナルベシ然ラザレバ下士ニシ
テ十四人扶持ハ上士ノ祿ニ比シテ多分ノ收得ア
ルトナル 三萬六千石提封ノ時ニハ一千三百
石一人 一千石二人 五百二十石一人 三百六
十七石一人 三百五十石二人 三百三十石一人
三百二十石一人 三百石七人 之ヲ上士トシ衆
地割トス 四百石廩米一名 之ヲ上士裁米取ト
云フ 以下遊藏ニ百石ニ至ル皆藏米取十八人

京都府立総合資料館所蔵

中七ツレ以下百石ニ至ル裁米取十六人 以下々
士畧ス 臣家ノ數百四十一軒父子相對ムルモノ
アルヲ以テ人數トシテハソレ以上トナルナリ
米地割トテ其ノ地ヲ所有スルヲ大名旗本ノ如キ
ニハアラテテ命令書ニ某村ニ於テ何百石下ニ置カ
ルトアルニ由リ其ノ庄屋方ヨリ入用ノ節ニ受ケ
取ルナリ糜米ナレバ城内トカ陣屋トカノ倉庫ニ
アルヲ入用ノ時々受ケ取ルナリ之ヲ大名藩々普
通ノ方トス
同家ニシテ藩侯タルモノ四旗本タルモノ若干
出羽國天童藩高二萬石 大和ノ芝村高一萬石
同國ノ柳本一萬石ト本藩トナリ

織田家傳來ノ寶蓋 富士ノ香爐 唐画大屏風
雪村筆瀟湘夜雨圖 雪舟画人物 加藤清正消息
文 柏子庭筆枯木圖 古酒碗 天國薙刀 天山
鐔 黃纈旗 等トス
天山ノ鐔ニハ天山ノ銘アルニ由リ名トス天國ノ
薙刀ハ信長ノ贈ル所此ノ薙刀ハ信雄ヨリ傳ハリ
タルモノトシテ常ニ江戸ノ廣間ニ掛ケ當直ノ士
コレヲ護リ火災ニハ第一ニ之ヲ携ヘ出ヅ之ヲ江
戶ニ置クハ不要慎ナリトテ此ノ地ニ移ス百姓コ
レヲ傳ハ聞キ天國ノ作ニハ靈驗アリトテ早敷ノ
年ニハ之ヲ乞ヒ權現山ニ持テ登リ終夜篝火ヲ焚
キ之ヲ祭ル目付役人封印ヲ切リ之ヲ箱ヨリ出ダ

山城志

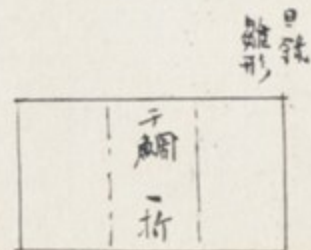
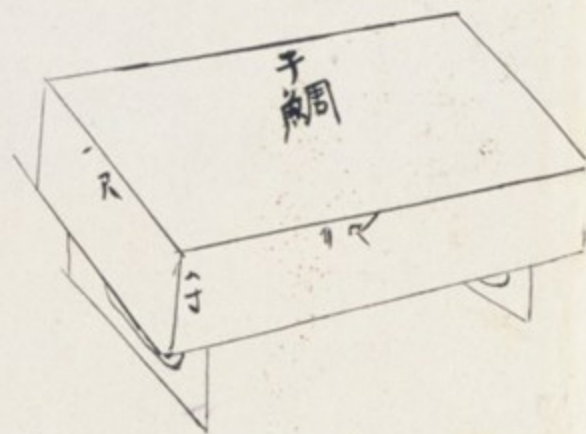
護送シテ山ニ登リ祭式アレバ又護衛シテ歸リ
 封印シテ箱ニ納ムル等儀式頗嚴ナリ
 建勲神社 始祖信長ヲ祭ル六月一日祭典ヲ執行
 ス京都ノ建勲神社ノ湊ニ遷ル
 徳川始祖が當織田家ニ對スル待遇ハ頗優厚ヲ加
 ハタリ殊ニ早クヨリ心ヲ東ニ傾ケ大阪方ニ與セ
 サルモ由ルニ家ニ卿ナル六分家又ハ國守大名ナ
 ラザルハ用テ可ラザル所ノ金紋先箱ヲ許サレ虎皮
 モテ兼替料ノ鞆履トナスナド皆特待ノ印トゾ聞
 コエシ此ノニ品ハ信雄ヨリ用ヒ来レルモノニテ
 其挾箱ニハ御朱印ヲ入レ行列中西挾箱ノ金紋ヲ
 夕ラツカセテ先カツハ人目ヲ惹クモノニテアリ

シ江戸ノ童謡ニ之アリ柏原ニ過キタルモノガニ
 ワアル金紋先箱年ノ皮又曰ハク柏原ニ過キタル
 モノガ三ツアル時ノ大鼓ニ生駒主水ニ八幡ノ塔
 ト 生駒主人ノ家老トシテ大藩ノ政治ニ参スベ
 キ益量人トノ評アリ大鼓ハ前ニ出ガセリ
 無城大名百家ノ一トス江戸ヨリ百三十八里藩主
 藩臣ヲ率イテ一年参覲シ一年歸邑スルノ法ナル
 モ小藩テ莫途ニ斃レントスルヲ以テ常府トテ始
 終江戸部ニ在リ
 將軍ハノ献上物 西布十疋 銀馬代 四月参府
 ノ折ニハ千鯛箱一是レハ登城ノ折ニ在着御禮ト
 シテ暑中見舞トシテノ千鱧九月ノ時献上トシテ

京都府立総合資料館所蔵



干鯛箱ハ中ニ乾シタル鯛ヲ入ル儀式用ニ
テ食用ニハマラス



ノ山椒十月是モ時献上トレテ粟ト小豆ト
將軍ヨリノ下賜品絹麻等五卷 是ハ四月賜蝦蟇
國ノ際ニ 柳ノ間大名ナリ
初代將軍ニ代將軍ノ時代ニハ國産具ノ他思ヒク
ノ品物ヲ奉リタルニ遂ニハ儀式的贈答トナリ

年中行軍トナリ告朔ノ錄羊トシテ二百餘年間繰
 リ返シレテ行ハレタル所トス今具ノ一斑ヲ左
 ニ叙ヘシ
 時節々々ニ獻上スルヲ時獻上ト云ヒ各藩具ノ領
 地内又ハ近傍ニ産スル所ノモノヲ擇ビテ幕府ニ
 奉ルヲナルガ丹波ニハ上等ノ山椒ヲ産スルヲ以
 テ七藩共ニ之ヲ獻納ス諸藩ソレ々掛カリ役人
 ヲ設ケ先例ニ違及セザル様注意ヲ加ヘ失敗ナカ
 ント期ス山椒五郎兵衛カ一死以テ藩名ヲ汚
 サバリシト以テ證スマシニ
久下村谷川ノ山椒
五郎兵衛ノ産地ニテ
 最良ノモノヲ采リ一粒擇リニシニ産箱ニ納レ萬
 一ヲ慮リテ豫備品ヲモ添ヘ粒飾ヲ施ス等ハ五郎

兵衛方ニテ之ヲ成レ以テ藩邸ニ納ル掛リ役人吟
味ノ上コレヲ家老ニ差出ス重役點檢ノ上コレヲ
獻上長持トテ小形ナル長持ニ入レ封印シ錠ヲ施
シ獻上物ノ立符ニテ穿領コレヲ看護レ東海道ヲ
經テ東都ノ本邸ニ入ル江戸ノ掛カリ役人コレヲ
調査レ右筆獻上目錄ヲ書キ添ハ御進物掛役人又
ハ留守居之ヲ看護シテ江戸城ニ納ル只四五粒辛
辣ノ朝倉山椒ノミ之ヲ奉獻スルノ煩勞幾十人ノ
手ヲ經テ無事ニ收マレリトテ慈眉ヲ展アトハ今
ヨリ信不可ラガルノ話頭ナラン然リト雖ソノ實
然リシナリ

ニ之ヲ言フヲ得ズ太刀ノ如キ時服ノ如キ三家三
卿十八國主三百餘藩大旗本ニ至ル迄大同小異ナ
レバ之ヲ畧シ時服ニ付キ一二例ヲ示スバシ黒綸
子五ツ紋龜綫白羽ニ重ヲ襲テ紋所ノ最寄ハ之ヲ
綴ヤテ衣服ノ形ナルヲ示レ綿ハ袋ノ儘十分ニ入
レ宛然夜着ノ如クニシテ臺ニ載テ之ヲ本丸ノ平
川口ニ持テ行キ幕府ノ御進物方役所ニ入ル進物
方當番役人取次ギ御納戸頭ニ渡ス進物番白木臺
ニ貼附シアル札ヲ讀ミ上ゲ織田壹岐守殿ト云フ
テ其ノ品々ヲ差出ス納戸頭及ビ下役人紙製ノ紋
形ヲ獻上時服ノ紋ニ伏セ寸疋大小ノ差ナキヤヲ
檢シ地質色澤裁縫ニ至ル迄ヲ查シテ前例ニ戻ル

町
成
志

トナキニ於テハ之ヲ受クベキノ規定ニ從フナリ
丹波ノ七番ハ皆小高ナルヲ以テ時服ナドヲ取扱
フト無シ大番ハ之ヲ献レ之ヲ賜ハル等一衣轉廻
シテ一此一彼ス之ヲ製スルハ吳服所ト稱スル專
門ノ裁縫所アリ若モ之ヲ藩々ニテ手製スル如キ
アリトセシ乎檢査落第ノ不幸ニ遭遇シ諸藩ノ笑
州トナル也

右ハ時服ニ付献上ノ模様ヲ示セルナルガ他ノ献
上品ニ付キラモ大同小異ニ過ヤ不年始節句ハ朔
歳暮等ノ献上日ニ於ケル平川口ノ雜沓ハ言語筆
紙ノ盡クス所ニアラズ一ツ橋門内ニ控ヘテ開門
ヲ待チニ待チタル諸家ノ家来ハ互ニ先ヲ争ヒ押

シ合ヒ揉ミ合ヒ我レ勝ニ押シ通ラントスル故ニ
釣臺ヲ傾ケルアリ落スアリ載セタル物ハ汚レ臺
ノ足ハ折レ掌領ノ足輕ハ足ヲ怪我スルナド珍シ
カラズ故ニ慣レタル使者ハ故衣破袴ヲ着用シテ
平川口ヲ通り進物所ニ進ム時ソノ齋ラセル晴着
ニ換エルトアリ献品ノ不幸落第スルヲ顧慮シ豫
備品ヲ載セ將チ来ル故愈以テ所挾キマデニ混乱
ス正五ツ開門ノ規則ナルヲ以テ城樓ノ鼓聲五打
セラレヤ門番出テ来リ市ヶ谷御館ト呼ブ是レ
ハ尾張藩邸ノ所在地ナルヲ以テ尾州藩ノ献上物
先ヲ靜ニ門ニ入ル次ニ赤坂御館ト呼ブ紀伊侯ノ
釣臺進ム小石川御館ト呼ブ水戸家ノ荷物入ルト

云フ順序ニテ次ニ御家門連枝トテ分家ノ物入ル
次ニ國主大名以下諸藩ノ士前後シテ我後クレジ
ト進入レ受取時間正九ツ時ニ外レ又振ニト競フ
テ以テ此ノ藩ニ於テモ事慣レタル常府ノ江戸役
人ヲ選定シテ具ノ任ニ當ツ田舎ヨリノボツト出
ノ侍ニテハ物ノ用ニ立タズ
献上品中將軍及ヒ御臺所ノ賞譽ニ與カルモノハ
幾許モ無シ魚類菓物等或ハ奥向ノ指顧ヲ買フ丁
アルモ丹波七藩ノ献上品ニ至リテハ一顧半眛セ
ラル、モノ少許モ無シ外封ノ儘ニテ寵臣愛姫ノ
下賜トナル中ニ就キ當藩ノ山椒ハ裝飾ノ類少キ
ヲ以テ賞覽セラル、ト有リトゾ不用ニ属スル分

ハ献上品ナルモノニ賣却セラル時服ハ三枚揃セ
兩ニ分ノ價ヲ以テ呉服所ニ下ゲ呉服所又コレヲ
諸藩ニ賣リ献上品トス此ニ於テカ一品幾度カ平
川口ヨリ入り將軍ノ前ニ出テ平川口ヲ出テ呉服
所ニ廻轉スルナリ今ヨリ之ヲ回想スレバ兒戯ノ
復習ヲ爲スニ過ヤスト雖ツノ時ニ在リテハ怪シ
ムモノ無ク當然ノトトレタリシナリ

山越田信長公佩用之扇及高



(此物は建永元年に作られた)

建永元年に作られた此の扇は、
山越田信長公の佩用として
用いられた。この扇は、
金作りの柄に、銀の
船身と、舟の帆、
舟の物、舟の浮き、
舟の金、舟の手、
舟の指、舟の

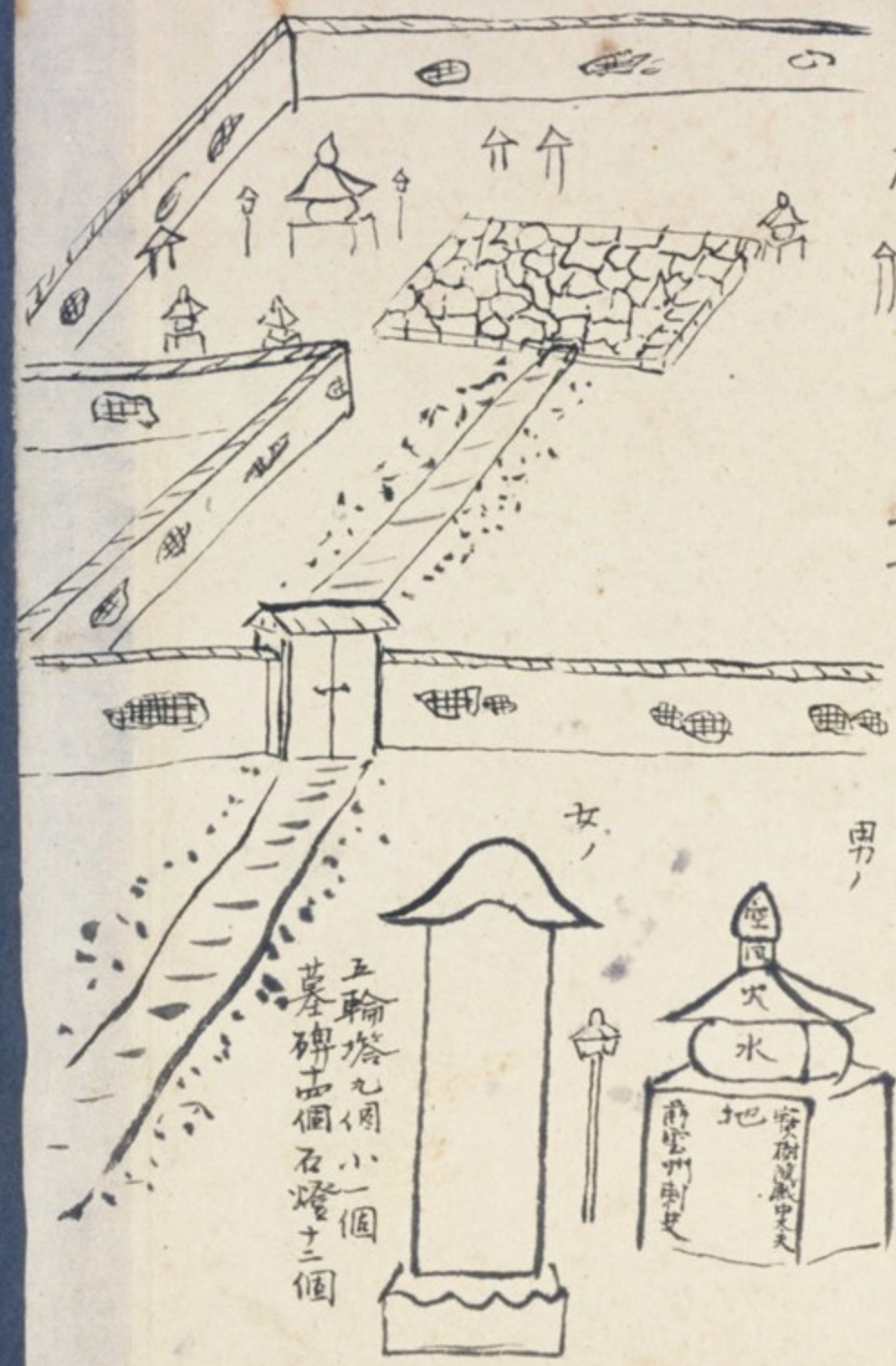
如右に示す如く、
信長公の佩用として



信長公の佩用として、
建永元年に作られた
この扇は、山越田信長公の
佩用として用いられた。
この扇は、金作りの柄に、
銀の船身と、舟の帆、
舟の物、舟の浮き、
舟の金、舟の手、
舟の指、舟の

信長公の佩用として、
建永元年に作られた
この扇は、山越田信長公の
佩用として用いられた。
この扇は、金作りの柄に、
銀の船身と、舟の帆、
舟の物、舟の浮き、
舟の金、舟の手、
舟の指、舟の

京都府立総合資料館所蔵

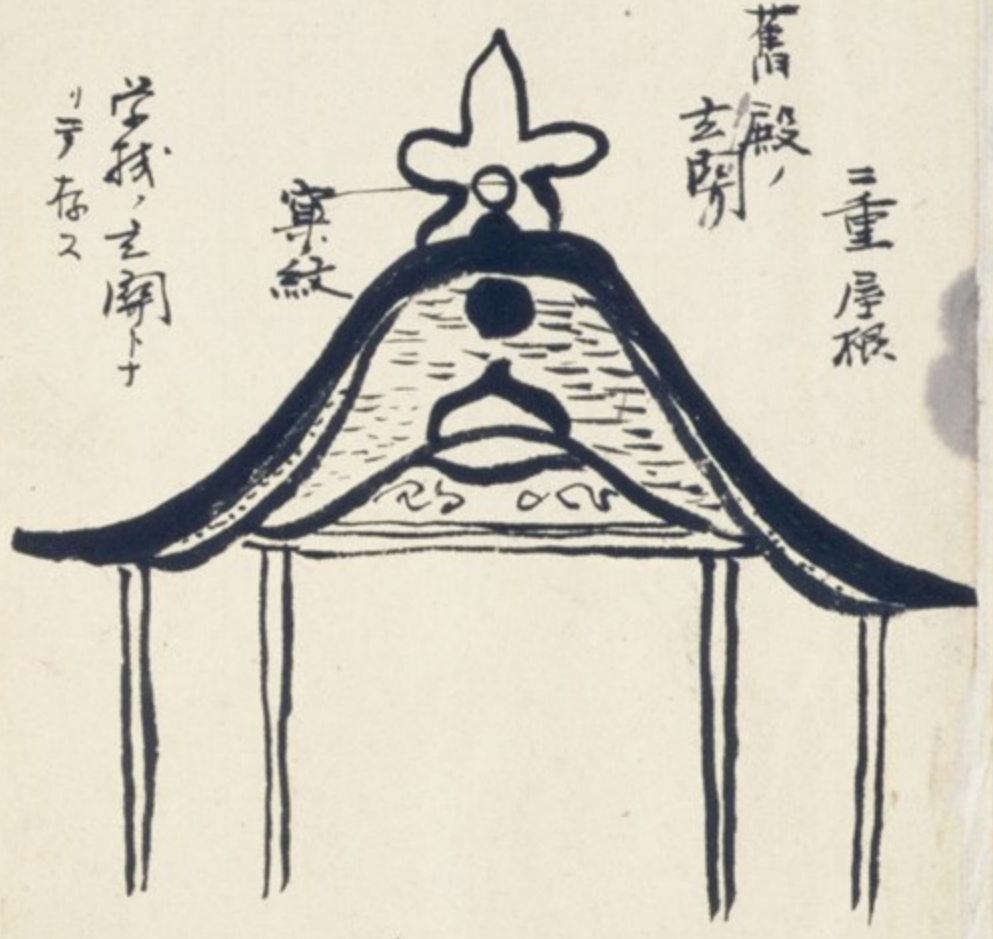


墓地内 菩提所 德源寺 今ヤレ
庭園 土垣了 躑躅花 時日 最喜ナキ

五輪塔 九個 小一個
墓碑 古個 石燈 十二個

空
火
水
地
安
樹
藏
史
天
南
室
州
刺
史

三尺余
門額
三尺
尚德門
小島慎



舊殿
玄關
三重屋根

学校之廟トナ
リテ存ス

竊紋

藩學ヲ崇廣館ト云フ徳川氏ノ教頭林大學頭ノ名
 ツケタルモ其ノ書モ林氏ノ手蹟ニ係カル扁額
 ヲ掲ゲ朱氏學ヲ主トシテ藩ノ子弟ニ授ケラレタ
 リ門額ハ小嶋某ノ手迹ニシテ是ハ藩儒ニテ能筆
 ナリ
 兵制ハ學術トシテ武田流一名甲州流ヲ用ヒ安政
 年間ニ至リ山鹿流ニ轉ス慶應年間洋式ヲ阿蘭
 陀ニ采リ洋銃ニ刀槍ヲ加ヘ用フ隊伍ノ編製ヲ改
 ヲ山風隊ヲ城隊折衝隊ト爲ル而シテ猶武田信玄
 ノ不動如山其疾如風ヨリ取リテ山風隊ト名ツケ
 他二隊ハ詩経ヨリ取レリ
 公役ノ事ヲ叙スルニハ先ツ年々ノ江戸上下ヨリ

甲斐志

江戸ノ城門勤番朔望ヤ式日ノ登城老中諸家
 ノ問候等ハ常ノトシテ元和六年江戸ニノ丸
 西北東ト本丸ニノ丸南面ノ普請手傳大阪玉造等
 合セテ十九間五尺五寸二分手傳 明曆三年丁酉
 正月十八日江戸大風大火本邸類焼ニ付銀子百五
 十貫及ヲ賜ハル 延寶八年徳川將軍家細薨スル
 ニヨリ白銀三枚ヲ靈前ニ供フ

貞享三年錢砲改アリ謹状ニ錢砲ノ數及ヒ彈丸焰
 硝ノ量目ヲ具上ス 享保十七年儲米檢見使栢原
 ニ入ル 寛永元年三月朔日ヨリ大和川流域轉換
 工事ノ役ニ服ス大阪城北ニ流ル、舊河流ヲ廢シ
 更ニ河内國栢原ヨリ新流域ヲ疏鑿シ摂津和泉國
 界ニ導キ以テ南海ニ注グノ新川線延長四里二十
 八町 車ヲ共ニスル他四藩ト同カ將軍細吉ノ褒
 狀及ビ時服ニ十襲ノ賜アリ 江戸本丸山里丸修
 築手傳 大阪玉造口西詰修繕手傳 北手雁木坂
 東通同本丸東北隅ヨリ櫻門東詰迄手傳 同五年
 玉造口西詰ヨリ大手南詰マデノ修築手傳 以下
 畧ス 同二十年江戸ノ防火夫六十人ヲ出カス慶

江戸
 城
 志

萬石三十人ノ割當ナリ 寛文五年七月十三日夫
人太子家老等歸國隨意ノ令出ヲ國部藩ノ部同二年
卯十月二日夜四ツ過十時ノ午後江戸大地震大火災大
名小路ノ本部大崩壊 延享三年十月十一日判物
朱印ヲ賜フ是レハ從前幕府ヨリ祿高二萬石被下
云々ノ書付ニ將軍ノ證印アリレヲ改正シテ下分
渡サレタル謂ハ所ル御朱印ニシテ最大切ナルモ
ノトシテ旅行ノ時ニハ行列ノ前列ニ在リ士卒ノ
爲ニ護衛セラル在府在國ノ時ニハ表ノ間ニ置キ
宿直ノ士コレヲ守リ出火出水等非常ノ時ニハ宿
直ノ士コレヲ護衛シテ立退ク等ノ定規アル藩ノ
寶物ナリ參照ノ部 寶曆十二年五月二十二日達書

ニ云ハク一無城ノ面ニ居所在来ニ分修復申付ル
儀ハ柳屋ニ不及新規塙ヲ塙或ハ石垣土居等築立
ル歎ク後外不依何事新規ニ依ル何ニ上善傳テ
此中付ル是レハ城主タルモノ、野心ヲ抑止及逆
ヲ企ツル等ノ舉無カラシメンカ爲ニ慶長元和以
前ノ通りニシテ増築セシメタル添令ヲ守ラシメ
無城ノ輩ニ於テハ其ノ虞ナキヲ以テ寛大ノ所置
ヲ示シタルナリ 弘化元年五月江戸本丸焼失ニ
付キ献金ス 同六年將軍家慶薨去家定將軍立ツ
ヲ以テ聖安政元年甲寅誓書ヲ奉ル謂ハ所ル御代
替ハリ御奉書ニテ文白ハ御家ニ對シ奉リ從前ノ
通り忘勤ヲ勵ニ野心ヲ扶マザルノ意ヲ表スル也

叫
城
志

ノナリ後醍醐ノ部ヲ文久三年十月但馬國生野銀山
ニ浪人北條集シ公卿澤主水正ヲ大將トシ地方ヲ荒
ラシ回ルニ付テ京都守護職松平肥後守藩主ヨリ
出兵ノ重ヲ令ス戒嚴準備中同國出石藩兵出陣シ
テ事始マリ兵ヲ出カサズシテ事止ム然レ氏領地
ノ要所々々ニ戍兵ヲ置キ往來ノモノヲ檢シ非常
ニ備フ一年ニシテ止ム後醍醐命アリ京西皆掛驛
ヲ守リ又朱雀口ヲ警衛ス將軍上浴アル毎ニ二
條城ニ謁見ス元治元年清和院門ヲ守ル京禁九門ノ一
幕軍ノ大阪ヨリ侵入スルヤ唐門ヲ守ル信二云所ノ幕
軍敗退スルヤ近江坂本ニ移兵ス同十日山陰道
鎮撫總督西園寺公望卿ヲ護シ山陰道ヲ經過シ

ル藩兵三月ニ至リ大阪ヨリ還ル同月御親征ノ
供奉トシテ藩主兵ヲ率テ大阪ニ至ル命アリ俄
ニ八幡ノ守兵ヲ出カシ更ニ京都ノ留守トナリ又
兵ヲ出カシ大津街道追分ヲ守ル其ノ他ノ小事ハ
之ヲ畧ス之ヲ綜フルニ小藩ノ情々ナサ天下ノ大
慶勳ニ於テ何ノ爲ストモ無ク曩ニハ幕府ノ命ニ
奔リ後ニハ薩長土三藩ノ願使ニ供セラル、ノ親
ヲ呈ビ京人ノ口サガ無キ丹波大名ハ枯木モ山ノ
ニギハヒナリト朝ケラル、ニ終レリ吁

四王天塚



明治元年幕府ヲ廢シ漸次封建制度ヲ廢セシトシ
 官吏公選ノ制ヲ立テ門閥因襲ノ弊ヲ改メ其ノ十
 一月執政參政公議人ヲ撰任セシム二年六月版籍
 奉還其ノ二十五日藩知事即舊領主ノ家祿ハ従来
 ノ實收入十分ノ一ト定メラルル四年四月廢藩置縣
 トナリ地方ノ權力中央政府ニ集合シ政事漸盡ニ
 歸ス 當時ノ藩政官吏 藩知事 大參事 權大
 參事 小參事 大屬 權大屬 小屬 權少屬
 史掌 廳掌 捕亡手 二百三十七藩ノ一ニ居レ
 リ舊幕領及旗下士ノ領地ハ維新早々縣名ヲ附セ
 ラレタリキ

天保以降諸藩ノ疲弊次第ニ過重シ孰シモ一時ノ

四王天塚

彌繼末ヲ施シ以テ其ノ急ヲ救ハントセシガ當藩
モ塩會所ヲ置キ專賣權ヲ掌握シ炭會所ヲ設ケ機
織場ヲ設ケ薪炭布帛木綿及物ヲ糶スル又ハ漆樹
栽培ノ獎勵アリテ藩有瓦有ノ別無ク空地アレバ
其ノ大小廣狹ヲ問ハズ之ヲ裁ハシメ阿草村大名
草村ニ銀鑛ヲ索メ田中村ニ鑛物師ヲ置ク等採利
上寧日ナカリキ
廢藩置縣トナリ士族ハ常職ヲ失ヒ生計ノ道ヲ立
テ自治セザルヲ得ズ藩侯ハ其ノ窮ヲ視ルト雖コ
レヲ救フノ道ナク空年ニシテ大政府ノ恩惠ヲ待
チシニ秩祿公債ト云フ名モテ各自ニ證文ヲ下渡
セラレタリ其ノ受領額ハ金壹萬三千二百圓外ニ

全祿公債八萬一千四百十圓ナリトス
藩札ハ享保十六年ニ發行シ天保四年増發シ不換
紙幣タルヲ以テ次第ニ信用ヲ失ヒ價格ノ墜落ス
ルカ故ニ藩政ノ豫算ニ始終狂ヒテ生ジ隨テ狂
ハバ隨テ増發シ明治初年ニ至リテハ錢札ト云
フ藩幣ノ高實ニ五萬貫文ニ昇レリ一貫ト云フハ
幕府公通ノ錢十緡ニテ一緡九十六文ヲ貫クモノ
十個ノ名ナリ其ノ五萬貫ハ五千兩ニ直ルヲ以テ
之ヲ交換スルニハ五千兩即五千圓ヲ與ヘザル可
ウザルニ政府ハ三千五百九十九圓六十錢ヲ下シ
以テ藩札ニ換ヘ區々ノ通貨ヲ一定セシメタリ其
ノ五千圓ニ對スル三千餘圓ハ藩札呼價ノ下落其

財政志

ノ手ニマデハ下ラザリシカノ疑問アリシカ然ラ
ハ其ノ故ハ當時大政府發向ノ太政官札及ビ大阪
奈ノ千羽鶴札等堂既ニ乱發セラレテ常格ヲ失ヒ
タリ其ノ失格ノ札モテ引換ハタルナレバナリ
然ルニ茲ニ不思議ナル現象アリテ當藩有司ニ一
驚ヲ喫セシメタル物語ヲソアレキハ一橋家ノ銀
札コレナリ當時ノ諸藩ニ於テ疲弊スルカラニ銀
札錢札豆札米札ナドノ名称モテ紙幣ヲ發行シタ
ルニ一橋家ノ有司ハ深謀遠慮シ禍ヲ未前ニ防ギ
ツ、紙幣ヲ發行シタルニ職由ス其ノ方途タルヤ
一橋慶喜公カ京都守衛トシテ來ルヤ幕府ヨリ給
與シタル用途金壹萬兩ヲ領地ナル播州今市ノ富

賈豪片ニ托シテ豫金トシ又大阪ノ富高ニモ托シ
テ正貨準備ノ基礎ヲ固クシ其ノ額數ニ滿ツル迄
ヲ漸次ニ發札シ以テ用途ニ供シタリ故ヲ以テ正
貨ハ豪高富戶等ニテ使用シテ利ヲ射ソレヨリ得
ル金銀ノ幾分ハ利子トシテ一橋家ニ入ル其ノ利
子ハ正貨ニシテ以前發ノ紙幣引換ニ供スルヲ以
テ信用ノ深ク民心ニ沁ムテ他藩濫發ノ紙幣ニ異
ナリ從テ引換ヲ乞ヒ出ルモノ稀ニ終ニ三萬圓
ノ増發ヲ爲シ猶且十錢札ハ十錢ノ價格モテ當地
ニ通用シ當藩札ヨリモ一橋札ヲ要求スル人氣ニ
ナレリシナリ

藩士問答

叫
岐
志

私方ハ君侯初代カラ續イテ居リマス家デ尾張在
住ノ時分カラ隨從シテ君家ト共ニ幾浮沉致シ此
ノ地ハ参リマシテ漸ク落キ附キニ百年モ移轉致
サス尻カ坐ハリマシタノデス先祖ヨリ表役ヲ勤
ノマシテ老年ニ及ビマシテカラ政事ニ立サハリ
マス併シ若年ノ時ニハ扈從ヤ近習ノ様ナ眞勤メ
モ致シマス左様デガガリマス戦争或ハ訓練_{ノ録共}
ニハ采配取ル_トヲ許サレマス御承知ノ通り安
政年間ヨリハ采配ナドモ要リマシタカ先ツ其ノ
御話ハ抜キニ致シマシテ見附ケ當番ノ_トヲ申シ
上ゲマシヤウカ大番ニナリマスト神田橋見附
ケトカ何ントカ本丸近傍ノ大見附ケニナリマス

左様有名ナ彼ノ櫻田ナドハ大目附ケテ大中藩
テ當番致シマシタ様ニ記憶致シマスガ辭藩ナド
ハ浅草ヤ筋違橋ヤ何處ヤ角ヤデ中ニハ相番モア
リマシテ二藩デヤ_トモ記憶致シオリマス
月換リテス故見附ケ月番トモ申シタデス一寸
見マスト火消シノ様ニモ見エマス其ノ譯ハ騎馬
デ出マス故リノ前ハ馬標ヲ立テマシテ士分ヤ足
輕ガニ列ニ並ヒマス火消道具モ携ヘマス其ノ
火消シト違ヒマス所ハ弓銃ナドノアルノデス
大凡ソ百人位デス其ノ勤メ向キデスカ非常ノ
警衛カ主ナシデスイヤ難沓ナモンデ見附ケニ
ヨリマシテハ町人モ通レバ百姓モ通り大名去リ

町
成
志

旗本来ルト云フ様デ夏ハ埃ニ冬ハ風雪ニ刊織ハ
埃ニミレニナリ珍ハ時ニヨリマスト雪カ積リマ
ス何分ニモ廣キ場所ヲ前ニ扣ヘテ風ノ絶エ又土
地デス故ナリ具ノ内ニハ君家親類ノ大名旗本
ノ通行モアリ老中若年寄以下ノ役々ノ往來モア
リ夫レ相應ノ會釋カ要リマスト夫レハ見張番カ拍
子木デ知ラセマスト出張役ノ内ノ徒士カ誰様デ
ゴガリマスト注意致シマスト故ニ下坐モアリマ
スカ中ニハ面白イ話モ出マス雪カ降りマスト
金カ降ルト申ス丁カアリマス掃除スルノガ手
間賃ニナルノ意ナシテス見附ニハ雇人夫ガア
リマシテ甲ノ大名カ當番ニナリマスト甲ノ法被

ヲ着マシ乙ノ大名ニ代ハリマスト乙ノ印シ
半纏ヲ着マシテ相手換ハレド主代ハラスト云フ
者デスカ夫レ等カ雪降テラ待ツノデス地面カ白
ヲ見エマストルノラ程トシマシテ一同竹蓆ヲ持ツ
テ出テ掃キマスト一人前四文銭十個位ニナリマシ
タデシヤウ之ヲ受ケマスト直ニ四文屋へ走
リマス筋違橋内ニハ之レガ多クアリマシテ四
文ツ四文フト言フテ酒一盃四文銭一切四文鱈ヤ
蝦ノ揚ケタモ四文ツ、下戸ハ餅圍子カヤタノシ
ナド皿盛茶碗盛一盃カ矢張り四文ツ、ソコデ
奢ルノガ最上ノ愉快ヲシク見ヘマシタ
私ハ江戸留守居ヲ勤メテ居マシタ此ノ役ハ大中

町
史
志

小藩トモ一人ツ、有リマシタ具ノ原ヲ鐸ネマス
ルト君侯ガ在國スルトカ旅行又ハ在軍スルノ際
ナドニ於キマシテ師第ヲ守ル役ニシテ家老タル
モノ、爲ルテシタカ何日カハ專門交際官トシテ
モ申ス様ニナリ世襲職トナリ君主在江戸ノ際ニテ
モ矢張り留守居ノ名ヲ以テ幕府ヤ仲間大名ヤノ
間ヲ往來致シ大名仲間ノ一致ヲ謀ルトシテ申ス
様ナ相談ヲモ致シマシタ中間ト申スノハ柳ノ間
大名ヲ申スノテス弊藩ハ君侯登城ノ際ニ柳ノ間
ニ詰ノマスルノテ柳ノ間大名ト申スノテス留守
居ノ権カハ大名ヲ左右スルトマデ申シマシテ留
守居中間テ決議シタル事柄ハ一藩ノ方向ヲ定メ

マシタ會合ノ例日ガ毎月一回大料理屋ニテ開カ
レ留守居ノ順序ハ勤務年限ノ新舊ニ由リ着席シ
君主ノ家格ヤ祿高ニハ因リマセナシガ豪遊留連
ハ常例ニテ其ノ入費支辨ハ皆夫レノ藩々ノ復
擔テアリマシタ今日テモ聞キ覺エテ居マスカ留
守居カ黨ヲ結ビ主人ノ命ニ從ハサル者ハ届ケ出
テヨトノ幕命ガ寛保三年六月朔日ニ下リマシテ
カラ一時ハ勤慎シタ様シタカ寛政元年留守
居寄合弊害ニ付嚴命アリ同七年前命漸クエルニ
タルヲ以テ再嚴命アリ天保弘化嘉永アタリテ
ハ以前ヨリモ盛シニナリマシタ併シ外國事情ガ
起コリマシテカラハ其ノ勢カ周旋方ハ移リマ

丹波志

レテ留守居ハ真ノ留守居トナリマシタ(文久四年幕
府大改革ノ節ニ留守居付合不相成トノ旨出テタリ) 遂論臣宋利加渡
来以後ノ事件中ニ出タス) 周旋方ノマデスカ 私ハ具ノ役
義ニ關係シマセンヲシタ故委細ハ申シ上ゲ兼不
マスガ私ノ藩カラモ一人差シ出シマシタ 安政
以後幕府ヨリノ達シ書又ハ大名仲間ノ往復書類
カ従前ニ替ハリ漢文漢語交リトナリ 普通ノ者ニ
テハ讀ミ兼不書キ兼不マスルノヲ諸藩カラ文才
アルモノヲ拔キ揚ケテ此ノ役ニ致シマシタ由リ
テ弊藩ヨリモ藩校ノ助教ヲ致シテ居マス者ヲ其
ノ役ニ致シ在京致サセマシタ ソレ等カ維新ノ
除ニ徴士貢士トナリ朝政ノ顧問ニモ爲リマシタ

此ノ時ニハ柳ノ間ジヤノ帝鑑ノ間ジヤノト云フ
様ナ幕制ハアリマセシテテ周旋方ハ孰レノ
大名ノ周旋方トモ交際致シ國家ノ事ヲ議論致シ
マシタ様ニ覺エテオリマス 其ノ漢文漢語ノ流
行ト申シマスノハ西采利加使節ト交換シマシタ
幕府ノ達シ書ヲ幕儒ノ林大學頭カ作文シタノガ
始マリト覺エテ居リマス 其ノ周旋方ハ外國ノ
事情ヲ探リ朝旨幕意ヲ窺ヒ勤王藩論討幕世議ト
カ長藩處分交易許否トカ何トカ角トカ新規起コ
リ来ル問題ニソキ討論致シ藩々ノ虚實天下ノ形
勢浪士ノ勢カソノ他天下ニ關係スルヲ見聞シ
逐一團元ニ報告シ藩ノ方向ヲ立テル機關デシタ

谷水石ヲ通稱ヲ右京トス當藩士ナリ人トナリ沉
穀慷慨狀貌魁偉能ク五斗俵ヲ戲弄ス藩中ノ有力
者能ク及ブモノ無シ安政年間洋艦浦賀ニ采リ海
内人氣鼎沸スルニ當リ福山侯幕府ノ當路トシテ
之ヲ許シ内外ノ互市ヲ爲サシメ國利ヲ舉ゲレト
スト聞キテ上書シ其ノ不可ヲ陳スルニ文句激烈
ヲ極ム而モ報セズ此ニ於テ深ク自謀ル所アリ環
海ノ固ニハ防禦ナカル可ク又ト自ラ一小銃ヲ製
ス從前在ル所ニ異ナリ其ノ奇巧人ノ意表ニ出テ
見ル者ヲ驚セリ後年洋船廢ス所ノ元込銃コノ一
小銃ト畧ソノ工夫ヲ同フス一日山中ニテ一雉ヲ
射ツニ一毛ヲモ換セズ因テ嘆ビテ曰ハク柔能ク

剛ヲ制スト信ナル哉是ヨリ羽毛ヲ以テ銃ヲ禦
ガノ一盃ヲ案出シ盃成リ之ヲ車楯ト名附ケタリ
加賀侯之ヲ聞キ之ヲ聘セシテ製造セシメテ之ヲ
實彈ニ試ムルニ水石ノ言フ所ノ如シ明治五年維
納府博覽會ニ出品セヨト朋友池田忠一ノ勸アリ
之ヲ出サントスルニ形大ニシテ積載ニ便ナラズ
便ナ小銅製ノモノヲ作ル從前カ、ル事ニ資金ヲ
費シ今ヤ一匳爲ス可ラズ忠一惜シテ之ヲ勝海舟
ニ誌ル海舟ハ安房ト稱シ幕府ノ舊臣ニシテ朝野
ニ威望アリ海舟一見シテ其ノ奇巧ヲ賞シ之ヲ山
縣陸軍卿ニ薦ム銃ヲ以テ之ヲ射タシムルニ百發
シテ一洞セズ因テ之ヲ維納ニ送り澳國博覽會ニ

京都府立総合資料館所蔵

陳列セラレ日本ニモ發明家アルヲ知ラシメタ
リ仙臺侯之ヲ聞キ十人扶持ヲ饋ル森川侯水石ヲ
乞フテ其ノ臣籍ニ入レシトス辞ス慶應戊辰ノ年
徳川家ノ親藩田安侯顧問ト爲シ七人扶持ヲ給ス
水石爲ニ言ヲ盡ス侯盡ノ用アル能ハズ乃辞シテ
歸ル明治十年病ニテ東京ニ歿ス年七十七日暮里
南泉寺ニ葬ル

田氏 捨女 田村將軍ノ裔ニ田氏アリ捨女コノ
家ニ生マル三四歳ヨリ天才ヲ發起シ六歳ニシテ
柘永貞徳ニ學ブ聖の銘ニ乃字ノ下駟乃迹ハ其
ノ六歳ノ冬ノ作ト云フ宮中ニ聞コエ萱原ニおし
ヤ捨是く露乃玉ノ句ヲ下シ賜ハル和歌ヲ季吟ニ

學ビ連歌ヲ松堅ニ受ク執意ニヤ子代ヲ教クク花
ウツほ うき中よなれ々聖の嫁菜ヲ交 ひく
らーや捨ておいても尋ふ日とナドアリ 粟の
穂やみハ新なるぬ女郎花ノ句ハ前示下賜ノ答句
ナリトモ云フ石ニ彫リ公園ニアリシヲ田氏ノ墓
所ニ移セリ世歳ニシテ宗族ハ嫁シ數年ナラズシ
テ夫ニ死ニ別カレ髪ヲ剃リ妙融ト名乗リ幼年ヨ
リ學マレル萍土宗ヲ改メ播州ニ出デ網干ニテ盤溪
禪師ノ教化ヲ受ケ不徹庵ヲ同所ニ結ビ造詣頗深
シ元禄十一年八月菴中ニ没ス年六十一嶺雲貞閑
禪尼ト戒名ス秋風の吹きあふりみ多御心ほそ
くも教ふ夕や那ヲ辞せノ句トスレドモ禪味ヲ嘗



青木

青木
 大田路
 名目

ノタル人ノ句トハ思ハズ一説ニ髪ヲ剃ル時ノ詠
 歌ナリト云フ一説評セニアラズ盤桂ニ謁見ス
 ルニ際シ作レルモノト云フ當時周女秋色女智月
 女捨女ヲ以テ女流ノ四傑家ト言ヒ囃サレタリ
 真蹟丹冊ノ寫
 瓶月よりん此君と夕アハ
 ステ

京都府立総合資料館所蔵

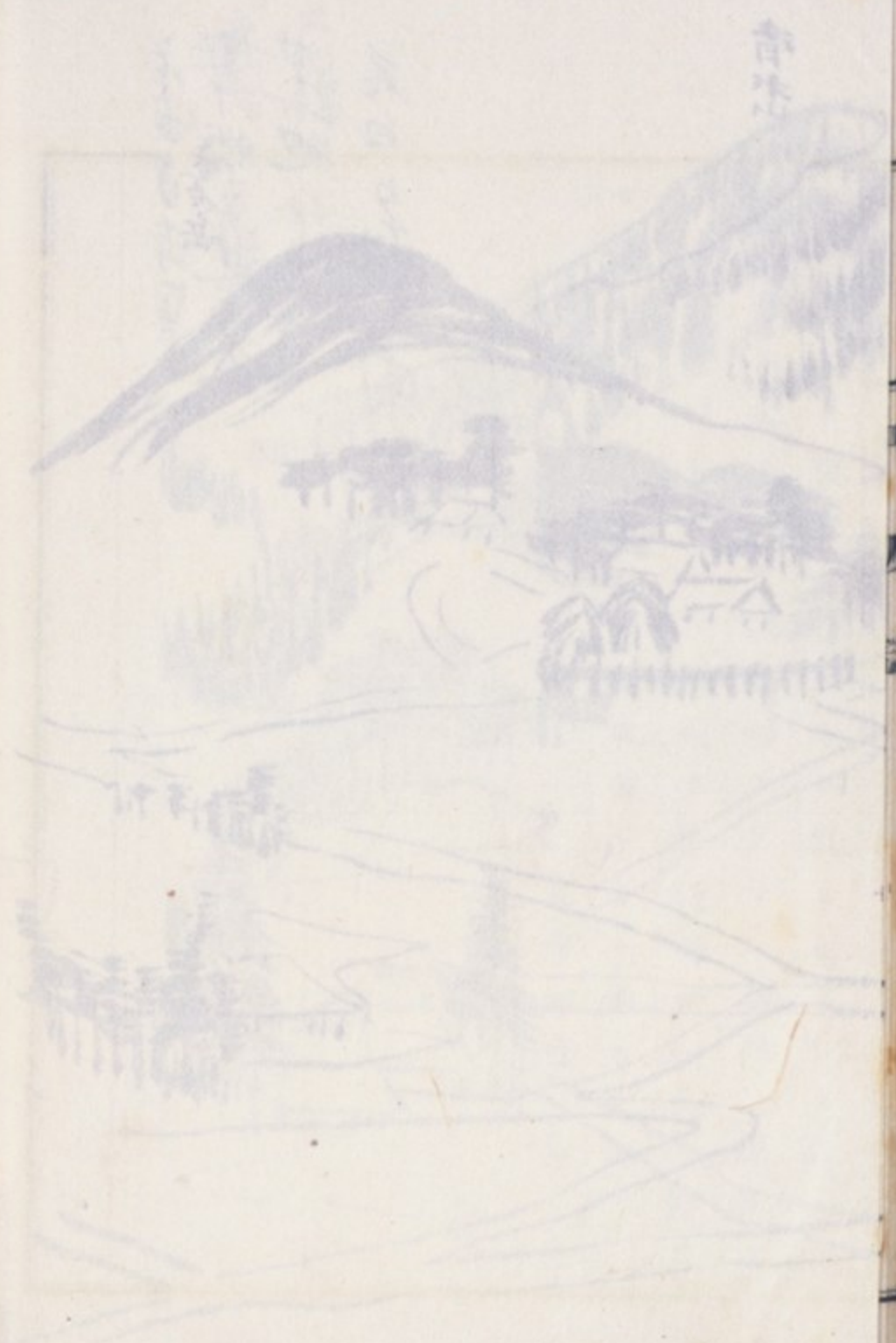


清水

矢石岳

大田錦城好水楊
 真因以自娛
 石文晁真寫
 數十幅而遊之是
 其也
 名曰石山園

京都府立総合資料館所蔵



八幡山戦記

天正三年正月明智光秀其主織田信長ノ命ヲ受ケ
来リ攻ム然レドモ攻城野戰毎ニ利少シ信長其將
羽柴秀吉ノ策ヲ用ヒ秀吉秀長ヲシテ兵四萬ヲ率
ヒ西丹ヲ侵サレハ氷上城主波多野宗長其子宗貞
出テ、八幡山ニ陣ス其ノ兵三千餘別ニ一萬ヲ分
ツテ所々ニ配置ス五日秀長等来リテ柏原村ニ入
リ大ニ戰フ秀長ノ士小田垣但馬守同藏人臼井備
後守成合備中蓮池宮内竹内左近飯島民部少輔渡
邊忠右衛門香川舍人同主馬白石源太夫出石源左
衛門内藤身人田邊孝四郎栢田宗慶真野藏人神吉
藤太夫小寺新左衛門櫛橋右近等之ニ死ス宗貞北

八幡山
戦記

ガルヲ追フヲ久下ニ至ル九日秀長復来リ八幡山
ニ逼ル宗長三ヲ防ガ能ハズ諸將ヲ會シテ軍略ヲ
定メ十九日退テ氷上ヲ守ル既ニシテ久下敗レ氷
上陥リハ上又従フヲ七ノ是ニ於テ光秀西シテ金
山城ニ入ル八月九日ナリ
九月中旬光秀六千餘騎ヲ將ヒテ又来リテ八幡山
ニ陣シ四邊ニ陣營ヲ設クルト六七所將ニ以テ黒
井高見ヲ攻メシトス赤井七郎左衛門ノ屢出デハ
戰フヲ見ルヤ光秀謂ヘテテ敵騎レリ敗ク可キナ
リト因テ密ニ諸將ニ令シテ曰ハク明智左馬介等
ハ伏兵トシテ荒木勘解由等ハ遊軍トシテト部署已ニ
定マリ明日又會戰ス松田太郎左衛門等先鋒タリ

進戰シテハ進敗ス敵愈進ム光秀陣ヲ舍テ、大敗
ノ快ヲ爲ス敵情驕ツテ愈進ム此ニ於テ伏兵其ノ
前ニ起リ遊軍其背ニ出テ叫聲山谷ニ響ク四方田
ノ兵又加ハル赤井ノ兵斃死スルモノ千五百悉右
衛門僅ニ身ヲ以テ免レ將ニ黒井ニ入ラントス黒
井城ニ烟焰ノ熾ニ起ルヲ見テ以テ爲ヘテテ敵已
己ニ我が城ニ入レリト乃進ンデ戦ヒ遂ニ林羊四
郎ノ殺ス所トナル高見城從テ潰レ明智十郎左
衛門ノ奪フ所トナル 右軍實多クノ相異アリ
黒井ノ部ニ於テ一説ヲ出ス孰レカ真孰レカ偽者
者ノ判定ニ任ス
狗猫集ニ 月子た、昔くを思ひやり 叔長さ子是る伊

丹波志

勢とのうたり

このありはまき丹波地乃秋ありし
いつみても只聚の
ちうさ

常盤なる神前山の柳をさしてまいるのたえ義集

みのことかまひの山のたねをつくらぬもつらぬ四方の人哉名は匡房

みよゆふ看よとく神るひ乃山の柳をさしてまいる名は匡房

神系備ハ神並ニミテ森ノトナリ故ニ園々到ル所コ

レアリ今日具ノ名残ヲ停ノタルハ丹波出雲大和

ナドトス柏原ノ小南山ハ神並ノ訛カ右ノ歌ハ丹

波ノ部ニ出デタルモノト知ルベシ何麻郡上林ノ

大字 上小倉村 元録高三百二十一石寛政改三

百十五石ニ斗七升一合 文久三百十五石五斗一

升九合當時氏家七十戸京都住幕府代官小堀數馬

ノ支配所ニテ謂ハエル天領ナリ古来天領ト云ハ

ハ幕府直轄ナルヲ以テ之ヲ唱ハテ隣村近邑ヲ蔑

視スルノ風アリタリ

鐘ヶ坂ハ此ノ地ノ多記郡進入村トノ境界ニ於テ

ル峻坂ニシテ但馬因幡地方ヨリ大坂京都ハノ行

旅往還ノ衝トス柏原石生本郷蘆田佐治ヲ過ギ遠

坂嶺ニ達シ但馬ニ入ルベシ本郡第一線路ナレド

モ登降頓嶮ニシテ行人歩ニ難ニ當郡隣郡産物出

搬ノ艱ニ等アルヲ以テ本郡ノ人田能吉郡長土田

雅ニ片山助右衛門ニ崎善七等多記郡ノ園田多祐

ト謀リ隧道鑿開ノ舉アリ三十四閏月ニシテ明治

京都府立総合資料館所蔵

十六年竣功ス洞道延長百四十間餘六萬三千ノ工
夫年間ト四萬餘圓ノ黄金ヲ以テ無涯ノ利ト後世
ノ益トテ産出セリ迄未鑛道ノ開敷アリテ通行ノ
跡差ク著條ノ嘆ヲ免レ必洞口ニ當時ノ太政大臣
從一位三條實美公ノ書ニ成ル鑿山化居ノ四字ヲ
彫ル其ノ他ハ多紀郡追入村ノ部ニ記入ス
獅子山圓成寺 上下小倉ノ境ニアリ菅洞宗圓通
寺ノ末寺ナリ背後ノ山形獅子ノ蹲踞スル容アル
ヨリシテ取り以テ山号トス 本尊聖觀音開創年
月詳明ナラズ中興ハ是三和尚ナリ慶長十二年圓
通十四世武山和尚來往シタリ境内六百五十三坪
除地ナリニ 本堂庫裏禪堂位牌堂般若堂鐘樓門

等具ハル境外ニ放生池アリ金神池ト云フ門額ハ
彦根人漢三ノ書ニテ丹陰法窟トアリ寶物ハ
法皇ノ和歌弘法大師ノ畫十六善神 雪舟ノ筆 出
山輝迦 狩野宗伯ノ筆 十六羅漢 柏原藩主織田信親
公念持佛 弘法大師作ノ十一面觀音等アリ
四世和尚ノ時金神ノ靈驗アリテヨリ來詣ヒテ方
除ノ守札ヲ乞フモノ陸續絶エズ日フ此ノ札サハ
アレバ方忌方崇無シト又嬰兒ノ生育ニ難メルモ
ノニヒテ開山ノ子分トナレバ無病息災ニシテ健
全ニ成長スト言ヒ囉レ來詣是レ亦夥ニ
金山城址 多紀郡界ニアリ登路十八町ノ山上ニ
アリ天正七年八月落去 赤井臣右衛門カ手勢ヲ

丹波志

込ノ置キ織田軍ヲ防ギシ所具ノ後ハ光秀ノ臣居
守セリ進入村ノ部ニ入ル

式内 荏野神社 葛原親王ヲ齋キ祀ル石礎八十

級 石華表アリ石柱ニ式内荏野神社ト刻シ左側

ニ上小倉村鎮座ト刻シ右側ニ水上郡十七座具ノ

一ト刻セリ

小倉ヲ古ハ大倉ト云ヘリトラ榮花物語ニ出テタ

ル長和ガ至基方ノ歌ヲ引クモノアリ果シテ然ル

ヤ否具ノ歌ハ

みづゝみゝつゝみほくら山まきまきむらつゝあはれ

大字 下小倉村 寛政改斬數百箇 柏原藩領 高

五百九十二石三斗四升ニ合 文久五百九十四石七斗

ニ合
不動山瀧寺ハ石舟ノ瀑布ト不動佛ヲ以テ名附ク

瀑布高サ六尺幅四尺具ノ流下スル水ハ佐治川ニ

入ル 寺藏葛原親王ノ像ハ十六歳ノ時ノ御姿ト

カヤ象馬ノ所ソノ古像ハ惜ムベシ盜難ニ罹リ今

ノモノハ摸刻ニ係ル竈ニアリ鳥居ノ額亦古雅

松尾山金水寺ハ行基ノ開創ニシテ具ノ所藏地藏

尊ハ行基ノ自作ト云フ除地堅百二十間幅二十七

間アリ別ニ堅五十間幅四十間ノ除地アリ六段六

畝二十歩ノ耕地モ亦免除地ナリキ

慈雲山石門寺ハ鹿地トテ一寺ノ資格ナキモノ除

地七畝歩アリ

天竺西樂寺 元天台宗 今淨土宗 法道仙人ノ
開基 本尊阿彌陀長五尺 春日ノ作ト云フニ重門ア
リ一殿八畝九步除地

寶柳山惠禪寺 禪宗 七丈古柳アルヲ以テ柳寺
ト云フ 本尊彌陀行基ノ作ト云フ寶物ニ一休和
尚ノ書アリ

觀音堂 除地十七步 石田所
清水寺觀音堂 除地十二步
地藏堂 西河原ニアリ 除地二十八步

八幡山常源寺 真言寺 山林長八十三間三足横四
十間 内ニ田一畝四畝二十二步畑六畝二步ノ
除地アリキ
長泉山德源寺 臨濟宗 元祿八戌年大和國宇多ヨ

リ移轉セシモノ諸主ノ菩提所ニシテ紫衣地ナリ
キ
大字見長村 元祿高百三石一升三合 文久百三
石一升壹合 水野壹岐守領

大藏大明神 除地九畝十八步 讓葉植現山アリ 晝受燈ヲ祭ル
ニ畝二十四步 梅縫神社ノ古址アリヤ

惠照山成徳寺 臨濟宗 本尊觀音 聖徳太子作 釋
迦堂本尊 行基作

慶長中織田上野ノ開基ニシテ其ノ菩提所トナ
ル家臣殉死ノ墓アリ 上野ノ遺品アリ八重
ノ躑躅花ハ上野ノ移植セシモノ 庭石ニ尾
諸主ノ贈品アリニ尺ニ三尺許ノ大サ

大字 川南村高百四十九石五升 元錄改以後百
三十七石二斗四升四合二勺 民家十二戸 水
野壹岐守領ナリキ

大字 多田村 元錄改以後高五百五十二石二斗
文久高五百五十四石八斗三升九合 民家九十

本多泚路守領 本田山 明願寺 曹洞宗 除
地三町四方

大字 奥村 合高百五十八石一斗三升四合 元
錄改高百五十八石 民家二十七戸 柏原領

大藏大明神 除地三十五間二十五間 天神社
除地九間六間 城山古址アリ

大字 室谷村 高九十石一斗二升四合 水野壹

岐守領

新山柏山野 室谷外七村ニ亙ル原野東西約五町南
北二十五町

大字 中村 元錄高五百石 寛政度三百二十九
石八斗六升九合六勺 四十戸 柏原領

女郎池ハ田養水源ニシテ枯竭ノ虞無シ具ノ大
橋ハ公儀ノ御帳付ト唱ハ幕府直轄ノ普請場タ

リキ由緒ニヨリ此ノ如キ事所々ニ之アリキ京
都ヨリ幕府ノ役人來リ改造修繕等ヲ爲スナリ

檢見一例 徳川幕府ノ例トシテ一度檢見スレ
ハ五年据置トナル所多シ故ニ毎年ニ檢見役人

一名ヅ、代官所ヨリハ手代出張シ領主ナレバ

水野壹岐守領

代官出張シ田穀ノ豊山ヲ檢視ス其ノ手數ノ多
 キ今ヨリ之ヲ考フレバ一場ノ話頭ニ過キ不
 然クテザルノ觀アリ假令ハ本郡ニアル天領
 即チ幕府直轄ノ地ニシテ代官小堀數馬ノ管ヌ
 ル當村大字上小倉村ニ不作ノ田アリトセンニ
 之ガ減稅ヲ要スル片ハ村役人上京シテ本通
 リ三條ヲ四町許北へ行き小堀手代元締ナル小
 役人ニ就キ之ヲ歎願ス元締ハ之ヲ數馬ニ言フ
 テ許可ヲ受ケ之ヲ町奉行所ニ願ヒ道中往來人
 馬縫立ノ先觸ヲ山城ヨリ丹波ニ向フテ祭スレ
 バ毎宿驛籠人足持物入夫ヲ具シ相互送迎シ其
 ノ用地ニ於リ歸路亦同ニ高三百石具ノ實百八

十石ノ收入ノミニ要スル手數ナリ私領ノ檢見
 亦同ニ

丹波
 志

緋井ト書キタル
モノモアリ

黒井村

黒井村	大字	黒井村	平松村	古河村	稻塚
村	野村	古名久留井	大名ヲ	船越郷又ハ船	
城	莊ト呼ビ	十八村ヲ	兼ネタリ	而シテ	船越ノ名ハ
今	ヤ隣村ノ	モノトナレリ	往古ハ	此ノ	邊廣ク春日
部	郷トス	一ニ	春日部郷ト	書キ	其ノ
ヨ	リ一里	強北	少シ	東ニアリ	柏原ニ
リ	南北	十町	東西	二里ノ	田野アリ
ハ	住	長ナ	ラ	ガル	モ能ク
明	治	四	十	年	戸
七	及	地	價	十	三
二	十	五	萬	五	千
往	古	水	俵	高	九
					百
					五
					十
					八
					石
					三
					斗
					八
					合
					五
					勺
					元
					錄
					高
					五

黒井村
史
志

百五十八石寛政高六百四十九石五斗六升内ニ石
五斗七升米後赦免町數九個芝町横町西地下町新
町西町杉ノ下町中ノ町東町本町寛政度改民家七
百少餘文久年度高六百四十九石五斗六升
領主ハ龜山藩ナリ代官ヲ置キ以テ治ヲ布ク代官
ハ士分ニシテ下吏四五名ヲ役ス同心ト云ヒ小頭
ト云ヒ最下級ノ吏トス領知高一萬三千石ト注ス
庄屋ハ人民ヲ治ノ大庄屋ハ庄屋ヲ監ス
尋常高等ノ學校 黒井銀行 絲屋銀行 水産合
資會社 織物合資會社 郵便局ナド町村ノ施設
具ハリ旅亭モ田舎ニ於テハ稀ニ見ル所トス東西
ニ所ニ市場アリ古來ニセテ以テ市日トナセシガ

以テ需要ニ應ズル能ハザルヨリ五十日ノ日ヲ増
加スルニ至レリ從前山西ノ商況ハ成松コレヲ專
ニセシテ今ヤ其ノ半ヲ此ノ市場ニ移セリ錢道ノ
開ケ停車場ノ成リテ以來人氣益々活氣ヲ生ズ
産物 米 小豆 木綿織 西洋手拭地(たおる)
今ヤ明治政府發行ノ銀行札ヲ兌換制度トシテ通
債トナレルガ維新前ヲ回顧スレバ龜山札ニテ多
分ヲ占メ柏原札亦多量ニ入り込ニ宮津札福知山
札コレニ次ギ園部札ニ至リテハ其ノ價值ヲ減ズ
ソノ内ニ於テ龜山札ノ赤印アルモノヲ直札ト言
フテ黒井札ノ黒印ニ比スレバ之ヲ取ルヲ喜ベリ
同一藩札ニシテ然リ他札ハ是レニ類推スベシ同

京都府立総合資料館所蔵

一々札ニシテ百文銭(九十六文ヲ百文トス)ニ當ルアリ
 八十文ナルアリ降リテ六十文五十文ナルアリ
 日ニ其ノ相場アリテ或ハ損シ或ハ得ス實ニ煩數
 ナリシナリ旗本札ナルモノアリ徳川氏ノ旗士ニ
 シテ領地(實ハ知行所)ヲ有スルモノ、發行ニ係ル是
 レハ至ツテ數ナリ龜山札ハ納組願中銀納ノ部
 ニ算セラレ代官コレニ捺印シテ證トス此ノ印影
 アルモノハ人民ノ惡感ヲ惹キ後日城下ニ復歸ス
 ルモ厭嫌セラレテ減價ス此ノ自然淘汰ハ藩債減
 損ノ一方途トナレリ之ヲ以テ藩政ノ人爲政畧ト
 視ルモノモアリ
 代官所ノ沿革 龜山藩ハ壹萬三千石ノ領知アル

由リ年々貢米ヲ龜山ニ送ルノ手數ハ實ニ容易
 ナラズ繼令ニ半額ヲ銀納ニスルトモ牛馬數千頭
 ト數千人ヲ役セザル能ハズ道中ノ費用往々巨額
 ニ昇ルヲ以テ嘉永前後檢見ノ役人引續キ冬期マ
 デ滞在スルトトナリ遂ニハ役所ヲ建設シ常住ス
 ルトトナリ大ニ公私ノ便ヲ得タリ龜山縣廢セラ
 ル、ニ至リ役所モ亦廢ス
 往古潦水ノ氾ヘテ湖沼ノ如カリシト猶南來田船
 井兩郡ノ如ク村東ノ興龍寺ガ端ト云ヘル所ハ其
 ノ水ヲ注出セシメタル迹ニシテ爾後平地ニ住居
 スル人民ノ出テ來レルナリト此ノ事ハ口碑ニ傳
 ハル而已ニシテ何年ナルヤ知ル可ラズ西方ニア

丹波志

ル石負ノ輕越坂ハ文字示ス如ク魚族ガ水波ヲ逐
テラ跳躍ミタル瀨ノ迹ナリト云フ水落ノ宇残リ
テ三所ニアル亦以テ證スマシ湧出ノ井泉ニ深
浅清濁ノ別アリ水色ノ褐色ナルアリ泥氣ヲ帶テ
飲料ニ堪フルモ少シ故ニ黒井ノ名アリト曰フ
ハ誤レリ前示古名久留井ナルヲ視テ知ラシ家々
表口ニ貼札アリ曰ハク不良水慮ヒテ煮テ用ユバ
ト清泉ノ湧出スル所ニ個アリ兵主ト築師ナリ
リテ古ニ徵スレバ永祿年間ノ開拓ニヨリテ初
テ民居ヲ見ル徳川幕府以前既ニ開墾ニ着手シタ
ルモノアリ室町幕府ノ時郡中ノ人民ヲ斃シ一人
一日ノ働料ヲ云米一升トヒテ開キタル野ヲ牛塚

野照ト呼ブ此ノ地ヲ耕スモノハ平松ノモノトス
炭屋藤内井之上足立ノ四家コレナリ今ノ宇地藏
堂ハ永祿十二年ニ地藏ノ堂一宇アリタルヲ何時
ノ程ニカ開墾シタルナリ同年東西ノ橋成ル
古城址 猪口山ノ城一名保月城古名天神山昔年
天神社アリタルヲ美和郷サコソト云フ所ニ徒セ
リ此ノ山ニ城砦ヲ構ヘテ住セシモノヲ赤井大政
所ト呼ブ之ヲ始トシ萩野伊豫守コレニ次キ赤井
直政トナリ堀尾吉晴トナル吉晴ハ龜山城主豊臣
秀勝ノ後見職タルヲ以テ此ノ地ニハ陣代ヲ置ケ
リ
赤井藤太郎景俊一ノ谷ノ戦ニ義経ノ軍ニ從ヒ勇

戰奮闘シ二十餘名ヲ斬リ能登守平放経ヲ刺サン
トシ露ハレヲ殺サル

城山高サ九十九間ト呼フ實地調査三百五十七米
突頂上ノ平地ヲ本九トス東西二十二間南北十三
間登路曲折六町二十四間ニノ九東西二十間南北
八間三ノ九東西九間半南北八間本九牽門二間東
追手横十二間半総周圍五十餘東方ハ稻荷山西方
ハ山ノ神南方ニ七間ノ塚アリ北ハ戸坂アリ町龍
々鼻麓ハ多田坤ノ方ハ黒井ナリ當時東西四町牽
北ニ町ノ民家アリ家中町ハ兵至ニアリテ大手間
ハ的場ニアリキ水ノ手ヲ白毫寺ノ堂カ床ヨリ引
ケリ美和村巻看 天守跡石垣塙ナドノ跡アリ切石

多レニテ取レバ紫ルト云フテ村役コレヲ禁ス

城北ニ十八人屋敷跡アリ内三人ノ子孫ノ家存ス

十八侍ハ悉右衛門ヲ助ケタルモノナリ

悉右衛門ハ家清ノ弟ナリ氏ヲ赤井トシ姓ヲ源ト

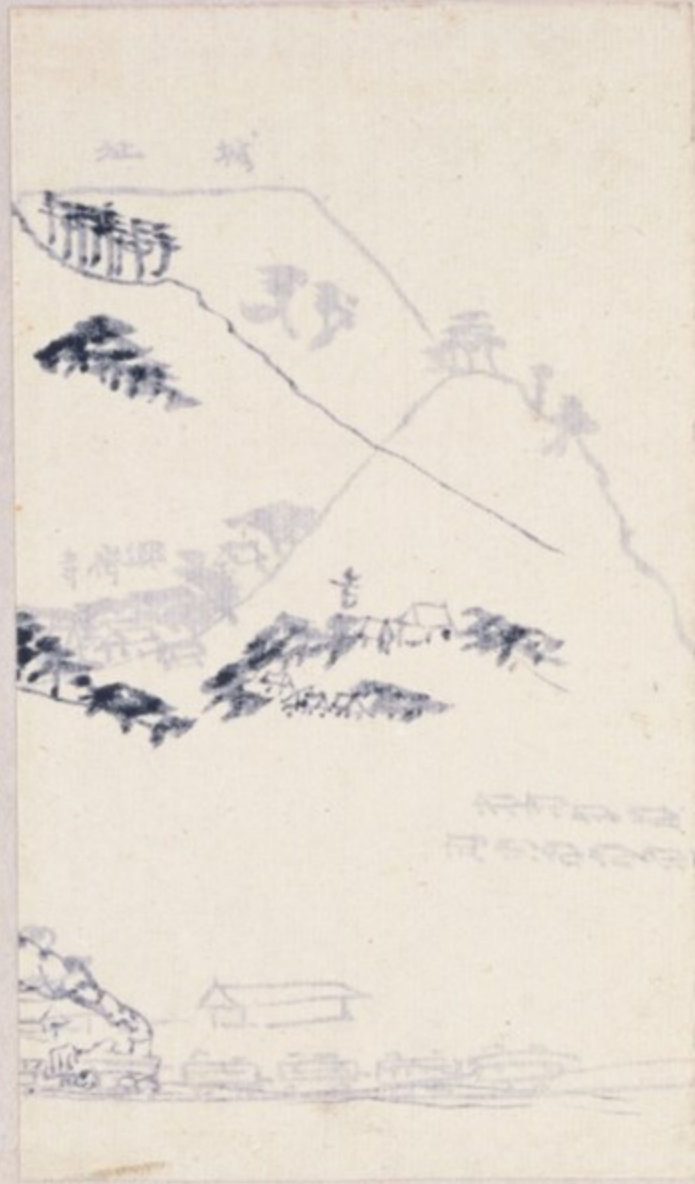
ス其ノ先ヲ鎮守府將軍賴徳ノ弟三子掃部助賴秀

トス孫ノ葦田判官ハ概家光故アリテ此ノ地ニ諱

徒セラルル六世ニシテ烏家アリ基家トモ稱シ景忠

トモ呼ブ通稱ヲ赤井判部トス足利高氏(尊氏ノ前稱)

ノ義兵ヲ篠村ニ譽クルヤ(幸来田部篠村ノ部ニ出ス)



里井城山





京都府立総合資料館所蔵

(三) 八幡大菩薩の軍旗

(丹波柏原八幡神社所蔵)

八幡大菩薩

○ 碑に傳ふ丹波黒井より○月の城主赤井亮右衛門直政が戦國時代に用ひける軍旗にして往古より當社に傳來せるものなりと其の地質は紺にして赤地に白字を添提きたるものなり長五尺五寸六分幅一尺三寸三分

孫兵庫家直ト馳セ参ジラ之レニ加ハリ軍忠莫大
 ナリトテ同心附ノ御教書ニ引軽ノ旗ヲモ加ヘ
 テレ室町家譜代ノ臣列ニ班シ真丹波三郡ノ主ト
 ナル丹波ノ黒井ニ赤井カ威ヲ振フトハ文字ニ於
 テ既ニ識ヲ爲セリト云フ越前守刑部大輔相襲ギ
 久下長澤ト割據シテ勢カヲ振ヘリ宮田村弘誓寺
 ニ具ノ墓アリ慶長十四年四月二十四日ニ卒シ元
 禄九年此ノ墓成ル裔孫ノ建ツルモノ
 表面 理性院孤船釣月大居士
 裏面 丹波奥三郡領主越前守赤井刑部大輔軍家墓所
 刑部ノ八世(時代ノ早キニ過タル或ハ誤ナラン)時
 家ニ至リ内藤氏ノ崛起シ(船井郡八木村ノ部ヲ参

丹波志

幼時已ニ兵ヲ用ユルニ長ズ

省セヨ四隣ノ郡邑ヲ併有シ船井ヨリ此ノ地ニ及
グ時家コレト并ビ馳スル能ハズ踏ソノ鋒ヲ播磨
ノ三木ニ避ケシガ同志ヲ糾合シテ復歸シ轉戰シ
テ仇ヲ退ケ舊地ニ據ルヲ得タリ天文八年八十
歳ニシテ卒シ子家清嗣カ通称右兵衛尉上船井ノ
地及ビ南栗田郡ニモ諸邑ヲ領スルヲ得テ波多
野ニ隸屬ス家清ノ兵ヲ用フルヤ之ヲ天性ニ得テ
登ニ將帥ノ器アリ弘治元年國人葦田白留足立等
乱ヲ作スニ會フ家清兵三百ヲ提ゲテ出テ之ヲ高
良山下ニ撃テ葦田足立ヲ擒ニシ重治マレ此ノ戰
ニ夏傷シ遂ニ同三年二月三十一歳ニシテ卒ス子
アリ生レテ三年名ヲ忠家トス叔父直政コレヲ輔

ク七年内藤備前守ハ軍ヲ率ヒテ來リ攻ム忠家防
戰シ矢ヲ放リ敵反射シテ忠家握ル所ノ弓ニ中ツ
弓爲ニ折ル忠家怒リテ前進シ遂ニ之ニ克ツ兄
家清卒シ徑子忠家ノ少年ナルヲ以テ直政ヨリ氷
上天田其ノ他ノ所領地ヲ波多野ニ歸シ己ハ船井
一郡ヲ保テ波多野參治ノ妹ヲ娶リ波多野ノ重臣
トナル波多野セラルニ及ニテ三河土俣ニ移ル文
祿元年豊臣氏ヨリ采邑一千石ヲ給セラレ慶長庚
子ノ乱ニ東軍ノ爲ニ働キ後年徳川氏ニ隨ヒ更ニ
一千石ヲ加ハラレ子孫莫ノ臣籍ニ入ル
多記即所々卷
看次文參者語
但馬國ニ北嶺美ナルヌノアリ曉勇ニシテ善ク闘

但馬國志

丁直政コレヲ攻ムルヲ數次ニシテ志ヲ得ズ直政
偶一兵書ヲ讀ミ敵ニ過ハシ地ヲ攻メテ人ヲ攻メ
ズト云フニ至リ忽然悟ル所アリ又兵ヲ出シテ比
賀美ヲ攻メ之ヲ曠野ニ誘フ比賀美ノ計ニ落キ
丹波勢ヲ以テ怯ナリトシ進ミ来ル直政一戰ニ之
ヲ虜シ其ノ領邑ニ萬石ヲ併セ大ニ其ノ勢ヲ増セ
リ

甲陽軍鑑ニ曰ハク當代日有ク四大將ハ小條氏廉
武田信玄上杉謙信織田信長なり大將能ク小者若
共ニ名高キ武士丹波乃赤井惡右衛門四兵衛依乃
長谷部同伊豫乃若島安藝の毛利家乃吉川越前
乃朝倉叔父金吾安藝の早川江州北の郡淺井備前三

吉家の松永彈正徳川家康安房里見家の榎木大膳
上杉家乃太田三葉會津乃盛氏上総乃萬喜少弼合
して十三人外乃四大將乃下ニ如形ノ武士あれ
ども白晝の月乃如くにて主を捨てバ大將と云ハ
ズ十三將乃内みも主持あれどそれハ是乃君あり
き故我侘まなりて如件

一説赤井才丸ハ惡右衛門カ幼時ノ名ナリ天文ノ
頃此ノ地ニ地侍十八名アリシガ大將タルモ、無
ケレバ所ノ重ミ無シトテ合議ノ上新郷村ノ城主
ヨリ其ノ子一人ヲ請待シテ此ノ地ノ城主トス即
チ才丸ナリ此ノ地當時黒井城主萩野伊豫守ニ屬
ス伊豫守ハ才丸ノ伯父ナリ十八侍ハ才丸ニ説キ

丹波志

勸メ之ヲ殺シ其ノ地ヲ奪ハシム地侍モ之ニ由リ
已等ニ利セント思ヒシ故ナリ伊豫守モ神ナラヌ
身ノ姪ニ斯カル陰謀ノアル可シトハ露知らズ或
ル年ノ正月元日嘉儀ヲ黒井城中ニ行フニ當リ才
左巳ガ軍ヲ麾キテ城ニ入り不意ヲ襲フテ伯父ヲ
殺ス古来伯父ヲ殺スモノハ人コレヲ呼ブニ悪ヲ
以テシ名ノ上ニ冠ラシムルモノカラ才左自ラ名
乗リ悪右衛門尉トス黒井ノ山ヲ相シテ之ニ城ツ
キ以テ本據トシ軍ヲ出シテ攻城野戰シ未嘗テ敗
ヲ取ラズ遂ニ北丹波半國ニマテ其ノ勢力ヲ振ヒ
但馬ニ及ブ下文神命湯ノ條参考ヲ亂世ノ常トハ云フ伯父ヲ殺
ストハ情無キトニコソリ

一説 悪右衛門直政一ニ直正ニ作ル又宗重トモ
呼ベリ知年ヨリ人ヲ殺スヲ好ミ五六歳ノ頃ヨリ
群童ニ勝レ七歳ニシテ業既ニ人ヲ殺シテ平然々
リ時ニ其ノ地ニ怪物アリ夜ナリト聞クヤ卒己レ
マスト言ヒ往來モ絶エナリト聞クヤ卒己レ
コレヲ退治セシト深夜獨歩シテ其ノ所ニ至リ之
ヲ覘フニ果シテ人ノ言フガ如ク野盡ニ一點ノ光
アリテ怪シキ形ノ露レケルニゾ真甲ヨリ一刀ヲ
浴セカケレニ切レカ便チ乾キ見ルニ石佛ニテガ
アリケル番後怪敷キ光モ出テナリ夜行スルモ
ノ常ノ如クナリケル悪右衛門ガ戴ケル兜ノ前立
テニ石佛ノ像アルハ是レヲ紀念ニセシモノトカ

丹波
志

一説 悪石街門ガオカヲ奮ヒ出セル元ハト言ハ
赤井家ニ丹波管領ヲ取ラント望ミシニ波多野家
ハ渡リシ腹五ヨリストカヤ
一説 天正七年東軍ノ將明知光秀波多野氏ヲ滅
ホレ郡邑ヲ枚掠ス直政勢孤ナルモ猶能ク城ニ嬰
カリ國守セシカハ東軍退キ暑ヲ避ケ八月ニ至リ
又來リ攻ム猶拔ク能ハス羽柴筑前守秀吉其ノ臣
取坂是内ヲシテ應援セシム生年十六膽勇ノ士ナ
リ圍ミヲ舒ベテ城ニ入り直政ニ是ニ諭シテ東軍
ニ參ルベキヲ勸ム直政從ハヤレドモ其ノ好意ニ
報イシ爲ニ姪忠家ヲ遣ハシ一對ノ貂皮ヲ贈ル次

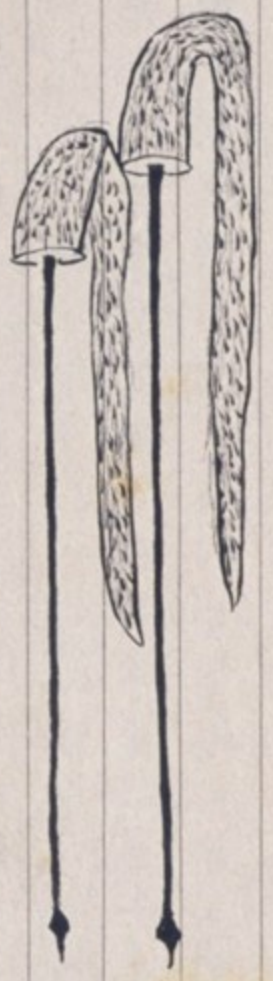
日光秀兵ヲ合ハセ攻ムルヲ急ナリ直政時ニ疔ヲ
患ヒ濃汁面ニ流ルヲ以テ白布綴面ヲ掩ヒ鉢巻シ
テ出デ奮闘ス從卒皆亡テ直政愈進ニ安治ト逢
ヒ槍ヲ交エ刺サレテ死ス年五十一 一説永祿十
二年東軍ニ攻メテ之ニ降ルト云フ 天正七年
光秀ノ軍波多野ヲ滅シ來リ攻ム直正孤立能ク拒
ク光秀暑氣ノ爲ニ軍ヲ退ケ八月再來ル秀吉取坂
安治ヲシテ光秀ヲ援ケシム直正疔ヲ病ム布ヲ以
テ以テ之ヲツ、ニ戰ヒ安治ニ殺サルト云フ
一説 取坂是内ハ秀吉ノ命ヲ以テ黒井城ノ大手
ニ向テ城兵大半死傷シ落去且夕ニアリ一大將ノ
城門ヲ開キ出ヅルアリ甚内進シテ槍ヲ交フ數十

丹波志

合ニシテ勝負ヲ判タズ而シテ日暮ル乃チ明曉ヲ
 約シテ相引キ去ル翌朝是内城ニ迫ルニ前日ノ敵
 將出デ、待ツ輒又槍ヲ交フ復決セズ城將曰ハク
 吾ハ赤井悪右衛門ナリ力疲レタリ汝ガ為ニ打タ
 ルベシ城中ノ吾ガ居間ニ一ツノ箱アリテ豹ノ皮
 ヲ容レタリ是レ吾ガ獵リシテ得タルモノ其ノ用
 ヲ爲サズシテ之ヲ失フハ我ニ於テ惜ム請フ汝コ
 レヲ取り其ノ用ヲ爲セト言ヒ且其ノ未歴ヲ叙シ
 再關ナテ是内ノ鋒ニ賞カル是内城中ニ入り之ヲ
 探ルニ果シテ一箱アリ之ヲ開ケバ希有ノ豹皮ナ
 リ即コレヲ收メ一伍一什ヲ秀吉ニ語り且其ノ雙
 皮ヲ示ス秀吉命ジテ之ヲ藏セシム徳川氏天下ヲ

一統スルヤ諸大名江戸ニ參觀シ筑門鹵簿ヲ華麗
 ニシ各自相競フ取坂氏ノ槍掩フニ豹ノ皮ヲ以テ
 シ輿前ニ併行ス人望ニ見テ榮トシ華トス之ヲ豹
 ノ皮ノ投鞘ト呼ブ

猫川龍野城主
 脇坂淡路守對
 道具豹皮投
 鞘ノ圖



豹ノ皮未歴 赤井刑部景忠丹波三郡ノ領主トナ
 ルヤ北部ヲ巡行スルノ序ヲ以テ一日大江山ニ狩
 獵シ大ニ軍事ヲ鍊テントス獲物多キガ中ニ其ノ

形状貌ニ似テ赤黒色具ノ長數尺ナルアリ景忠此
日弓ヲ手ニシテ殪ス所多ク尚モ進ニテ山麓ニ及
ブ一獸アリ走ルト風ヨリモ疾シ景忠馬ニ諸鎧シ
テ之ヲ逐ヒ滿ヲ引キ之ヲ放ツ矢中リテ墜ツ而モ
其ノ所在ヲ失フ乃士卒ニ令シテ山谷樹森ノ間々
ヲ圍ミ守ラシメテ其ノ走路ヲ斷テ自身騎士ト其
ノ迹ヲ追求スル數次ニシテ之ニ遣ヒ喜ビ勇シデ
之ヲ撃タントス猛獸適ルニ路ヲキテ以テ身ヲ
翻シテ来リ喘ム景忠急ナリ輒テ弓ヲ捨テ身ヲ以
テ之ニ當リ左手コレヲ抱キ右手コレヲ刺ス刀未
獸身ヲ離レザルニ一獸又来リ叫ビ狂騰シテ景忠
ニ向フ夫ノ體ヲ復ヒニガ嵩ナリ景忠急ニ弓ヲ採

リ一箭ヲ放リ猶来ル又一箭ヲ放ツ猛獸殪ルニテ
視ルニ形状同フシテ後ノモノ差ノ小ナリ獵罷ニ
ニ死獸ヲ提テ歸リ葦工ニ命ジ殺テ作ラシメ又以
テ防火ノ用具トモ爲セリ

追記一説 丹波善着後惡右衛門ハ三輪左河内村
ノ萩野丹後ノ家ト數使村ノ萩野東運トノ家ニ匿
レタルカ東運ノ勸ニヨリ福知山藩ニ事ヘ名ヲ金
右衛門ト呼ビシテ後ニ惡右衛門ナルヲ露レケレ
バ徳川氏ヨリ藤堂高虎ニ命ジ之ヲ保管セシム由
リテ藤堂ノ領所ニ移リ後年ニ至リ壽ヲ以テ終ル
一ニ曰ハク惡瘡ヲ癸シテ治セズト

直政戎名 抽獸院寶山常林居士 天正六寅三月九日

室迄衛氏

淡江院殿月下矣光大布

天正三亥八月廿一日

右位牌ハ高野山萬福院ニアリ

近江勢多た多勢ハ
たみ勢あくまらつてハ

たみ勢あくまらつてハ
悪右衛門の作とくつ也

神明湯由来

原道直ハ赤井悪右衛門直政ノ客將

ニシテ豪勇ノ士ナリ悪右衛門コレヲ敬愛シ諱ノ

一字ヲ與ヘテ之ヲ寵章ス赤井氏ノ但馬ヲ征スル

ニ從ヒ前文ヲ参暑雨ニ遇ヒ軍兵ノ疫ニ罹カルモ

ノ其ノ半ヲ過ケ悪右衛門以爲ヘラク此ノ如クシ

バ人氣ノ沮喪スルヲ如何ニセシヤ今ヤ他ニ施ス

バキ方術無シト即チコレヲ産土神ニ祈願ス粟賀

村ニ祭レル明神 夢ニ直政ニ教エテ曰ハク此ノ

藥州ヲ山ニ採リ煎ジテ病卒ニ飲マシメヨ立チド

コ口ニ平癒ニ勇氣前日ニ倍セント直政夢覺ム傍

ニ道直ノ侍スルヲ着テ明神ノ示セル形ヲ圖シ之

ヲ以テ其ノ草ヲ山中ニ索メシムルニ在リ採リ還

リ之ヲ服用セシムルニ効驗アルト神明ノ如シ便

チ前進シテ敵ヲ勦シ多年ノ望ヲ達スルヲ得タリ

爾後原氏ヲシテ軍中ノ醫藥治療ヲ掌ラシム其ノ

子孫世々十兵衛ヲ名トシ今ニ三百有餘年此ノ藥

ヲ專賣シ悪右衛門ノ命日ニハ毎月其ノ墓ニ詣リテ

歸ルカ其ノ藥草ヲ採收ス餘人ニハ此ノ草見エズ

トカヤ今ハ産婦必需ノ劑トシテ来リ購フモノ多

シ其ノ利多キヲ以テ贗製スル者アレド必失敗ス

ル故此ノ家ノ外ニ類似ノモノモ無シ

齊藤屋敷 城山ニ一邸址アリ齊藤内藏助利三ノ
舊居迹ト云フ利三ノ父ハ伊豆守ト名乗リ美濃國
ノ産ナリ明智光秀ノ妹ヲ娶リ利三ヲ生ム國主龍
興ト同姓ナルヲ以テ君臣ノ契ヲ爲シ龍興一家カ
織田氏ニ滅ボサル、ヤ同國ノ豪族柏葉長通ニ事
ヘテ女婿トナル後ニ至リ意見ノ合ハザルトアリ
去ツテ近江ニ奔リ坂本ニ入り明智ノ臣籍ニ加ハ
ル之ヲ督クシテ光秀勸メ長通ニ謝シ歸仕セシム
利三曰ハク臣ソノ國ヲ出ツルヤ還ヘラジト誓ヘ
リ而ルニ今君ノ勸説ヲ蒙リ心太ガ快カラズ若シ
強ヒテハ、ヒ於テハ自殺スルアルノミト光秀首
肯シテ復々言ハス其ノ氣概ヲ見テ一大助カラ得

ント欲シ食邑壹萬石ヲ與ヘテ此ノ城主タラシム
光秀ガ本能寺ヲ襲ハントスルヤ愛宕山ニ於テ之
ヲニミノ産臣ニ密談シテ一味同心スバク誓文ヲ
要求ス利三亦與カル其ノ諫止ス可ラザルヲ視テ
對エテ曰ヘテ此ノ御企デガ一ツモ御利運アル
ベキトニテ候ハバ同意致スベク候ヘトモ御敗北
ト見エタルトニ候フニ只今辭退致シ候ハバ命ヲ
惜ミテ其ノ場ヲ外スモノニテ候フナレバ士タル
モノ、義ニ非ストテ一番ニ連判帳ノ血判ス餘ノ
人々モ一言ニ及バズ皆同シタリ山崎ノ一戰案ノ
如ク一大敗ト爲リ利三ハ光秀ニ巡リ逢フ由モ無
ク右往左往ニ押シ障テラレ終ニ逢ヒ得ズ子利光

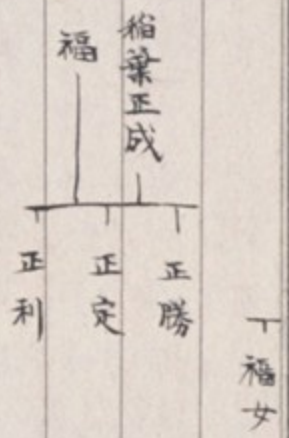
丹波
志

ト江州隆田ノ知ル邊ヲ便リ匿レ居ケル内暑氣ニ
 中テラレ病ニ臥ス羽柴方ノ探知スル所トナリ憫
 レ墓無クモ小者ノ手ニ虜トナリ日ノ岡ナル仕置
 場ニ拘引セラレ詣手ヲ腰繩ニ縛ラレナガラ首刎
 ネラレ又具ノ辞世ニ

消えて行くと流の字は短かあまのふ日乃高の峰

其ノ後幾程モ無ク明智方ノ城々ハ龜山ヲ始メト
 シテ周山福知山及ビ此ノ城モ没落シ了ニ又
 春日ノ局名ハ福 春日部郷ニ生マル由リテ名稱
 トナル 黒井村大字ノ所參着

齋藤伊豆守 利三 利光
 妻田村氏 三存
 妻福葉氏 利信



利光山崎合戦ノ時父ニ從テ奮闘シ敵士野掛彦
 之丞ト渡リ合ヒ相組ミテ淀河ニ墜ツ浮キツ沈ミ
 ヲ遠ニ其ノ首ヲ水中ニ獲テ父ノ踪蹟ヲ失ヒ味方
 ノ惣崩レトナルヲ聞キ偕形ト爲リテ寺住居シ立
 木ト稱ス戦後出デ、東西ニ物色ミテ父屍ヲ探リ
 索メ之ヲ偷ミ得テ假葬シテ冥福ヲ修シ舊交ニ由
 リ竊ニ細川忠興ニ倚ル忠興爲ニコレヲ徳川氏ニ
 聞シ助命ヲ乞フ又加藤氏ニ依リ清正ニ臣事シ後

史記 七

テ朝鮮ニ入り首功アリ歸朝シテ春日局ニ由リ
幕府ニ入り祿五千石ヲ給與セラレテ旗本トナリ
子孫相傳フ
三存名ヲ與三右衛門ト呼ブ加藤清正小早川秀秋等ニ事
フ亦後ニ徳川氏ニ臣事シテ二千石ヲ給セラレ子
孫アリ
和信名ヲ角右衛門ト呼ブ山崎役後漂流シテ山城伏見
ニ客死ス
於福即チ春日ノ局ハ柏葉正成ニ嫁シ三子ヲ産ム
前ノ系圖ニ正成浮田氏ニ事ハ去リテ美濃ニ居ル偶
々徳川家光生マレ乳母ヲ京都ニ需ム婦女其ノ遠
キヲ嫌ヒ應ハレ者無シ福女其ノ身札ヲ見テ所司

代板倉勝重ノ郎ニ到リ應ゼント請フ勝重其ノ門
地ヲ問フニ皆名士ナリ乃チ江府ニ上申シ之ヲ送
ル客姿閑雅保護視養太密ナリ將軍大ニ喜ビ正成
ヲ徵シ之ヲ祿セントス固辞ス其ノ意ヲ問フ曰ハ
ク臣不肖ト虽モ家人ニ縁リテ進ムモノナランヤ
ト遂ニ婚ヲ絶チ三子ヲ送り妻ニ與フ福英敏機
智勇心殆ント闇牘ニ非ズ一夜數賊ニ襲ハル起キ
出デ直ニ賊ヲ斃ス餘賊驚散スニ代將軍秀忠
ノ夫人其ノ次子國千代ヲ鍾愛ス諸近習侍女等其
ノ意ニ阿リ之ヲ奉承スルヲ以テ次男ノ權勢灼ク
ガ如シ福ノ鞠育スル太子殆レド危地ニ陷ラント
ス福憂悶既切シ家康ノ寵姫梶女ニ就キ勸搖無カ

母
史
志

ラシテヲ願訴スレドモ妬心上ヨリノ事トシテ願
ミナレズ福一計ヲ案シ伊勢神宮参拜ニ託ケ駿府
ニ於テ前將軍ニ謁シ事情ヲ上陳ス家康曰ハク是
レ天下ノ大事ナリト餘車ニ托シテ江戸ニ入り將
軍夫妻ト諸子ヲ視ル家康儲子ノ手ヲ執リ高座ニ
陞ラシム國千代継キ昇ラントス家康之ヲ看テ語
ゲテ曰ハク竹千代ハ君ナリ國千代ハ臣ナリ臣主
同坐ス可ラズト竹千代ハ三代將軍ノ幼名ナリ饌
至ル國千代ヲシテ下座ニ陪食セシム浮議頗ニ沮
ム三代將軍ノ福ヲ過スル優渥妻スルニ閨房ヲ
以テス事々宜キニ適テ寛永六年京ニ入ル後水尾
天皇召シテ杯ヲ賜ヒニ位ニ列セラレ春日局ノ賜

福アリ九年中宮ニ謁シ東福門賜盃ス多賀社ニ謁
シ前將軍ノ疾病ヲ祈リ彦根ニ入り井伊直孝ニ密
旨ヲ齎告ス十八年家細生マル局抱持シテ列侯ニ
見メス老後宅ノ地ヲ代官町ニ賜ヒ蜷川喜右衛門
ニ命之ヲ經營セシム郎頭廣壯局退休シ老ヲ茲
ニ送ル又相州吉岡ニ於テ米地三千石ヲ賜フ家光
年二十五ニシテ瘧ヲ病ム症甚劇惡ナリ局親ラ東
照宮ノ廟ニ禱リテ曰ハク大君不豫殆ンド危シ妾
踐陋ナレドモ嘗テ之ヲ乳養セリ願ハクハ身コレ
ニ代ラシ若シ宗廟ノ靈ニ頼リ大君瘳ユルヲ得バ
妾ノ身疾患ニ罹ルモ醫藥ヲ近ヅケズト既ニシテ
瘧ニ局以テ冥感ト爲シ自ラ必死ヲ分トス而ルニ

支志

強健ニシテ恙無ク二十年九月ニ至リ俄ニ病ム家
光之ヲ憂ハ屢々臨視ス上皇太后并右衛門局ニ命
シ東下シテ之ヲ訪ハシム病益々篤シ怡然トシテ
死ヲ待テ藥ヲ服セズ家光之ヲ聞キ親ラ藥ヲ持シ
之ヲ飲マシメ且ツノ意ヲ問フ局泣キ曰ハク老妾
幸ニ殿下ノ壯大ニシテ天下ノ政ヲ兼ルヲ見ル又
恩澤老妾ニ及ビ爵ニ位ニ叙セラレ賤息正勝亦厚
恩ヲ荷フ榮光極マル復何シゾ言フ所アラシ葉ハ
殿下ノ賜フ所ナレバ服スベシト一嚙セントテ之
ヲ吐ク升ハ恩意ニ及カズ又誓ヲ食マザルナリ又
強ヒテ請フ所ヲ問フ局辭謝スルノミ家光曰ハク
汝我レニ請フ所無クバ我レ汝ニ請ハシ榘葉正利

嘗テ汝ノ爲ニ放タル然レ正利ハ我ト乳汁ヲ分
ツモノ宜シク我ガ爲ニ之ヲ赦スベシト局曰ハク
正利ハ兇奸不忠老妾愛ヲ割キ之ヲ放テリ其ノ殿
下ニ不利ナルヲ慮レバナリ老妾死スト至氏豈子
ヲ愛シテ君ヲ後ニスバケンヤ殿下儻シ其ノ罪ヲ
赦シテ之ヲ召サバ老妾怨ヲ地下ニ抱カント言訖
リ氣息奄々タリ是ノ月十四日死ス年六十五嘗テ
建立スル所ノ湯嶋天澤寺ニ葬ル寺號麟祥院ハ局
ノ戒名ナリ寛永十一年十二月二十日百石ヲ附ケ
京都妙心寺塔中ニモ同名麟祥院アリテ同日二百
石ヲ附ケラル
予賀九左衛門初名愛之助又官藏トモ云フ父ハ片

山九一郎 文政十年生マル 綽号龜山浪人少壯
出テ、同郷木村某ノ後嗣トナリ居ル若干年ニシ
テ再後ニ至ル與謝郡岩瀧村ノ千賀氏迎ヘテ客ト
シ其ノ人ト爲リテ愛シ乞フテ家籍ニ入レ名ヲ九
左衛門ト改メシム幼ヨリ武ヲ好ミ殊ニ御馬ノ汰
ニ長ズ常ニ武道ヲ以テ自任シ亦以テ子弟ヲ誘導
ス安政以來國家多事世變續起スルヲ以テ勇志勃
々禁止スルニ耐エズ一日決然郷土ヲ辞シ東西奔
走シテ廣ク志士ニ交ハリ文久三年但馬生野銀山
ニ討幕ノ軍攘夷ノ舉アリト聞キ行キ之ニ加ハリ
近傍大名ノ攻ムル所トナリテ敗レ再舉ヲ謀リテ
逃亡セシトスル所ヲ朝來郡納座村ニ於テ土兵ノ

要撃ニ遇ヒ出石藩兵ノ爲ニ囚ハレ翌文久四年七
月十九日義舉ノ魁首平野次郎ト共ニ京都獄中ニ
斬ラル 竹田村記事参照

猫岩 黒井東端ノ小丘ヲ猫山ト呼ブ正南野村ノ
岩山ニ對峙シ岩山ノ岩ヲ睨ミ其ノ危岩ヲシテ墜
落セシノ以テ黒井ノ危難ヲ免レシムトノ古説
アリ 一説ニ云フ黒井ノ古來盛シナラントシテ
屢々挫折スルハ此ノ猫ニ睨マル、ガ故ナリト
著者ガ十餘年後ノ再遊ニ於テ猫嶺ノ變相ニ一驚
セリ弁ハ顔面タル猫ノ要部ヲ割析シイルガ爲ナ
リ昔ハ之ニ觸ル、モノハ死スト云フテ其ノ傍草
ヲカハ菊ヲザリシニ今ハ道普請ノ石杖ヲ要スル

丹波 志

トテ玄翁ヲ具ノ顔面ニ當ツ愛視スベキ所ノモノ
 斯ケル惡相トナリカハレリ

猫岩
 猫を教る
 猫岩

一説
 奥平の岩邊ニ
 セサルハ猫を
 眺マシカラスリ
 一説
 東端小丘ヲ
 猫と呼ベリ
 正南野村ノ岩
 ニ對峙シ岩
 山ノ若コテ墜
 ケガラレム事
 ハ因テ其ノ禍ヲ
 免ケタマフ



京都府立総合資料館所蔵

好風俗 古来嫁娶ノトアレハ村人一同相迎ヘテ
 嫁女ヲ郎家ニ入レ夜間ナレハ各自批灯ヲ手ニシ
 テ送迎シ家前ニ祝詞ヲ演ブ家人出デ、之レニ應
 謝スレバ退散ス隣村他郷ヨリスル者ハ村境ニ
 テ迎送ス他郷ノモノ具ノ厚キニ感ス今其ノ如何
 ンヲ知ラズ
 兵主神社 式内 祭神大己貴命 本社舞殿拜殿
 鐘堂一ノ鳥居ニノ鳥居アリ一ノ鳥居ハ銅ニテ巨
 大ナリ兵主山神光寺ト稱シ兩部神道ニシテ高野
 山ノ末寺ナリシヲ維新後佛塔ト分離シタリ兵主
 ノ名ニ因リ軍神ノ如ク解セラル、トモアルガ升
 ハ郷名ヨリ采レル所ナリ近江國野洲郡兵主郷ニ

野洲郡志
 兵主郷

鎮座アルヲ以テ斯ク名ツケタルナリ支那ニハ八
神トシテ古來祭レル天主地主兵主陰主陽主月主
日主四時主ノ一ナリ近江ハ兵主ヲ祭リテ地名ト
ナリ此處ハ地名ヲ采リテ社名トセリ此ノ神影ハ
即木彫ノモノニテ安永六年痘瘡ノ流行スルヤ真
ノ院ノ古來ニ痘瘡ノ如キモノ皮膚ニ生シ粒々簇
起レニ個ツ、相連ナル人々コレヲ見テ奇異ノ思
ヲ爲ス誰レ云フトナク呼ビテ痘瘡ノ木トシ此ノ
地ノ小兒ニ代ハリテ病ムモノトシ詣ル者一日
一日増レ之ヲ尊崇スル者ノ家ニハ痘瘡神来ラズ
ト言ヒ之ニ卷詣スル者ノ家ニハ痘兒アルモ大熱
ヲ發セズ爾來多年小兒アル家ノ崇敬ヲ惹ケリ種

痘術通クナリテヨリ次第ニ其ノ信度ヲ減ゼリ
文祿三年兵主山大荒アリ社頭幸ニ無事ナリシ支
那ニテハ軍神即チ虫をヲ兵主ト稱ス本邦大己貴
子戈弓箭ヲ主ル神トス日晴日魯ノ戰役ニ際シテ
兵役ニ從事スルモノ家族カ立願參詣スルモノ多
カリシハ兵主ノ文字ニ因ミテナリトカヤ
近衛三邇院信尹公心願ノ畢アリテ參詣アリ行列
ハ先ハ長刀一振供廻リ帯刀ハ人立笠一個都合十
人臺傘一ツ挾箱一ツ鳥籠一ツ竹馬戴ツ 兵主山
ニテ輯當支度アリ此ノ時ノ記事ニ云ヘリ寺ニ社
坊寺坊堂ハ寺公儀ト稱人々此寺出所供六人部
合七人出所ト稱此寺出所方氣も自分當處

まゝに
丹波

丹波

影々神明主兵



春日部内史井の表作
まゝに
信平
丹波
長十の旨
廿六日

兵主の神祇氏 まゝに丹波のまゝにありあれ

まゝに丹波のまゝにありあれ

まゝに丹波のまゝにありあれ

文臺金巻繪箱黒漆金橘紋 橘ハ近衛家ノ紋所ナ
リいのりひノ歌筆蹟殊ニ親賞スベシ牡丹花大
幅アリ狩野晴川院ノ筆近衛家ヨリノ寄附晴川院
ハ徳川幕府ノ繪所ニテ近代ノ人コレヲ寄附シタ
ルハ近衛篤磨氏ナリ著者が華族會館京都分局ノ
學事ヲ管スル時ノ生徒ナリ氏ハ華胄ニ生育シ祖
父ノ遺傳ヲ受ケ活潑有爲ノ仁ナリ惜ムベシ洋航
後歸朝夢々此ノ画ヲ着テ感々
社後ニ八幡大神ノ古迹アリ眞ノ院ニ影向石アリ

丹波

波多野氏ハ近衛三總院信尹公ノ母家ニシテ丹波
 舊領主波多野ノ末葉トス家ニ近衛家ノ物件ヲ裁
 弄ス狸々毛ノ翫具ハ信尹公幼時ノ物ニシテ瘡瘡
 ノ上ヲ撫摩スレバ癒ユト云ニ借ルモノ多ク一對
 アリシヲ片影ヲ留ム貸シ失ハルヲ悔イ後ニハ貸
 サズ徳川旗下武田領ニ属スル家ナルヲ以テ龜山
 藩ノ代官コレヲ借ラントスレバ許サズ門前拂ト
 シタリトノ古話アリ當時領主代官ノ威光ハ格外
 ナリシモ公卿ノ權威ハ之ヲ如何ン氏スル能ハズ
 トカヤ 芝村興福寺條下近衛殿屋敷卷着
 土地ノ習慣ハ不淨ヲ嫌フト太甚シ斤ハ産神ヲ崇
 敬スルヨリ起因スルトニテ古時ノ人家ニハ必一

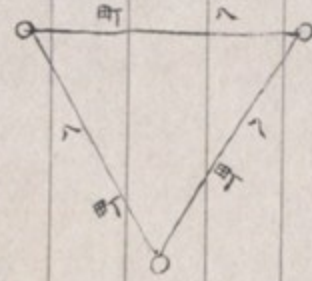
小屋ヲ別ニ造リ不淨ノモノ之レニ入ル婦人月經
 中産蓐共ニ入ル近時庭土間ニ別室ヲ設ケ之レニ
 入ルコト、ナセリ維新後漸々止ム



兵主神社々務所庭園入口ノ門上ニ横タフ屋根
 代ハリノ木モ插り出シモノ、一ナリ

大字 手松村 四手松東平松寺ノ小字アリ合シ
 元祿高二百貳拾九石五斗四升三合 寛政改二
 百七拾一石八斗 民家五十戸 龜山藩領
 水落ノ森 (みおと乃と) ハ往古ヨリ湛ヘラレタル水
 ヲ低地ヘ切り落シタル遺址ニシテ三角形ヲ爲シ
 各八町ヲ間テ、三所アリ○印コレニ

瀑布ニ所アリ上ナルモ
 ノ四文下ナルモノ三段
 トナリ落ツ 妙高山ヨ
 リ下ル水ナリ



寛政改増額九百九十九石一斗トナル 文久辛度
 改同當時民家書上百五十戸

古城本寺ニアリ田中ニ城ノ内ト呼ブ地アリテ本
 丸ノ迹南方ヨリ北東ヘ向テ構築セラレタルモノ
 見エ壕塹垣牆ノ迹ヲ存シ南北ニ十間許アリ城主
 ヲ野村出雲守藤原家長同信濃守家久トス二世ヲ
 経テ三世太郎兵衛ニ亡ブ寛政ノ頃マテハ初代家
 長等ノニ碑アリシ
 茶臼山ハ明智光秀大敗ノ地ト言ヒ傳フ今其ノ傳
 説ヲ左ニ叙ブ 天正中織田信長ヨリ當國ノ管領
 秀治、和諺ノ使節アリ 波多野史アリ管領ノ返答ニ赤井
 一族ハ忠ヲ室町家ニ存スルモノナレバ之ヲ討滅

シ玉ハ然ラズンバ丹波ノ全封ヲ舉ゲテ程ヲモノ
無カラシニテ討滅シ玉ハントナラバ誘導シ冬ヲ
セント曰フヲ信ジ光秀ハ八幡山ヨリ進軍シ中山
ノ赤井刑部ヲ責メ落トシ國領ノ寨ヲモ攻撃シ此
所ヲゾ据エニケル去ル天正二年四月十八日ノ和
訖ニ丹波家ヨリ波多野稻四郎以下四名ヲ質トシ
近江ハ送りシトモアレバ安心シテ落チ着キ居タ
ルモ断リナレ安シゾ知ラシ此ノ人質ニ隨扈セル
僕隸ハ畑井兵衛同猛兵衛等ノ勇士ニシテ機アラ
バ敵ヲ逆襲セシナル秘策アラントハ猶ソノ上ニ
モ油断サセシナル謀計ニテ秀治秀貞ヨリ安井外
記由井内膳ヲ使トシテ光秀ノ陣ニ送り兵糧一萬

石馬飼料大豆三千石塩糠松明蘆魚豆殼油炭薪小
屋具ニ至ル迄ヲ山ノ内若ト磯ノ若トハ贈リケル
ガ山内ニハ明智治右衛門入り看ハリテ在陣シ磯
ハ妻木七右衛門ヲ在城セシム秀貞ハ大臣數人
ヲ從ヘテ東軍會議ノ席ニ列ナリ高見丹金山ヲ攻
ムルノ方略ヲ陳シ且軍列ニ與ラント望ミケルガ
信長ノ目代及ビ光秀ノ令ニテ別隊トナリタルハ
丹波方ニ取り此上ナキ都合トゾ聞コヘシ四月十
九日ノ朝ニハ開戦トナリ未ノ刻ニテ總責トナリ
東方ノ先鋒矢合ハセノ鎗ヲ射出シ先陣ニ宅喜左
衛門ヨリ言ヒ遣リケル様ハ毛利殿丹波家別所殿
迄御和談アルニ何條赤井殿ノ強弓引キ給フモノ

カナ義昭公モ今ハ早ヤ備後ニ移リマシ
テ候
アゲヤ主人信長ニ度々諫言申シタルトテ如何
テ織田家ヨリ疎意シ奉ラシ景直殿ノ忠義感シ入
リテ候ハ共令ハ詮無ク候條枉ゲテ御合躰候ハ云
々悪右衛門ノ答ニ曰ハク管領家別所家ハ一族ニ
テアリナガテ我ヲ捨テラレ候此ノ上ハ力無ク候
去リ乍ラ降参ノ例ニ比セラレナバ後代迄ノ恥辱
ニテ候ハバ新將軍ト一戰シテ社隨ヒ奉ラメ赤井
サハ御味方ニ参リ候ハ巴國中ハ言フニ及バズ丹
後但馬能勢三田ノ族モ御味方ニ参ルベシ毛利家
十餘筋ヲ率ヒテ御味方スル上ハ九州ニ鳩モ御手
ニ屬セント案ノ内ニテ候今日陣頭ニ秀治秀貞ノ

相見ハテ候是等ト相戦ニ國內同士軍シタリ杯後
代迄他國ニ沙汰セラレナバ口惜シク候條彼ノ陣
ヲ除キテ賜ビ候ハ願フ所ハ此ノ重ニテ有リ候ト
アリタレバ管領家ノ軍勢ハ攻城ニ與ラシノマ
ト定メラレタリ
光秀ハ黒井ノ八幡山ニアリ先鋒ハ穂壺城及ビ黒
井城ノ押ハトシテ進ム秀治ハ竹田ノ普應山十方
寺門前ニアリ貞宗ハ黒井ノ大梅山興禪寺ノ田道
ニアリ十八日ノ晩方ニ秀治秀貞ハ光秀ニ對面シ
テ軍評定ヲナスベシト八幡山ニ至リ小勢ニテ東
軍ヲ油斷サセ置キ俄ニ攻大鼓打チ鳴ラシ關ノ聲
ヲ揚ゲシカバ光秀方ハ不意ヲ打テ土地ノ案内

ハ知ラズ入乱レテ戦フ内ニ日モ全ク晚レ果テ味
方ト思フ丹波勢ニ打テ搦マサレ狼狽シテ山ヲ傳
ヒ田ヲ歩リ都ノ方ト思フ途ニ逃ダ延ビケル秀治
ハ光秀ト組ニデ打タント驅ケリ廻ハル時ニ赤井
勢ハ穗壺ノ城門ヲサツト開キ光秀ノ陣後ヲ衝ク
赤井景光ハ黒井ノ城ヨリ打ツテ出デ光秀ノ押ハ
勢ヲ打テ破リケレバ光秀怒リ口惜シサニ返ハセ
ト下知スレド止マルモノトテ無カリケル新
クアルベシト期シタル波多野勢ハ手筈全ク整ヒ
國中ノ旗頭ノ面々ヲシテ要所々々ニ兵ヲ伏セ一
騎モ洩ラサジト俟ケ搦ハ野武士地下人ニモ申シ
附ケ落武者ト見レバ片端ヨリ打テ取レト下知シ

タルモノカラ光秀ハ遠々ノ体ニテ青龍寺ハ歸ラ
ントスレド丹波勢ニ遮ラレ愛宕山ヲ目カケテ大
廻ハリヲ爲シ雨中ヲ逃ゲ坂本ニ着キ無念ノ齒嚙
ヲ爲シ必丹波家ニ報復シテ腹イセセント搦ハタ
ル此ノ戦ニ明智方將校數十人ヲ失ヒ生命不詳ノ
モノ三百七十六人歿死生禽セラレタルモノ百十
七名首級ノ數前後合シテ三千三百四十六ト註セ
ラレタ明智石馬允モ馬上ニテ宗長ノ爲ニ刺サレ
タリ
小字 中村ノ東西ニ部ト河原ト呼バル特別部落
高合五百ニ石九斗六升七合寛政改六百四十一石當
時瓦家百三十五戸文久增高六百四十九石九斗一

計九合ニ至ル

愛宕社 社地免稅

石城三所 北方山ノ手ニアルモノハ城主吉積卯

之助ノ居所ニシテ天正年間赤井方ノ金村左衛門

ニ亡ボサレ南方ノモノ高サ十間ニ二町計ノ周圍

ト壕址ヲ存セリ三尾城ノ臣某ノ所居ト云フ佐中

峠下ニアルモノハ河津某ノ居レリシ所ニシテ天

正中落去セシト云フ

馬橋 中村ト長谷村トノ間ニアリ橋面ニ駒形足

跡ヲ印ス

大字 稻塚村 元祿高三百十石 寛政度山役ヲ

合セテ三百十石四斗一升五合當時民家五百三戸

大野ヲ本村トシ高五百石免狀一通武田越前守知

行所船城村山田参考

大歳大明神 除地一畝二十七步アリキ鳥居ノ額

妙濟院宮ノ書

山神社 谷奥ニアリ森三畝十步除地ナリシ

八幡宮 森一畝步除地ナリシ

小字 芝村 元祿高二百四十六石 寛政改五百

四十三石 内八石六斗八升束役免除 文久年度五

百四十五石八斗四合 龜山領 大庄屋ヲ置キ代

官ノ下ニ立テ諸庄屋ヲ支配ス山本家代々大庄屋

トナル

大梅山興福寺 曹洞宗 本尊釋迦如来 春日ノ

大梅山興福寺 曹洞宗 本尊釋迦如来 春日ノ

作ト云フ 開山ハ城主赤井要右衛門 境内ノ假
 山水ハ近衛三龜院ノ作ナリシトゾ
 近衛殿屋敷ハ此ノ寺内ニアリ天正ノ頃波多野惣
 七ナル村人アリ女子ヲ京ニ上レ近衛家ノ婢妾ト
 不妊ミテ兒ヲ此處ニ産ム兒九歳ニシテ京ニ入り
 近衛家ノ嗣トナル三龜院信尹コレナリ別項参
 波多野秀貞ノ陣址ハ田道ナリ興福寺ノ傍ナリ竹
 田ニアル秀沼ノ軍ト夾撃シテ光秀ヲ敗リシ所ナ
 リ別項参者 黒井山禪名寺佛性山常住寺補陀落山
 觀音寺佛性山蓮華寺除地
 小字 地下村 元祿高二百四十六石 寛政改ニ
 百九十五石六升内四石七斗二升束役免除 龜山

藩領

古墳 長サ十六間前方ノ幅五間 後園ノ古形
 天正元年九月二十七日發見 發見人ハ農人某
 動機ハ耕作中 掘出物ノ鐵製衝 明治十六年
 ノ祭振物ハ刀劔 土壘 管玉 小玉等 地名
 アルキ塚 使用農作地 推斷 第二期中期ノ
 墳 時代魯仁朝ヨリ推古朝間 臣位 皇子又
 ハ公卿ノ葬所 鐵衝 普通ノ物ノ倍大 製作
 巧妙表面鍍金
 碧玉岩管玉一個 瑠璃色小玉十七個 紺色小
 玉一個 不明錢片一個 金屬破片十四個 銅
 環三個 鍍金ノ 土壘 碗形 吹壺 壺 高坏等

町
 岐
 志

九個 破片十五個 刀劍破片數十個 人骨類
似ノモノ大サ二寸許ノモノ一個

吉見村

吉見村 大字 上田村 梶原村 上垣村 北岡本村
地位ノ本郡ノ東北ニ偏シ東面天田郡ニ接シ遠東
鴨庄村ニ隣リ南方春日部ニ西方美和村ニ北方竹
田村ニ交ハル平野アリテ竹田川ノ灌漑ヲ受ケ農
耕ニ適ス戸四百三人一千八百六十九^{四十年}ヲ容ル
民有土地五千二百四段地價七萬八千七百八圓^{同年}
重要物産ハ米麥トス
上田警察分署 郵便局 尋常高等小學校 市鳩
運輸合資會社 村役場 市鳩停車場等アリ休宿
スバク飲食スバク小商店アリ往來ニ便ナリ上田
ヨリシテ道路四分ス此ノ所四十戸アリ町形ヲ爲
サントス^{十四年}分岐點ノ石標ニ右をりま左京大阪

丹波志

ト刻ス 里程コ、ヨリ 竹田へ一里 團領へ二
里 黒井へ一里半
大字 上田村 往時徳川幕府直轄ノ地ニシテ京
都ノ代官小堀氏ノ支配ニ係カル元高五百七十七
石寛政改五百七十四石七斗一升三合文久改五百
二十石七斗一升五合七勺
小字 市嶋ニ吉見氏アリ吉見ハ此ノ邊リノ地名ナ
リ蒲冠者範頼ノ次男ナル三郎資重庶集郷ニ移リ
其ノ裔孫式部少輔則重ニ至リ明智ノ軍ニ亡ホサ
レタリ資重ハ吉見ヲ姓トシ則重ハ鹿集ヲ姓トス
古城アリ其ノ址存ス堯カ淵堯カ堰等ノ遺蹟モア
リ

天瑞宮 八幡宮 志魂碑等アリ碑ハ征露戰役ノ
死者ヲ紀ル兒玉大將ノ書ヲ刻セリ
大字 梶原村 元高二百八十六石 寛政改二百
八十六石八斗八升五合八勺 當時民家百十戸
徳川旗士川勝辺江守知行 狛野五町四方 春日
部村小區士ノアル所参考スバシ 文久年間高改
アリ三百九十一石二斗七升七合ニ上ル領主ヲ川
勝新藏ト云フ
鴨明神社 一名加茂明神社 鴨林山神岩寺ト稱ス
ル西部ノ宮寺ナリシヲ維新ノ際ニ訛釋神道トナ
レリ此ノ社ハ加茂郷ノ経社ニシテ古時盛大ナル
祭式モアリ七十二度ノ祭典ナドモアリシガ流鏑

京都府立総合資料館所蔵

馬ノ式ノ三残リテ重陽ノ節ニハ今猶コレヲ行フ
庚申堂毘沙門堂ナドアリテ七町七段ノ境内ハ除
地ナリト明神降臨ノ迹ハ南方山麓ニアリ疊石ト
呼ブモノ長十間幅五間アリテ其ノ上面ニ馬蹄ヲ
印ス鳥居ノ道路ヲ間テ、大鴨脚木アリ周圍一
丈四五尺 壘乳房ノ如シ穴ニ供物アリ
伊和ノ森 此ノ迹傍ニ在リ式内伊和神社ノ迹ナ
ラシ半トノ説アリ
昭谷山 日光寺 曹洞宗 境内山林除地ナリシ
大字 上垣村 小字倉部合高五百二十八石一斗
九升一合 文久度五百三十七石二斗二升。〇。二
才内三百五十九石二斗八合七勺ニ大京都公家萩

原式百七十八石一斗九升一合三勺 旗下士水野氏
知行
愛宕社 本社舞殿拜殿鳥居釣鐘等アリ龕中ノ諸
器ハ皆佛具ニシテ楞龍山願成寺ト呼ビ真言宗ニ
属シ寺僧具ノ神事ヲ管掌シ吉見莊四村一社ノ氏
神ナリト當社縁起ニ云ハリ磨子親王丹後下向ノ
際ニ此ノ地ヲ經過レ川水ノ暴漲ヲ憂ハ本社ニ立
願アリ頃テ天龍顯出シ長檣トナリ川上ニ架ス只
親王ノ三具ノ寶ヲ知ル從軍ノ者ハ視テ以テ木檣
トシ步渡ス山拜寺拜ノ起原スル所ナリ境内除地
三角ノ故址アリ 響ノ岩一名大御岩ハ栗山ニア
リ十四間四方アリ

京都府立総合資料館所蔵

荒神社 倉部ニアリ 古織物アリ懸軸トス
 蓮華カ——東林中ニアリ一町四方ノ塚形ヲ存シ
 内ニ一間四方ノ岩洞アリ
 大字 岡本村 舊高二百八石五斗三升寛政百七
 十石氏家十四戸織郷三十三戸 天領小堀代官所
 支配杉浦出雲守知行交ハル 文久高三百三十石
 七斗二升九合九勺 内八十四石七斗六升九合御代
 官所納百五十石六升九合藤堂肥後守知行九十五
 石三斗六升杉浦若狹守知行
 小字 岩戸 元高百七十石九斗三升 文久度改
 百五十六石五升四合三勺 當時民家五十戸 杉
 浦知行所

熊野権現社 西部ニテ燈明山岩戸寺ト云ハリ古
 来熊野権現ヲ本尊トシテ左右ニ天照太神ト戸隱
 明神ヲ祭ル兩部神道ノ弊ヤ多シ而モ天照皇太神
 ヲ以テ権現ノ下ニ倍列セシムルニ至リテハ極マ
 レリ雖新ノ隆ニ行ハレタル地藏流シ佛像潰シハ
 具ノ及動ノ一時ニ勸發シタルナリ 當社ハ幕府
 ノ朱印地トシテ寺域山林共除地ナリ領主支配ノ
 及バガル所トス社藏ノ大般若經ハ上垣村城主吉
 見氏某ノ自筆ト云フ本尊千手觀音ハ漆道仙人ノ
 手作ニヒテ其ノ大サ六寸前立新併ハ大サ三尺ア
 リ開山堂アリ仙人ヲ祭ル八幡宮地藏堂仁王門惣
 門等アリ惣門内ノ笈立岩ハ一間四面高サ六尺ア

丹波志

リ上面平扁ニシテ仙人所居ノ迹アリ古ハ吉見庄
ノ岩戸寺トテ名アル所ナリ下馬札ノ遺地アルニ
テモ知ラレナリ

小川村 大字 南中村 岩屋村 奥村 野坂村

井原村 村森村

郷名 井原 和名抄ニ訓爲波良 莊名小川 現
今ノ小川村和田村ノ地ト云フ

戸數三百八十八 人口一千九百六十六 明治四十年

主要物産 米 麥 粟

本郡第三線路ノ起點地アリテ播州高砂ヨリ来リ
和田沼貫成柘幸世ヲ経テ東蘆田穴ノ浦峠ヲ越エ
福知山ニ達スルモノトス又佐沼久下西川ノ流末
合ヒテ播州ニ入り加古川トナルノ境界地ニシテ
川ヲ隔テ、播丹相望ム村民ノ椀筏ニ衣食スルモ
ノ多シ

小川村

丹波志

大字 井原村 元禄高二百八十一石五斗二升五
勺 寛政改三百八十四石六斗 民家七十二戸
文久改三百八十一石五斗二升二合五勺 内三百三
十三石三斗一升九合 織田衛守知行四十八石二
斗三升五合 柏原藩領
二ノ宮 五社大明神社 三段六畝二十四歩ノ除
地アリキ
塩壺一名辨天池アリ 舊邸址大燈山ニアリ
二重川 足利橋 土俗ノ傳フル所ニ由レバ楠公
泣男ノ策モテ尊氏ノ軍ヲ敗ル尊氏遠々ノ體ニテ
京都ヲ逃遁シ丹波路ヲ経テ山陽道ニ出デントス
棒氏ノ軍コレヲ窮追シ此ノ地ニ至ル尊氏進退谷

マリ遂ニ此ノ橋下ニ匿レテ逃ル、下ヲ得タリ因
テ足利橋ノ名アリト二十餘間ノ陸道アリテ橋ヲ
東西ト南北ニ架シ二重ノ奇檻ナリシモ明治三十
六年ノ架換ニ長ニ間餘ノ普通ノモノトナレリ
大字 岩屋村 昔往五百八十石九斗三升三合ノ
高元禄ニ至リ五百二十四石餘トナリテ寛政ニ至
リ慶更無ニ當時民戸八十トアリ文久改五百二十
五石二斗九升二合九勺 由百五十九石七斗七升杉
浦知行三百六十五石五斗二升二合九勺 柏原領
杉浦知行ノ内元禄九年享保十七年而度新開高四
斗一升二合六勺
近傍十三個村ヨリ岩屋ノ寄附シタル燈明田數多

町
坂
志

アルヲ以テ入組地多シ 領主ヨリ粟役二百石ヲ
 課セラレ年々銀納シタルハ具ノ名産ニレテ民家
 ノ利得多キヲ公認セラレタル故トゾ具ノ課法ハ
 栗樹一株ニ銀札一分トス然ラバニ萬株アリト見
 ラレタルナリ栗ノ外ニ串柿 岩茸 氷蒟蒻 烟
 草等アリ 氷蒟蒻ノ産地ハ殆ト二里ニ亘ル旗山
 谷産物多シ
 白山権現社アリ 鬼ヶ洞城址ハ雲林院式部至高
 任ノ居所
 岩屋山石龕寺 真言宗 本山播磨國圓滿寺 岩
 屋村ノ栗林八町許山奥ニ入ル路窮マル所ニ門ア
 リ茅茨單屋ナルガ往古ハ樓門ニテ有名ナル小野

道風ノ書額ヲ掲ゲタルモ今ハ却シテ藏中ニ秘ス
 仁王ハ運慶ノ作ニテ今猶門下ニ肩ヲ聳カセ腕ヲ
 揮ヘリ威容儼然トシテ並立テリ鬚髮ノ白キハ奇
 相ヲ示ス老仁王ナルベシ本堂ノ本尊觀世音ハ智
 證大師ノ作不動明王ハ慈覺大師ノ作 石塔ヲ登
 ルト數十級ニシテ毘沙門堂アリ四門四面建築古
 雅ナリ三方峻嶽ニ圍マレテ幽邃ナリ之ヲ岩屋ト
 呼ブ毘沙門ノ洞トテ靈窟アリ

石龕寺

堅ニ尺二寸 横ニ尺一寸
 浮彫 縁面布着 金箔押風簀
 而蝕ニテ字體分明ナリ又傳ニ曰
 ハク村上天皇ヲ御寄附ニ係ルト

鯨口一個 徑九寸 量目一貫五百匁 銘 建武二年	并月三日 丹波國氷上郡石籠寺トアリ 赤銅製 古	鈴三個 量匁五十匁 一個百三十匁ノモノ 二個形各	異ナリ	堯星 水晶ノ玉ニテ 徑一寸五分 五厘 重量九匁	五分	右ハ 足利尊氏カ 昆沙門天ノ奉納セシモノ	古銭四枚 播州多可郡比志ノ庄ナル 板倉具ノ 昆	沙門天ノ奉納セシ所
-------------------------	-------------------------	--------------------------	-----	-------------------------	----	----------------------	-------------------------	-----------



燒尾神社ハ尊氏ノ再建ニシテ石龕寺ノ鎮守ナリ
シカ現今岩屋村社トナル

略縁起抜摘

用明天皇ノ御宇聖德太子ノ開創ニテ毘沙門堂ニ
安置スル所ノ小像ハ太子ガ守屋討伐ノ時自刺シ
曾ノ真甲ニ戴ケルモノ守屋退治ノ後コノ毘沙門
像此所ニ飛来リ光彩ヲ放リ太子此ノ地ヲ經過シ
之ヲ得玉フテ頭光カ嶽ト名ツケ一寺ヲ建立アリ
即コノ寺ナリ村上天皇靈夢ノ御感得アリテ伽藍
ノ營築ヲ命セラル具時道風ノ願ヲ掲テ足利尊氏
義詮京都ニ敗ルヤ義詮及ビ仁木賴章義長兄弟
二千騎ニテ来リ陣ス衆徒祈願ノ勞ニ酬申シトテ

勝後小川莊三百町ヲ寄附ス太平記文安天正ノ頃兵
火ニ係リ灰燼ニ委ス寛永三丙寅明覺和尚再興シ
舊觀ヲ認フニ足ル
美詮カ此ノ寺ニアルヤ一老僧大乗ヲ進ラス美詮
其ノ中大ナルヲ取り餘ハ皆臣下ニ領ツ老僧ニ賜
フニ一首ノ歌ヲ以テス且云フ様貴僧コノ大乗ヲ
種正置カレヨ芽ヲ出サバ我モ都ニ出デタルナリ
成木シテ實ヲ生スルニ至ラバ我天下ヲ掌握スル
ナリト其ノ歌ニ云フ

於てハ出て為栗乃芽とあらふよりちくちくとならぬのうな

此所ニ産スル大栗ハ一個一爪痕アルハ美詮カ老
僧ニ興フル時附ケタル迹ナリナドノ村説野話ア

除地十四町四段歩ノ山 二畝三步ノ郎地 四畝
十四歩ノ山畑 一段三畝二十八歩ノ竹林アリキ
寛政改

丹波井原翁寺 春臺

聖曆丹波路見返翁氏石像雲邊曼刺字在通風也
一尋葉中多之軍國表多之軍國表多之軍國表多之軍國表
正平五年足利將軍部ハ歸リ玉ヒテ桃井合戦ニ布
負ケヌレバ西國ハモ赴キ給ヒ御子息宰相中將殿
ニ仁木左京大夫賴章舍弟右京大夫義長ヲ相副ヘ
テ二千餘騎丹波ノ井原石翁ニ止メラル此ノ岩屋
寺ノ衆徒元來無ニ志ヲ存セシカバ城墪ノ便モ

心安ク覺ハタル上 萩野波々 伯部久下 長澤一人モ
 残ラズ 馳セ 参リケレバ 丹波國 小川莊ヲ 寄附セラ
 レ 永代ノ 寺領ニ ゴナサレケル
 栗 高ハ 臺ノ 下に 傍皮 切ケル 山家 其ノ ちヲ 丹波栗 三ノ 田花 葉

a 丹波栗
 b 朝鮮栗
 c 盆栗
 d 中栗
 e 小栗

栗大小比較圖 c

盆栗ハ 早生
 シテ 盆栗ヲ
 ミ於テ 早ク
 市場ノ 額ハル
 モ

丹波栗ハ 他國ニモ 産スレドモ
 此地如ク 大ナラズ 亦味美ナラズ
 故量多ク 糖藏スルニモ 適ス
 朝鮮栗ハ 近來ノ 輸入品ニシテ
 形味丹波栗ニ 亞グ

栗ハ 農家ノ 副産物トシテ 空地荒ハ 無地ニ
 植エテ 利ダシ



大字 興村 高百十九石二斗六升九合五分 文 久百六十五石三斗五升三合 民家四十三戸 寛政	産物 串柿	織田衛守知行 旗下士 産物同上	宗信山長傳寺 寶泉院ニ信長ヲ祭ル 邸址 篠	倉豊後守ノ居所	朝霧ノ森	大字 村森村 高三百九十九石六斗九升八合三 分 民家七十戸 寛政 織田衛守知行	一宮正一位王子大明神社 壹町四方除地ナリレ	文久三百九十八石九斗
---	-------	-----------------	-----------------------	---------	------	--	-----------------------	------------



京都府立総合資料館所蔵

二宮正一位貴船大明神社 壹町半幅ニ四町鑿ノ
地無稅ナリシ

大歳大明神社 十五間ニ八間ノ除地

壺塲 貴船社ノ下常樂寺迹ニアリ古時惣太郎ト
云ハル者備前ヨリ来リ備前焼ヲ製出シ之ヲ惣太
郎焼ト稱ス古丹波ト稱スルモノ、内備前窯ニ類
スルモノハ此ノ窯ヨリ出ヅルヲ多シトス
ギン
ガシナツヒキト稱スル名壺ハ亦コノ窯ヨリ出デ
タリ

大字 南中村 戸數十五戸 井原ノ内ナリシヲ

此ノ所ニ入ル高十石ニ斗三升三合ヲ支配主代官
小橋ニ納ム 寛政年改

本郷村ヨリ流レ来ル舟筏小川村ニ至リ丹波川ノ
名ヲ以テ播州ニ入り加東郡上瀧野村ト多井田村
トノ間ニ岩石崎々急流矢ノ如クナル所アリテ上
下スル舟筏コトニ至リ荷物ヲ積ミ替ヘ不ハ通行
成リ難ク許多ノ煩アルヲ以テ丹波ノ舟人モ之ヲ
以テ一大苦難トシ之ニ從事スルモノ、口實トシ
賃銀ヲ貪ルモノサハ有リタルニ多可郡石原村ノ
民村上清次郎開鑿ニ從事シ一年餘ニシテ功ヲ奏
セリ此ニ於テ兩國ノ民運輸ノ益ヲ得ルヲ大方ナ
ラス

新井村

新井村	大字	舉田村	大新屋村	北山村	田
路村	鴨野村	母坪村			
北方本郷沼貫ニ接シ西ニ廻リテ沼貫小川ニ交ハ					
リ南方久下ニ面シ東北ニ方柏原石負ニ續ク					
戸					
數三百八	人数一千五百五十八	明治四十年			
大字	舉田村	元録高三百石五斗四升九合	寛		
政文久同	本多淡路守知行所	和名抄ニ謂フ所			
、舉田郷ナラシ	井守山アリ				
大字	鴨野村	元録高二百四十五石	寛政改二		
百四十五石四斗五升二合	文久改四合増	民家			
四十五戸	陰坊十一戸	佐野三藏知行			
賀茂明神社	箱荷明神社	共ニ除地			

新井村

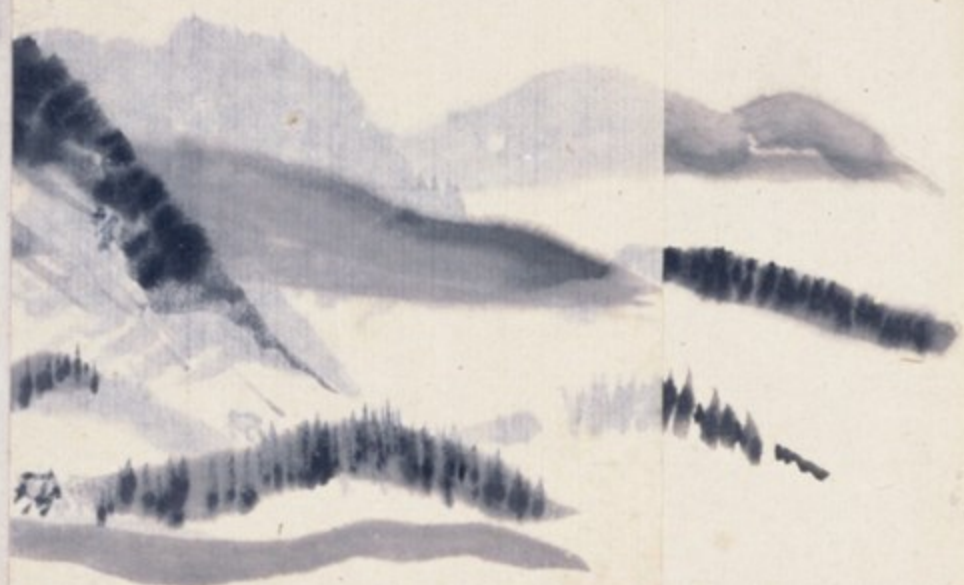
大字北山村 寛政高二百七十一石一斗三升一合
 文久同 民家四十戸 代官小堀支配ナリシ
 大字 大新屋村 寛政高五百三十二石二斗六升
 九合内九石餘山後 民家八十戸 佐野知行 原
 野二十七町歩 産物 桑 桐草 蠟石窟アリ
 山王社 式内新井神社ナリト云フ
 石戸山 久下ノ石戸山ト呼ブ鬱茂セル良山ナリ
 長子塚山麓ニアリ由緒詳ナラズ
 大字 田路村 元録高五百四十二石六斗一升四
 合寛政度五百三十八石餘 山高ハ別ナリ 文久
 度五百十二石八斗一升一合七勺内三百九石一斗
 八合七勺 御代官所 二百三石七斗三合 本多

淡路寺知行 風呂川田養水アリ古来枯渴セズ
 藤白大明神社 一町半四方除地ナリシ
 大字 母坪村 元録高三百三十五石 寛政改増
 八斗二升九合 民家二十五戸 柏原領
 船川 舟船発着ノ地ニシテ小港ナリ問屋アリ賃
 物甚散ス 東方柏原ヲ距ル三里 和泉ト呼フ所
 アリ水澤ヨリ泥ヲ撥キ揚ガ田トシ稻ヲ作ル 坊
 主川アリ 二本杵アリ
 柏村岡 柏山古城ノ下ニアリ一名岩坂山トモ篠
 山トモ云フ 穂壺臺頂上平坦ナルヲ臺ノ如シ十
 五六町ヲ距リ良佐ヨリ望メバ佳景ナリ
 岩坂の山乃心もぬのうごきふくもたんかきけみ苔乃む花うな 續古今
 匡房

京都府立総合資料館所蔵

岩坂山

稻村自



かくはうりやけき年み稻村乃山田字をん又もあひまや夫木集
 君ふ代いづれの里もたしちて心なむらふ資三我藤地草
文政元年十月十日 岩坂山丹波小所産風六帖初巻十八首の内
右少辨五位下藤原朝臣隆光
 つみたのし物もしとれす稻村乃山田の川佐山と云る事なり

京都府立総合資料館所蔵

岩坂山

稻村圖



船城村

船城村	大字	山田村	歌道谷村	牛河内村
天王村	新村	朝日村	野山村	坂村
石				
杖村				
此ノ村ハ本郡中央稍東南ニアリテ希有ノ平地ヲ				
有シ農業好適ノ所トス詔部落平野ノ周圍ヲ擁シ				
黒田村ニ接スルノ東北一帯米穀蔬菜ニ適シ産出				
頗裕ナリ北方享世村ニ至ルノ地亦田墾多シ戸數				
三百八人口一千五百九十五民有土地六百五十五				
町八段地價十萬五千七百八十三圓				
明治四十年産物				
中藪多シ				
大字	山田村	古高	百十八石一斗五合五勺	寛政
改百八十石二斗五升四合文久	改百八十石三斗二			

船城志

升當時書上々民家四十五戸龜山藩領ニシテ山役
 銭ハ水野壹岐守ハ納ム
 小字 大野 高五十石 獨立村ナリシモ山田ト
 一本免狀ニテ税目帳簿ヲ一ニシ庄屋村役モ一ナ
 リ憲法山樹源寺塔雲院 法道仙人開基ニテ真言
 宗ナリシヲ後ニ淨土宗ニ改ム 本尊阿彌陀如来
 ハ慈覺大師ノ作地藏菩薩ハ小野篁ノ作ト古傳アリ
 境内百五十間四十間縱横ノ地免稅ナリシ
 下王子大明神 近江國坂本ノ下二十一社ヲ傳ヘ
 齋キタルモノ社地二百八十坪除免ナリキ
 大字 歌道谷村 元祿高百四十九石二斗二分五
 合寛政改百四十九石八斗三分 當時民家三十八

戸武田出雲守知行所文久年度高同ジ
 正一位山王三前社 天ヶ嶽ノ下ニアリ開闢ノ神
 トシテ奉祀ス 本社護摩壇烏居神輿庫等アリ除
 地九畝(維新ノ際) 享保年間麻疹流行スルヲ朝廷ヨ
 リ祈禱式ヲ此ノ社ニ行ハセラレ神官系譜ノ査定
 アリ玉體健康ニ復セラレタルヲ以テ山王本神ノ
 名稱ヲ下サレ社田ノ御寄附モアリ遂ニハ御祈願
 所ニ定メサセラレ享保十五年六月十三日ニ下賜
 セラレタル所左ノ如シ

西湖八景繪卷物 菊御紋付箱入
 山市晴嵐 贊 式部御官 漁村夕照 贊 醍醐大納言
 瀟湘夜雨 贊 清水谷大納言 蓬浦歸帆 贊 久世前大納言

京都府立総合資料館所蔵

煙寺晚照	贊	六條宰相	洞庭秋月	贊	風早三位
平沙落雁	贊	冷泉前中納言	江天暮雪	贊	中院前内大臣
詞書六歌仙		菊御紋箱入			
僧正通照		鳥九大納言	在原業平		三條大納言
文屋康秀		久世前大納言	喜撰漆師		藤谷前中納言
小野中所		押小路宰相	大友黒主		冷泉中納言
額	花山院				

等ニシテ辱クモ御撫物ノ御下賜アリ御撫物トハ主
上ノ御手ニ觸レタルモノ、謂ニシテ何品ニテモ斯
ク言ヒ成セルナリ

神官ヲ安達和泉守ト呼ブ其ノ系譜ニヨレバ藤原
鎌足ノ苗裔ニシテ平治ノ乱後此所ニ遷匿シタル

ナリ 古来筋壁ヲ用ルヲ許サレ御所ト同様ノ
塗リ方ナリ

瀑布 本社ノ一西奥ニアリ 観音堂 本尊十一
面観世音 慈覺大師ノ作ト云フ

村人某云フ此所ハ古キ由緒ノアル村ニテ本社モ
往古ハ立派ナル様子ニ承ツテ斗マス何時ノ頃ヨ
リカ歌道谷トナリマシタカ歌道谷ト云フガ古名ト
聞キマス大嘗會ニハ丹波ノ名所ヲ歌ニ詠ミ込ム
トニテ主基所ノ匡房卿ノ歌モ此處ノトデアルト
聞キマスうたなでハ歌道谷ノト申シマス其ノ歌
ハうたなで乃村乃旅人まゝとあて流される世の聲
をゆくらなと申スノデス丹波ノ地名中歌ト云フ

京都府立総合資料館所蔵

字ノ上ニ付クノハ外ニアリマスマイ歌撫ノ谷ガ
 歌谷トナリ道ノ字ガ加ハフタノデシヤウ
 烏頭寺地藏 黒井ノ兵主神社ノ竹林ヨリ地藏石
 像ヲ掘リ出シタレバ如何ニセント諸人ノ相談ア
 ル一決セガルヨリ之ヲトヒタルニ歌道寺ニ祭リ
 ハ惜大神トスベシト因リテ此所ニ祭ル
 大字 石才村 元祿高百五十六石八斗二升九合
 一々 民家入組三十戸内高九十六石五斗六升三
 合一々ハ柏原領六十石一斗六升六合ハ朝日村ニ
 属シテ龜山藩領ナリキ
 今ヨリ八九十年前ニ此ノ地ノ風習次第ニ壞レ傍
 勤スルモノ少ク遊手徒食ノ者年一年殖正隣村ハ

是村貧村故
 御法トシテ此ノ
 殿ヲ取ルハ當時
 領主皆然リ

秋ニ樂ムモ此ノ村ノミハ飢ニ泣ク者アリ田實ハ
 租税ニ足ラズ利足ハ隣村他所ノモノニ責メ取ラ
 レ今ニモ破村ト爲ラントスルヤ領主龜山藩ヨリ
 臨檢ノ吏ヲ祭シ懇諭スルト雖ソノ効無ク因襲ノ
 久シキ一朝ニシテ改復スベカラザルヲ見テ數名
 ノ吏負出デ来リテ百姓ト同居シテ起臥ヲ共ニシ
 曉六ツ時柏子木ヲ相圖ニ作業シ朝間一度柏子木
 ニテ休息シ又柏子木ニテ作業シ正午ノ喫飯午後
 一度ノ休息暮六ツ時ノ歸宅報告ニ至ル迄嚴重ニ
 執行シタリシカバ翌年ヨリハ督促セズシテ租米
 ノ上納ヲ怠ラズナレリ此ノ大仕掛ノ救治方ニハ
 愚民モ大ニ懲リタリト云フ

町 賦 誌

聖權現社 古ハ除地
 大字 坂村 元祿高百十一石 宿村寺谷村共
 寛政改百二十一石二斗二升三合三勺 文久改百
 二十二石一斗八升三合三勺 民家十戸 柏原藩
 領
 大字 野山村 元祿高二百六十七石 寛政改二
 百六十七石三斗六升八合一勺 文久度同 當時
 民家四十五戸 同領
 孝子 百姓幸七三十五歳妻まさ二十九歳 寛政
 二年褒賞セラレ
 城址 小家ノ段ニアリ南山ノ頂ナリ事歴詳ナラ
 ズ

教覺寺 一向宗 二畝ニ歩除地ナリシ 觀音堂
 境内同シ十七歩
 大字 天王村 高百四十九石三斗四升五合一勺
 寛政改二百石民家五十戸 古名ヲ津坂ト云フ船
 舶往來セシ所當時潦水全郡ヲ浸シタリトカヤ
 北方天王坂ニ二路アリ但馬道ト氷上村トニ通ス
 ルモ此ノ坂ハ天田郡ニ接スルノ長坂ニシテ長
 ノ東ヲ山東トシ其ノ西ヲ山西トス地勢ノ分ルハ
 所ナリ東ニ在ルハ黒井ニシテ南ニ在ルハ野山村
 ナリ石質村ナリ
 舟城神社 舊稱祇園牛頭天王 俗呼ンデ日本三
 社ノ一ト云フ 毎年三百餘寶物數アリコウト呼バ

町
 賦
 誌

製墨ヲ出カス舊稱天王山覺王寺 家内安全 人
 獸除病ノ守札ヲ出カス 舊曆十一月二十七日夏
 土用丑ノ日ニ近郡近國ヨリノ賽者多シ
 大字 新才村 古高二百二十石五斗五升七合五
 夕寛政新檢地合高四百十石九斗三升内八十石段
 邑當時民家四十二戸 龜山藩領
 松林山清雲寺 臨濟宗 田一石免稅
 小字 長見 古高百二十六石九斗四合 寛政改
 二百二石七斗五升民家二十戸 同領
 式内権縫神社
 古城西北ニアリ兵庫殿ト呼ブ古丘アリ
 大字 牛河内村 古高百十八石三斗五合五夕

寛政改檢二百二十五石八斗九升民家四十同領
 加茂大明神社 北條時頼ノ管スル所ニシテ京都
 ノ加茂祠ヲ移シタルモノ經六十五間横四十五間
 ノ免稅地ハ北條氏ノ寄附ト言ヒ傳ハリ
 藥師堂 本尊藥師像ハ足立氏ノ幼童ガ土中ヨリ
 掘リ出セシモノニテ背面ニ一首ノ歌アリ
 瑠璃山常光寺 曹洞宗ニテ除地ナリキ 毘沙門
 堂亦同ジ
 大字 朝日村 元祿高二百四十九石四斗五升三
 合 寛政改百五十石 六十石ハ石才村トナル
 領主龜山藩ニシテ武田ノ知行所アリ
 東西ノ水落 十間四方ノ森 黒井ノ部ニモ出カス

京都府立総合資料館所蔵

鴨莊村

鴨莊村

鴨莊村	大字	岩戸村	喜多村	戸平村	北奥
村	上牧村	南村	多利村		
古ノ莊	狹ヲ以テ今ノ村名ト爲ス	産物	米	麦	茶
木杖	等戸五百七十六人	三千百五十二	地位	郡ノ	
東部	ニアリテ東方多紀郡ニ境シ	北方春日部園領			
ニ村ニ隣リ	南方大路村ニ接ス	正東天田郡ヲ郡界			
トシ村界トシテ隣接ス					
大字	喜多村	寛政高	三百六十四石	後ニ七斗一	
外増シ	民家百戸	川勝	千吉郎	知行所	文久四百八十
ニ石八升八合トナリ	同家ノ知行所	ナリキ			
妙見山龍華寺	開基	濟道仙人	真言宗	無檀地	
境内除地	石經塔	アリ	仁王門迹	アリ	

天満宮 正法山天徳寺ト呼ベル兩部ナリ天徳年
 間ノ草薙ニシテ南北一町東西十間ノ除地アリキ
 不動佛ヲモ祭り鐘堂アリ天台宗ニテ叡山末ナリ
 シ
 多寶山少林寺 渡唐天神豊干ノ圖アリ古畫ナリ
 三玉山如来寺 淨土宗 濟道仙人ノ開基ニシテ
 七堂伽藍ノ跡アリ大門園部橋等ノ名残レリ
 天ヶ嶽 南方ニ聳エ山城但馬ノ山ヲ望ムベシ

城跡 長谷山ハ天正年間船越善阿彌入道ノ所居
 ニシテ車蹟詳ナラズ
 大字 戸平村ハ村ノ東偏ニアリテ古時天田郡ニ
 屬セシラ牧村ヨリ開拓移住セルヲ以テ牧村ニ屬
 シ地域ヲ本郡ニ組織ス今ヨリ之ヲ視レバ其ノ人
 ノ移住ニヨリテ他郡他村ガ其ノ移住人ノ本村ニ
 組入レラル、ナドハ不思議ナルガ當時地域ヨリ
 モ人圍或ハ種族ニヨリテ重キヲナセシトノ類例
 尠カラズ西奉行所ノ裁決ニ往々其ノ傾アリキ高
 六十六石六斗四合民家五十戸同知行
 小字 上村 高六十七石二斗一升民家三十八戸
 字端ニ五戸 寛政度調 知行同上

百姓太郎左衛門知名助三郎ノ妻ハ天田郡下河合
 村ノ産ナルガ家貧ニシテ夫死シ八十歳ノ姑アリ
 領主其ノ孝道ヲ竭クスヲ聞キ青差壹貫文米一斗
 ヲ下賜ス領主ハ即チ知行主川勝又兵衛ナリ新藁
 ニテ貫穿ニタル錢ヲ青差トハ言ヘリシナリ
 小字 眞村 神池塚原岩倉ヲ合セ高三百五十七
 石ニ斗六升二合民家百六十戸寛政調 文久度百
 八十石四斗四升二合川勝千吉百七十六石八升二
 合川勝主税兩人知行所ナリキ
 妙高山神池寺ハ高ハ五百六十五米突ノ山ニアリ
 龜山侯松平伊賀守東叡山ニ協議シテ幕府ニ請ヒ
 御朱印地トシ寺格極メテ高シ宗門改具ノ他行政

京都府立総合資料館所蔵

上ノ者護ハ龜山藩ニ於テ之ヲ爲シ年頭ニハ住僧
 式禮ヲ龜山城中ニ執ル同藩ヨリ黒印ノ書附ヲ以
 テ境内除地ノ免状ヲ與ヘリ神地ハ古来多ク無稅
 ナリシカバ併添流布後ハ寺地ニモ及ビ寄附地ハ
 大抵ソノ事トハナリテ大寺ニ收稅權アルトナ
 リヌ
 亂世ニハ僧徒ケ白帽黒衣ニ股卷鉢卷ナドシテ太
 刀長刀ヲ振り舞ハスト珍ラシキトモアラズシ
 テ此ノ山寺ニモ殺氣充満シ多勢押出し京都マデ
 モ攻寄セタリシノアリテ古戰記ニ丹波神池ノ衆
 徒トアル是レナリ備中ノ莊三郎真壁四郎ガ三百
 餘騎ニテ神池八十ノ衆徒ヲ壓シタルトナド太

平記ニ出ヅ湯屋谷ヨリ上ニ平地アリ峯頂ノ遠眸
 十五六里ヲ望ミツベシ護摩田燈明田等ノ字存ヌ
 鬼門坊ノ古迹アリ求門坊氏書ケリ由緒アレド畧
 シテ古時ノ百坊又寛政ニハ十八箇トナル具ノ名
 ヲ掲ケレバ左ノ如シ
 園帶院 利生院 智足院 本智院 法性院 性
 善院 蓮華院 刑部卿 十輪院 極樂院 一衆
 坊 北之坊 龍正坊 竹中坊 十衆坊 蓮華坊
 遍照院 權智坊 不動坊 持教坊 實勝坊
 内龍院 如院 西光坊 常智院 西教坊 多
 門坊 親了坊 栢本坊 本光坊 修善院 本衆
 院 智仙院 實相坊 淨教坊 本教坊 慶積坊

町
 敷
 誌

真境坊 圓智院 中之坊 真采坊 慈明院 正
 教坊 大采坊 寶光坊 高林坊 能仁坊 滝本
 坊 東泉坊 正行坊
 大塔宮ノ御鑑ヲ寶藏ニタルガ今ハ山階宮ノ御物
 トナレリ其原ヲ尋ヌレバ柏原ニアリタルモノト
 カヤ菟章使所ノ許ハ梶井宮ヨリ出テタルナリ寶
 物中ニ大蟻ノ鱗 名カナドアリ登路ニ條アリ春
 日部ヨリスルモノ加茂郷ヨリスルモノ天田郡菟
 原村ノ細見巢ヨリスルモノ
 春日大明神社 境内ニアリテ春日部郷ノ總社氏
 神トセリ兩部神道ニテ境内長五十五間幅三十五
 間ノ除地ナリシ文龜中ノ氏子トシテ記帳セラレ

タルモノ大路村ニアリ和田具廣トアリ古時加茂
 郷モ氏子ナリシヲ以テ盛大ニ祭式ヲモ營ミタル
 ニ加茂郷ハ加茂明神ヲ以テ氏神トセシニヨリ此
 ノ名社モ寂然ノ着ヲ免レズ而モ猶四村ノ氏子ア
 リ
 神池ト云フニ付キ昔話アリテ口碑ニ存ス其ノ一
 ニ曰ハク此ノ池ニハ神靈アリテ蟻蛇ト變シ時々
 其ノ形ヲ現ハスノミカ人ヲ吞ミ獸ヲ食ム荒レ出
 ス時ニハ釣鐘ヲサヘ吞ム村人コレヲ患ヘ人形ヲ
 造リテ坊主ノ如クニシ之ヲ山麓ノ塚原ニ立ツ何
 故坊主ノ形ニシタルカト問ハバ前日此ノ寺ノ僧
 フ吞ミタル故其ノ味ヲ覺エテ再來ルベシト想ヘ

バナリ果シテ夜半ニ兩眼ノ爛々タルト草芽ノ颯々タルトニ因リ其ノ来ルヲ知り僧形ノモノヲ吞ムト見ルヤ仕懸ケアル導火線ニ火ヲ點スレバ爆發一響大蛇燻死ス一害ハ去リタルモ其ノ紫ヲ爲サシトテ恐レ一社ヲ建テ、蛇靈ヲ祭ル是レヅ春日社ノ前身ナリトゾ
 孝子 無田百姓市右衛門ノ子武兵衛妻トニ共ニ寛政四年褒賞セラレ現戸主カ藏ヨリ三世前ノ者ニテ鴨坂ヨリ入智トシテ来リ善人ノ好稱アリシ人
 熊野新官ハ古ノ観音寺迹 風呂権現社ハ牛頭天王ヲ祭ル古時施浴ノ所ト云フ

山神境内除地ナリシ河原山昌法寺モ同シ
 川勝山海法寺 秦川勝國家ニ忠勤シタルヲ嘉賞セラレ栗田何鹿船井三郡ニテ領地ヲ賜フ寺ヲ當地ニ建テタリ今其ノ址ナシ
 権ノ頭屋敷ハ井木権ノ頭ノ居リシ所ニテ古井存スハ権山ノ東麓ニアル小祠ハ権ノ頭ヲ祭レルモノ地條ノ舊址舊塚 南兵衛ノ邸址ナドアリ 城迹トシテハ小松五郎右衛門ノモノヲ岩倉山麓ニ見又日ノ丸古城アリ黒井ノ支城ト云フ
 牧村 元祿高百六十九石寛政度百五十九石一斗五升ニ合民家五十戸川勝又兵衛知行文久度同北方ニ天田郡界アリ湯屋ノ澤ハ名水ヲ以テ名ア

京都府立総合資料館所蔵

里駒ノ瓜石ハ黒色ノ岩上ニ小ナル駒下駄形アリ
 黒岩ニハ斧痕アリ傳ニ曰ハク崇ヲ爲シ人ヲ惱マ
 セルモノカラ或ル豪傑ガ来リテ之ヲ割レリト
 夫婦岩 狹石 御手洗池 権現寺ノ古事傳来ノ
 モノアリ
 熊野権現社ハ小寺相模次郎ノ守本尊ヲ祭レルモ
 ノ ヤゲ社ニハ次郎ヲ祭レリ
 大字 多利村 春日部ノ多利トハ同名異地ナリ
 小字 産所村ハ根村ノ一部ニテ高十三石八斗五
 升四合民家二十戸内二戸ハ小多利今川勝千吉知
 行所ナリキ 美和村ノ勅使村ト關係アリレ所ト
 云フ

大字 南村 高百三十四石五斗三合民家七十戸
 川勝千吉知行 寛政度丈久度同
 知乃神社 式内 名神 境内縦三十間横九間除
 地 末社 太神宮 牛頭天王社 愛宕社
 大字 岩戸村 高百五十六石五斗四合三勺内引
 方五石六升六合ニ夕 残高百五十五石九斗八升八
 合一勺
 歩兵伍長ノ苦學生 玄米乳ヲ配達シナカラ學校
 ニ通ヒ割ケニ下級生ニ人ノ學資ヲ助ケテ水産校
 ヲ優等ヲ出シ努力ノ人福井縣立小濱水産學校ノ
 本年度卒業生中ニ卒業證書ノ外ニ優等賞ト努力
 賞トヲ授與サレタモノガアル名ヲ永井住氏ト呼

叫 披 誌

ビ兵庫縣永上郡鴨庄村ノ人デ年二十七陸軍歩兵
伍長デアール實家ハ元地方デモ相當ナ農家デアツ
タガ十餘年ニ亘ル兄ノ病氣ヤ其ノ他デ家産ノ大
部分ヲ消費シタ爲ノ父母ノ孝養ハ住氏ノ雙肩ニ
カ、ツタ所カラ福知山中學校ヲ中途テ棄テ、衣
食ノ道ヲ求メテ居ル内徴兵適齡トナリ検査ノ結
果甲種ニ合格シテ福知山歩兵隊二十聯隊ニ入營
シタカ成績優良デ伍長ニ累進シ大正五年十二月
退營シ六年四月苦學ノ目的デ小濱水産學校ニ入
學シタ其ノ頃小濱町ニ玄米乳ノ製造ヲシテ居ル
モノガアツタノヲ世話スル人ガアツテ謀度ケ之
ヲ經營シ苦學ヲ始メタ午前四時頃カラ床ヲ離レ

テ玄米乳ノ配達ヲナシ終ルト學校ニ登ワテ十四
五歳ノ一年生ト共ニ學業ニ餘念ナク放課後ハ午
後ノ玄米乳配達ヲ済マシ翌日ノ準備ヲ整ヘ夜ハ
十一時頃マデ復習ヲナスト云フ

葛野村

葛野村

葛野村	大字	長野村	大谷村	三原村	中野
村	三方村	中村	下村	上新庄村	下新庄
村	柳芝村	戸六百四十九	人三千四百五十		
四 <small>明治</small> 四十年 <small>調査</small>					
古名葛野郷	和名抄ニ訓ヲ加止乃トス	村ノ地			
佐ハ郡ノ西方ニ偏シ北ニ蘆田村アリ東ニ幸世成					
松ノ二村アリ南ニ沼貫和田ノ二村アリラ参差交					
錯ス					
大字ノ長野村	文政年度改高百五十六石七斗二				
升六合	文久年度改高六十四石一斗七合ニク				
書上ゲノ民家不詳ナレドハ數ナリシト云フ柏原					
藩領	長野ノ原三十二町強	産物	粟		

虚空藏堂 除地七間四方

弘浪山高山寺 真言宗京都ノ西ニアル御室仁和寺ヲ本山トス 本堂七間四面 本尊十一面觀世音 三產仁王門ハ三間四面アリテ何レモ古建築物トス 下馬札アリ 寺地ハ高山ノ凹處ニアリテ十八町四方ノ除地ナリキ山ノ高サ五百二十四米突 開基ヲ法道仙人トス天平勝寶五年ノ創立ニテ六坊ヲ設ク後年日向上人登山シ银杏樹下ニ座禪シ十一面觀音ノ靈感ヲ得テ中興ス涼觀朝亦其ノ夢想ニ感ジテ修繕セシメテ舊規ニ復セシム天正ノ乱兵火ニ罹リ一朝ニシテ烏有ニ皈セリ四方山泉ノ滴々溜リテ一派ノ湧泉トナル丁高野

山ニ似タルヲ以テ靈地トストカヤ 此ノ地元來由緒ノ在ルアリテ何村ニモ属セズ葛野莊高山寺ト稱ハ古史籍ニ於テモ丹波高山寺ヲ以テ世ニ知ラレタリキ西麓ナル長野ハ莊内ノ民コレヲ開キ六斗ノ貢米ヲ莊内ニ納ム莊内ヨリハ之ヲ燈明料トシラ此ノ寺ニ納メタリ檢地ノ際ニ長野村ト稱セシメ長野ノ高山寺ト呼ブ開地ノ際ハ六斗ナリシガ今ハ一村ヲ形造リ全村本寺ノ檀家タリ 鴨脚木ノ大株アリ日向上人其ノ蔭ニ跣踏セリト傳フ龍燈ノ松三本松ナドノ故迹アリ俊乘坊駒繫ノ穴トテ北阪ノ三町許上ニアリ源右府再造ノ攀アルヤ俊乘坊童源錄倉ヨリ來リ監スル際泉馬ヲ停

ノタル遺址トグ釣鐘堂アリテ釣鐘ノ無カリシハ
 天正ノ乱ニ光秀コレヲ掠奪シテ軍用トシ終ニ柏
 原ノ八幡社境内ニ遺棄シタルバ談社ノ有トナル
 不動佛免鹿ノ園アリ弘法ノ筆ニテ俗ニ日本三幅
 畫ノ一ト云フ 藤原秀郷百足屋治ノ繪巻物ハ實
 什ナリシガ今ハ七シ藤山人ノ所有トナルトカヤ
 地獄石ト呼バル石アリ
 高山寺城墟畧史 城墟ハ城谷ニアリ興國年間足
 利高氏後ニ尊
氏トナル義兵ヲ篠村ハ幡南東田所
篠村参看ニ擧グルヤ
 川人萩野丹六朝忠具ノ族ヲ率ヒテ勤王シ若狹路
 ヲリ進シテ京ニ入り六波羅府ヲ攻陥シテ功アリ
 尊氏反スルニ及ビ朝忠モ久下長澤波々伯部ノ徒

ト之ニ興シ仁木頼章ヲ推シテ將トナシ此ノ城ニ
 據レ興國七年小嶋高德ガ新田義昭ヲ奉ジテ兵ヲ
 揚クルモ亦此ノ城ニ據ル江田行義大館氏明ノ輩
 モ亦前後往來此ノ城ニ據ル行義嘗テ足利氏ト戰
 ヒ四虜トナル後醍醐天皇吉野ニ幸レ勤王ノ兵ヲ
 徵スト聞キ潛ニ逃レテ此ノ國ニ入り安立本莊等
 ト謀リ兵ヲ起コシ遂ニ此ノ城ヲ奪ヒ之ニ據ル尊
 氏コレヲ聞キ山名時氏ヲシラシテ攻メシム時氏
 具ノ地ノ嶮ニ据リ力取スバカラサルヲ以テヤ長
 圍ヲ築キ之ヲ困ム朝忠ハ出テ、降り行義ハ奔リ
 行ク所ヲ暗マヌ天正年中國主波多野秀治東軍來
 ルト聞キ氏忠ヲシテ防戦セシム東兵終ニ之ヲ陷

京都府立総合資料館所蔵

井ル
 大字 大谷村 高百二十石五斗三升八合新檢七
 十三石八斗餘 非常ノ減額ハ何ノ故ナルヤ詳ナ
 ラズ
 如茂大明神社 牛頭天王社 共ニ除地ナリキ
 大字 三原村 高八十六石一斗二升八合 文政
 改二百四十三石三斗七升八合六分
 産物 粟茶桑烟草繭絲粟炭 粟ノ實ハ大ニシテ
 味美ナリニフ伏セトスノハ一握ニ個ノモノ
 ヲ好品トス 粟炭ハ明治二十七年ヨリノ新産出ニ
 係カル 銅鑛ノ遺址アリ 篠ガ峰八百二十七米
 突ノ高サアリ 古城址ハ足立政成ノ所住政成ノ

兄ヲ廣成トス共ニ城居セリト
 正一位内尾大明神宮 祭神 龍宮乙姫 春日大
 明神 八幡大神 社地暨四町幅二十間除地祭田
 アリ亦同ジ 内尾ハ播磨境ノ地名ニシテ舊社地
 トス山ノ尾三筋アル中ノ尾ノ上ニ鎮座アリシ故
 ニ斯クハ呼バルナリトゾ今ノ所ニ移セルハ天平
 寶字五年ニテ本地ヲ地蔵菩薩トス開基ハ漆道仙
 人 早麩ノ年ニ遭ハバ村民禱祈ス升ハ乙姫ガ龍
 宮ニ住ヒルノ故ナリトゾ
 大字 中野村 元祿高百二十三石新檢百二十三
 石七斗四升八合文久慶改六十五石九斗三升七合
 旗下士稻垣柴田兩家知行 天満宮 社地五歩免

京都府立総合資料館所蔵

統ナリキ
 大字 三方村 高二百五十石四斗一升一合 文
 久度二百五石四斗一升一合 民家百戸 柴田知
 行 大歳大明神社地及近傍少許無稅地ナリキ
 大光山常照寺 菅洞宗 本尊名作 釋迦堂一名ス
マール堂
二間 除地 城山 塩壺ト呼ブ 赤井五郎所住ノ
 地 水溜ニ十間四方 雷岩 鶴ノ穴ナドアリ
 大字 中村 一名新庄中村 元祿高百四十二石七斗六
 升九合 文久六升ヲ三升トス 民家四十戸 何
 年ニカ辻太夫灰野太夫田端太夫ナルモノニ由リ
 開拓セラレタリトノ口碑アリ 柴田領ナリキ
 一ノ官明神社 除地二百十坪織田上総ハ寓所ノ傳

下村 一名新庄下村 元祿高三百六十一石八斗
 文久度同 幕府直轄地ニシテ代官柴田七九郎支
 配 文久度同人ノ知行トナル當地民家七十戸
 天下山 當村ノ山地ヲ天下山ト呼ビ他村ノ領主
 所有ノ山ト異ニシタルハ天領ト云フ天下普請ナ
 ドノ糧ナルガ如ク天下ハ幕府ヲ意味ス之ヲ京都
 ノ代官小堀數馬ノ一手ニ管掌セシメテ船井
 郡ノ旗下士柴田七九郎ニ委任シ權利ヲ細分セシ
 メタル所ヲ以テ施政ノ方鍼ヲ窺フベシ
 黒見鑛山 黒見谷ニ花崗石ヲ基礎トシ深造岩大
 成岩等ヲ以テ接合面若クハ其ノ近接ノ處ニ於テ

鑛脈ヲ發生シタルモノ、如シト云フ慶形ナル山
曠ノ右側ニ連ナレル鑛脈三條アリ最上鑛ハ百分
ノ十以上ナル銀量ヲ示シ其ノ下ハ萬分代ノ量ヲ
示ス之ニ由リ營業上ノ收利如何ハ今日ニ於テ判
定シ易カラズ鑛石ノ品位ハ佳良ナリ 永承年度
ノ大嘗祭屏風ノ歌ニ詠ノルモノ是レニヤ

丹波ヲ白銀山ニシメ 匡房

ふらぬの山乃久きまのまふらつ代ふきふらつては

大酒大明神社 日間大明神社 同森 天神ノ森

妙見ノ森 権現ノ森 八幡ノ森ナド數多アリ

許水山十九山達見寺 山号疊用 本尊坐像阿彌陀

行墨作文六尺五寸 觀音慈心ノ作 藥師行墨ノ

作

大字 柳芝村 柿柴トモ書ケリ分カレテ村トナ

リ町トナリ町ハ往キテ成栢村ニ屬ス高新檢五百

三十石其ノ内六十石ヲ町分トス文政年間改村家

七十戸町家二百餘戸アリテ柏原領ナリキ旗下士

箱垣長門守知行相錯ハレリ 産物 米麥繭甘藷

大豆煙草木炭柳實真綿

貴船大明神社 兩部ニテ長六十間幅三十間ノ除

地アリキ

鍛ノ宮 添道仙人持テリニ所ノ鍛ヲ納メ祭ル高

山寺ヲ開キタル時用ヒタルモノト傳フ

高岡山一名甲賀山 平地ノ小丘ニシテ四方人家

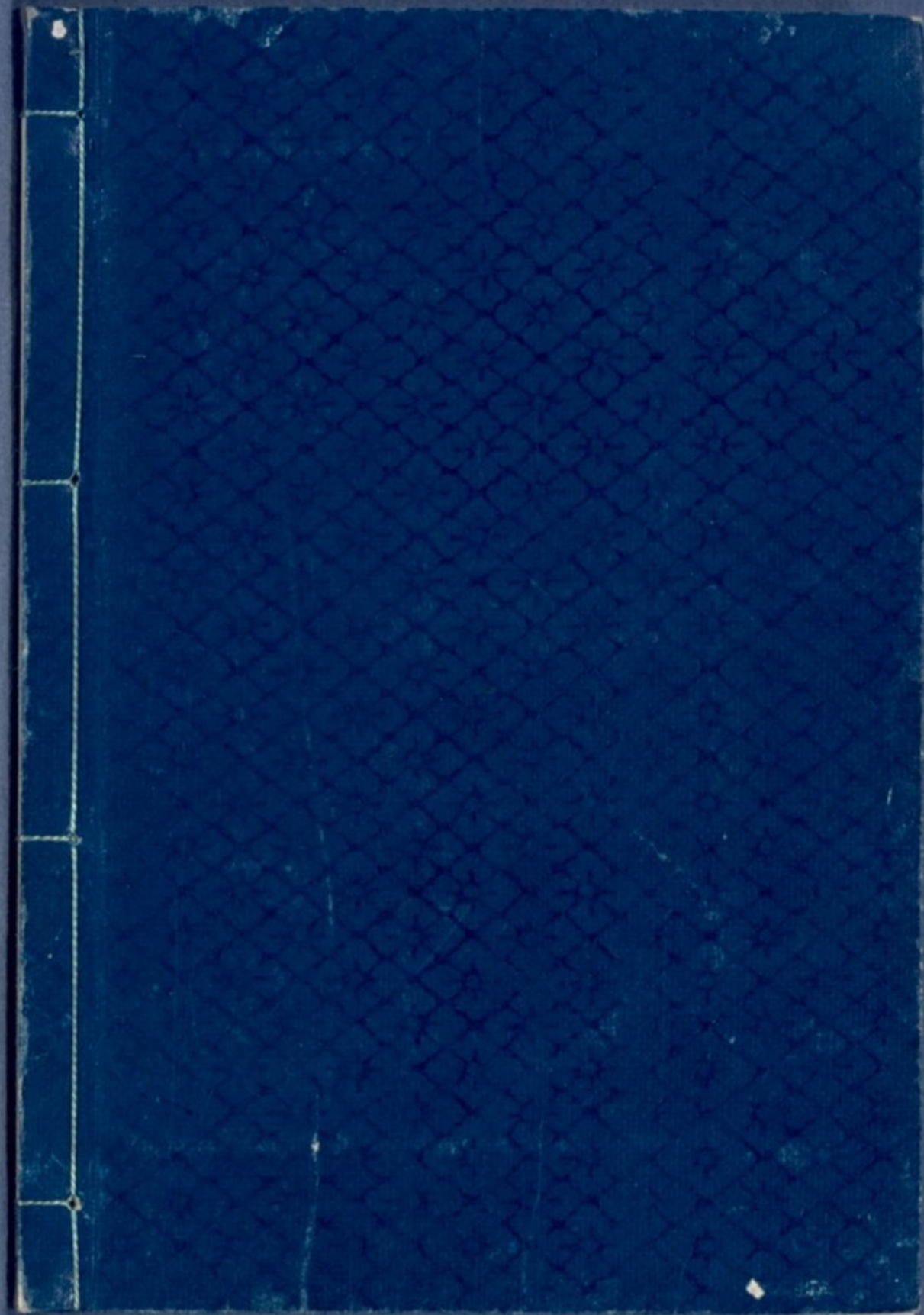
散布シ小風景ノ地 古人ノ歌詠アリ
 甲賀山宗蓮寺 曹洞宗 領主ヨリノ免稅地ナリ
 西向山西念寺 本尊一尺六寸 暹慶ノ作ト云フ 聖
 徳太子自作ノ觀音アリト云フ
 郊址アリ 事歴詳ナラズ
 葛野谷東西一里谷中山丘アリ 諸村之ヲ環ル
 宮中追繼ノ式ニ此ノ村ノ足立家ナル主人面ヲ被
 リ表御門ヨリ入り裏御門ハ驅ケ通リタリ 其ノ起
 元ト理由ヲ知り得ズ
 大字 下新庄村 元祿高三百五十六石一斗七升
 七合九勺 文政改五百四十石 民家九十戸 文久

度四百十一石四斗四升五合七勺 内百四十石ニ斗
 九升八合七勺 水野壹岐守知行 二百七十一石
 一斗四合七勺 柴田七九郎知行 産物蘆菔美味
 大藏大明神社 トハ白駒ヲ祭ル 祭ルニ事欽キ
 白駒ヲ祭ルノ理由ヲ聞ケバ保元年中ノ事トカヤ
 領主梶ノ鏡櫃ニ白包老駒ノ跳リ入りタルヲ見テ
 吉瑞トシテ之ヲ祭レルニ起因シタリトゾ 森林長
 十二間幅八間ノ除地ハ古來其ノ儘ノ仕來リ本社
 拜殿アリテ鳥居無シ
 妙高山西方寺 曹洞宗 二段ニ畝ノ除地ナリキ
 薬師堂本尊春日ノ作ト云フ 除地ニ段アリキ
 城山アリ 由緒不分明

京都府立総合資料館所蔵

大字	上新庄村	古高三百三十石四斗二升八合
改	四百三十五石四斗七升餘	
上下	新庄トモ平田ニシテ膏腴ノ地多シ因テ増税	
ヲ	迫ラル、丁年々其ノ煩ニ堪エザリシトゾ知行	
主	ハ稻垣長門守ト云フ旗士ナリキ	
若	王子社 高位大明神社 免除地甲ハ森林二十	
五	步乙ハ五步	
示	現山手光寺 曹洞宗 高二石四斗ノ除地アリ	
キ		
森	山城址 一名南部城 本莊長尾ナルモノ、居	
レ	リ	所

京都府立総合資料館所蔵



京都府立総合資料館所蔵